海竜寺Ⅱ遺跡

―板鼻スポーツ広場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

2019

群馬県安中市教育委員会有限会社毛野考古学研究所

海竜寺Ⅱ遺跡

―板鼻スポーツ広場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

2019

群馬県安中市教育委員会有限会社毛野考古学研究所



調査区遠景(南から)





M-6号溝出土石塔

口絵2



H − 1 号住居址カマド



H-2号住居址カマド

例 言

- 1 本書は安中市教育委員会教育部体育課が計画した板鼻スポーツ広場建設事業に伴う海竜寺Ⅱ遺跡 (遺跡略称: E-7)の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 海竜寺Ⅱ遺跡は安中市板鼻字海竜寺 1272 1、1273 1 および 1287 1 に所在する。
- 3 発掘調査及び遺物整理は安中市教育委員会の負担により、平成 29・30 年度に安中市教育委員会の 指導・監理のもと有限会社毛野考古学研究所が実施した。
- 4 発掘調査は、伊藤順一・山本杏子・田村貴広(有限会社毛野考古学研究所)が担当し、測量および空撮は小出拓磨(同)が行った。整理調査は土師器・須恵器の遺物実測を有山径世・渡辺博子(同)、土師器・須恵器の胎土観察を志村哲(同)、石器を土井道昭(同)、縄文土器・中世以降の遺物実測を伊藤、遺物写真撮影を井上太(同)、墨書土器の赤外線写真撮影を長井正欣(同)、編集を伊藤が行った。
- 5 発掘調査は平成 29 年 11 月 13 日から平成 30 年 2 月 9 日の期間で実施した。遺物整理および報告 書作成は平成 30 年 4 月 2 日から平成 31 年 3 月 22 日の期間で実施した。
- 6 本書の執筆は I − 1 を井上慎也(安中市教育委員会)、Ⅲを南田法正(有限会社毛野考古学研究所) VI − 2 を有山、VII − 3 を壁崇志(安中市教育委員会)、他を伊藤が行った。
- 7 本書に関わる資料は一括して安中市教育委員会が保管している。
- 8 現地調査から報告書作成に至るまで外山政子・三浦京子両氏に多大なるご教示をいただいた。
- 9 出土した人骨については楢崎修一郎氏(生物考古学研究所)に御教示いただいた。
- 10 発掘調査・整理調査に関わった方々は次のとおりである。

【発掘調査】 生駒朝男 今井保美 岩井英雄 岩坂康男 大沢早知子 楠本正樹 小屋洋子 阪西武 清水正 新開昌代 竹井五郎 多胡栄夫 多胡茂子 多胡わぐり 遠間輝夫 土佐庸好 永井述史 中島徹 野口義則 原田道明 村瀬希久雄 村椿健 湯本久江

【整理調查】 池内麻美 鬼形敦子 小野沢絹子 下條真美代 瀬尾則子 竹中美保子 真下弘美

11 発掘調査および整理調査の期間中下記の方々にご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。

秋元太郎 合田幸美 笹森健一 笹森紀己子 佐野享介 清水豊 早田勉 中島良農夫(板鼻5区区長) (株)野口組

凡例

- 1 遺構の実測図は、住居址・土坑・掘立柱建物址・溝・配石遺構 1/80、カマド 1/40 を基本とした。
- 2 遺構図中の北マークは座標北である。座標は世界測地系を使用した。
- 3 遺物実測図の縮尺は1/4を基本とした。なお、遺物のサイズに応じて縮尺を変更したものについては図中に個別にスケールを付した。
- 4 遺構図・遺物実測図に示したトーンは個別に凡例を示した。
- 5 土層説明中での記号、略称は次のとおりである。

しまり、粘性 ◎:強い ○:あり △:弱い ×:なし

混入物の量 ◎:大量(30~50%) ○:多量(15~25%) △:少量(5~10%)

※:微量(1~3%)

混入物 RP:ローム粒子(溶け込んだ状態) RB:ロームブロック(塊の状態)

YP:板鼻黄色軽石(As-YP)

6 本文・図面で示す火山灰の名称は以下の記号を用いた。 浅間 A 軽石 = As-A 浅間 B 軽石 = As-B 浅間 C 軽石 = As-C

榛名二ツ岳渋川テフラ = Hr-FA

7 遺構略称については以下のとおりである。

H:古墳時代以降の住居址 D:土坑 S:配石 M:溝 HT:掘立柱建物址 SP:ピット

- 8 遺物写真の縮尺は遺物実測図に合わせてある。
- 9 住居主軸は、カマドのあるものについてはカマドの方位を、ないものについては長軸方向を基本とした。主軸方位は北を基準として方位を示した。
- 10 土師器・須恵器の遺物観察表中における胎土の項目に示した記号については以下のとおりである。
 A. 透明石英 B. チャート C. 角閃石 D. 雲母 E. 片岩 F. 凝灰岩粒 G. 赤色岩粒 H. 骨針 I. 白色粒子 J. 赤色粒子 K. 泥岩 L. 長石 M. 頁岩 N. 安山岩粒 O. 角閃石安山岩
- 11 遺物出土量および住居址主柱穴トーンについては以下のとおりである。

< 遺物重量	量分布図~	マーク >						<ピットの深さ>
	10g	100g	1000g		1個	5個	10個	$\bigcirc: 0 \sim 19 \text{ cm}$
土師器坏系	•	•		鉄製品	♦	\Diamond	\Diamond	$20\sim39~\mathrm{cm}$
土師器甕系	•	•	•	石器(石製品)	A	•	•	$1.40 \sim 59 \text{ cm}$
須恵器坏系				石	•	•	•	. 40 33 till
須恵器甕系	0	0	0	粘土塊	+	+	+	一 :60 cm以上
羽釜	Φ	\oplus	\oplus	和上步	т	т	Т	
磁器	∇	∇	∇					
陶器	Δ	Δ	\triangle					

目次

口絵	2. 整理調査の方法 3
例言	Ⅲ 遺跡の地理的・歴史的環境 3
凡例	1. 地理的環境 3
目次	2. 歷史的環境 4
I 調査の経緯 1	IV 基本層序 ······ 5
1. 調査に至る経緯 1	V 検出された遺構 ······ 7
2. 調査の経過 2	1. 遺跡の概要 7
Ⅱ 調査の方法 2	2. 住居址 7
1. 発掘調査の方法 2	3. 土坑10

. In I I) what I I are a series	- LIII - Medil
4. 掘立柱建物址・ピット列 11	3. 中世の遺物 58
5. 溝11	VII 成果と問題点 ······97
6. 配石遺構	1. 海竜寺Ⅱ遺跡における遺構変遷97
7. ピット11	2. カマドについて99
VI 出土遺物	3. 中世の板鼻-海龍寺を中心として 100
1. 縄文時代の遺物 56	写真図版 1 ~ 24
2. 古墳時代・平安時代の遺物 56	抄録
 1	imi 🗆 Va
押	図目次
第1図 調査区域図	1 第 36 図 6 ~ 10 号ピット列実測図 42
第2図 安中市周辺地形図	
第3図 周辺遺跡分布図	
第4図 基本層序	
第5図 全体図	645
第6図 H-1号住居址実測図(1) ······	12 第 40 図 S-2・20 号配石遺構実測図・ピット位置図 (1) 46
第7図 H-1号住居址実測図(2)・H-2号住居址実測図(1) …	13 第 41 図 ピット位置図 (2) 47
第8図 H-2号住居址実測図(2)・H-3号住居址実測図(1) …	
第9図 H-3号住居址実測図(2)・H-4号住居址実測図(1) …	15 第 43 図 住居址出土遺物 (1)
第 10 図 H — 4 号住居址実測図 (2) ······	16 第 44 図 住居址出土遺物 (2)
第 11 図 H — 5 号住居址実測図 (1) ·····	
第 12 図 H- 5 号住居址実測図 (2)・H- 6 号住居址実測図 (1)	18 第 46 図 住居址出土遺物 (4) 63
第 13 図 H — 6 号住居址実測図 (2) ······	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •
第 14 図 H – 7 号住居址実測図 (1) ······	
第15図 H-7号住居址実測図(2)・H-8号住居址実測図	
第 16 図 H — 9・10 号住居址実測図 ······	
第 17 図 H- 11 号住居址実測図・H- 12 号住居址実測図 (1)	
第 18 図 H — 12 号住居址実測図 (2)・H — 13 号住居址実測図 (1)…	· · ·
第 19 図 H — 13 号住居址実測図 (2)	
第 20 図 D — 1 ~ 8 号土坑実測図	* *
第 22 図 D - 25 ~ 35 · 45 · 46 号土坑実測図 ····································	7.
第 23 図 D - 36 ~ 43 · 47 ~ 51 号十坑実測図 ····································	
第 24 図 D - 52 · 53 · 55 ~ 59 · 61 号土坑実測図 ····································	
第 25 図 D- 60・62・63・65 ~ 70・134・135・138 号 土坑実測	
第 26 図 D - 72 ~ 82 号土坑実測図 ·····	• ,
第 27 図 D - 83 ~ 87・91・92・94・95 号土坑実測図	
第 28 図 D- 96 ~ 106・108・140 号土坑実測図	34 第 63 図 遺構外出土遺物 (2)
第 29 図 D — 107・109 ~ 119 号土坑実測図 ·····	
第 30 図 D- 120 ~ 126・130・133・136 号土坑実測図	
第 31 図 D- 142・143・145・147 ~ 149 号土坑実測図	
第 32 図 HT- 1・2・4 号掘立柱建物址実測図	
第 33 図 HT- 3・5・6・8 号掘立柱建物址実測図	* *
第 34 図 HT- 7・9 ~ 11 号掘立柱建物址実測図	
第 35 図 1 ~ 5 号ピット列実測図	41 第 70 図 海竜寺 Ⅱ 遺跡位置図 105

表目次

第1表 遺構観察表(1)49	第 15 表 遺物観察表(7)86
第2表 遺構観察表(2)50	第 16 表 遺物観察表(8)87
第3表 遺構観察表 (3)51	第 17 表 遺物観察表(9)
第 4 表 遺構観察表 (4)52	第 18 表 遺物観察表(10)
第 5 表 遺構観察表 (5)53	第 19 表 遺物観察表(11)90
第6表 遺構観察表 (6)54	第 20 表 遺物観察表(12)91
第7表 遺構観察表 (7)55	第 21 表 遺物観察表(13)92
第8表 遺構観察表(8)56	第 22 表 遺物観察表(14)93
第9表 遺物観察表(1)80	第 23 表 遺物観察表(15)94
第 10 表 遺物観察表(2)	第 24 表 遺物観察表(16)95
第 11 表 遺物観察表(3)82	第 25 表 遺物観察表(17)96
第 12 表 遺物観察表(4) 83	第 26 表 遺物観察表(18)97
第 13 表 遺物観察表(5)84	第 27 表 カマド計測値 … 100
第 14 表 遺物観察表(6)85	
写真図]版目次
図版 1 調査区全景(上が南東)	D-3号土坑 (北から)
図版 2 H-1号住居址(西から)	D-18号土坑(南東から)
H-1号住居址カマド燃焼室(西から)	D-28・29・30号土坑(南から)
H-1号住居址カマド煙道検出状態(南西から)	D - 44 号土坑 (南東から)
H-1 号住居址貯蔵穴遺物出土状態 (北西から)	D-49・50・51 号土坑 (南東から)
H-2号住居址(南東から)	D-53 号土坑土層断面 (南東から)
H-2号住居址遺物出土状態 (南東から)	D - 75 号土坑 (南東から)
H-2号住居址カマド遺物出土状態(南東から)	図版 8 D-81号土坑(南東から)
H-2号住居址カマド支脚出土状態(南東から)	D-83 号土坑 (南から)
図版 3 H-3号住居址(南西から)	D — 103 号土坑 (南東から)
H – 4 号住居址 (北東から)	D-107 号土坑 (南東から)
H-4号住居址カマド (北東から)	M-1・3・6・8・10 号溝、D-53 号土坑 (上が北西)
H-4号住居址遺物出土状態 (北東から)	図版 9 M-1号溝(南西から)
H – 4 号住居址遺物出土状態 (北から)	M-6・8号溝(南東から)
H – 4 号住居址遺物出土状態 (北から)	M-6号溝遺物出土状態 (南から)
H – 5 号住居址 (南東から)	M-6号溝遺物出土状態 (北から)
H-5号住居址カマド(南東から)	M-6号溝遺物出土状態 (北西から)
図版 4 H-6号住居址(西から)	M-9号溝(北東から)
H – 6 号住居址カマド (西から)	S-1号配石(南東から)
H – 7 号住居址 (北西から)	S-4号配石(東から)
H-7号住居址カマド (北西から)	図版 10 S-2号配石(上が北西)
H-7号住居址土層断面 (西から)	S-5号配石(東から)
H-7号住居址貯蔵穴(北西から)	S - 6 号配石 (西から)
H – 8 号住居址 (西から)	S — 15 号配石 (東から)
H – 8 号住居址カマド (西から)	S — 23 号配石 (南西から)
図版 5 H-9号住居址(南から)	図版 11 H-1号住居址出土遺物
H-9号住居址遺物出土状態 (南から)	図版 12 H-2・3号住居址出土遺物
H- 10 号住居址 (南から)	図版 13 H-4号住居址出土遺物 (1)
H- 10 号住居址炉 (北から)	図版 14 H-4号住居址出土遺物 (2)・H-5号住居址出土遺物 (1)
H- 11 号住居址 (北西から)	図版 15 H-5号住居址出土遺物 (2)
H- 11 号住居址カマド (北西から)	図版 16 H-6号住居址出土遺物・H-7号住居址出土遺物 (1)
H- 12 号住居址 (南から)	図版 17 H-7号住居址出土遺物 (2)・H-8・9号住居址出土遺物
H- 12 号住居址遺物出土状態 (南から)	図版 18 $H-10\sim12$ 号住居址出土遺物 $\cdot H-13$ 号住居址出土遺物 (1)
図版 6 H-13号住居址(南西から)	図版 19 H-13号住居址出土遺物 (2)
H- 13 号住居址カマド (南西から)	図版 20 土坑出土遺物 (1)
H-13 号住居址遺物出土状態 (南から)	図版 21 土坑出土遺物 (2)
H-13 号住居址床下土坑 (南西から)	図版 22 配石遺構出土遺物 (1)
掘立柱建物址群 (北東から)	図版 23 配石遺構出土遺物 (2)・溝・ピット (掘立柱建物址)出土遺物
図版 7 D-1号土坑(南から)	図版 24 遺構外出土遺物

Ⅰ 調査の経緯

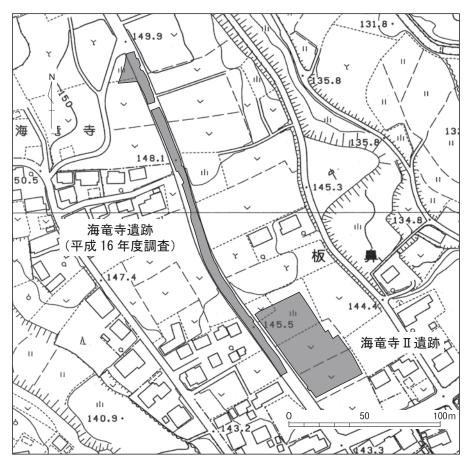
1 調査に至る経緯

平成29年4月26日、安中市教育委員会教育部体育課から板鼻スポーツ広場建設事業に伴う埋蔵文化財の状況について文化財保護課へ照会があった。同年4月27日、照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地(市 No. 369)内にあり、平成16年度に発掘調査された海竜寺遺跡の隣接地であることから、遺構が存在する可能性が十分考えられ、開発にあたっては埋蔵文化財の取り扱いについて文化財保護課と協議が必要である旨の意見書を提出した。その後、体育課との協議を重ねた結果、計画を変更することは現実的には困難な状況であり、工事方法の見直し等によっても、遺構への影響が避けられないとの結論に達した。そこで、事業実施に先立ち、工事によって影響を被る部分を対象に発掘調査による記録保存の措置を講じることで体育課と調査期間、調査費等の調整を進めることとなった。

同年9月12日付けで、必要書類(文化財保護法第94条通知)が提出され、通知に対して同年9月15日付けで体育課へ発掘調査の勧告を行った。

発掘調査については、体育課と調査への対応を協議した結果、文化財保護課の直営での発掘調査は、体制的に対応が困難である状況から、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財発掘調査における 民間調査組織事務取扱要綱」に基づき、登録民間調査組織に発掘調査全般を依頼することになった。

同年9月25日付けで体育課より発掘調査の依頼書が提出され、登録民間調査組織を選定後、同年10



第1図 調査区域図

月10日付けで開発者(市 教育委員会体育課)、登 録民間調査組織(有限会 社毛野考古学研究所)、 市教育委員会(文化財保 護課)で三者協定を締結 し、必要書類(文化財保 護法第92条関係)の届 出、調査準備等を行い、同年11月13日から平 成30年2月9日の期間 で本発掘調査を実施し た。

資料整理及び報告書作成については、発掘調査と同様、三者協定を締結し、平成30年4月2日~平成31年3月22日の期間で実施した。

2 調査の経過

(1) 発掘調査の経過

(2) 資料整理の経過

資料整理は平成30年4月2日から平成31年3月22日の間で行った。

4月期:遺物洗浄・注記を行う。遺構ごとに遺物を器種分類しそれぞれの重量計測を行う。5月期:遺物の接合・復元を行う。遺構図の修正及びデジタルトレースを行う。6月期:遺物の接合・復元および遺構図の修正・デジタルトレースを継続する。7月期:遺物の接合・復元を継続する。掲載遺物を選別し写真撮影を開始する。8月期:遺物の接合・復元を継続する。遺物写真撮影を継続する。遺構図の修正およびデジタルトレースを継続する。9月期:遺物写真を掲載用に加工する。遺物実測を開始する。遺構図の修正およびデジタルトレースを継続する。10月期:遺物実測を継続する。11月期:遺物実測を継続する。12月期:遺物実測を継続する。遺物実測図のトレースを開始する。平成31年1月期:遺物トレースを継続する。報告書原稿執筆および編集を開始する。2月期:報告書編集作業を継続する。報告書データを入校した後校正を行う。3月期:校正を行う。印刷・製本を行う。

Ⅱ 調査の方法

1 発掘調査の方法

発掘調査の方法および手順は安中市の調査で採用している方法を原則として行った。詳細については 安中市において既報の報告書を参照願いたい。

発掘調査は調査区を設定後、バックホー (0.7㎡) で遺構確認面 (基本層序第 VI 層) まで掘削し、人力で鋤簾を用いて遺構確認を行った。検出された遺構については、遺構ごとに遺構略称と番号を付し、遺構の内容に応じた精査を行い、遺構埋没状態及び遺物出土状態・完掘状態など調査状況に即して写真撮影を行った。写真撮影には 35mm 判のフィルムカメラ (FM2:モノクロ・リバーサル) と 1,200 万画素相当のデジタルカメラを使用した。遺構測量は基準点を設定したのち、平面図はトータルステーション、断面図は基準点からの測り込みで行った。遺構調査終了後、ドローンを用いて空撮を行った。

2 整理調査の方法

整理調査は、遺構図の修正を行いトレース原図を作成し Adobe Illustrator CS2 を用いてデジタルトレースを行った。出土遺物は洗浄・注記後に遺構単位で器種分類を行い、重量計測を行った。その後接合・復元を行い接合にはセメダイン C を用い必要に応じてエポキシ系樹脂で補強・復元を行った。遺物の写真撮影には Nikon D750 を使用した。写真データにはそれぞれ番号を付し整理した後 Adobe Photoshop CS6 を使用して縮尺の変更・トリミングを行った。原稿執筆及び編集には Adobe InDesign CS2 を用いた。

Ⅲ 遺跡の地理的・歴史的環境

1 地理的環境

安中市の西端は長野県境であり、鼻曲山 (1655m)を中心に連なる南北長約 25km の尾根筋を形成する。 その南東には妙義山一帯の山塊があり、北東に榛名山がそびえる。両山の間の山地には、霧積山・剣の峰・留夫山などを源流とする碓氷川や九十九川がおよそ南東方向へ流下し、安中台地や横野台地などの河岸段丘を発達させている。これらの山地・丘陵帯と榛名山との間には、いわゆる深谷断層(関東北西縁断層帯)の北西端部が走行し、鼻曲山北側を源流とする烏川は断層と並走しながら南東流する。

烏川と碓氷川の合流点より西には八幡台地(高崎市)が広がり、大谷津川が開析した比高 24 mの深い谷によって秋間丘陵と分断される。本遺跡のある板鼻地域および字海竜寺一帯は、秋間丘陵南東端部に位置する広大な緩斜面で、東西を小河川によって限られるため、南北に長い台地面を形成している。



(縮尺 40 万分の1、国土地理院発行 20 万分の1 地形図を改変)

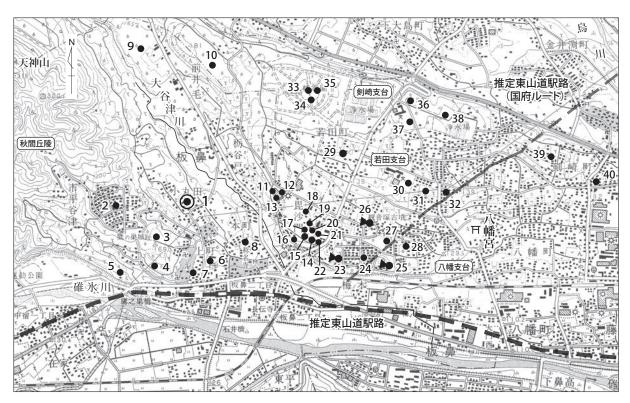
第2図 安中市周辺地形図

2 歴史的環境

本遺跡周辺の秋間丘陵東端部と、八幡台地の遺跡を中心に、主要遺跡を通時的に列記しておく。

本遺跡の西側 200 mに位置する古城遺跡 (2) では、AT下位においてナイフ形石器や局部磨製石 斧等を含む後期旧石器時代の石器が多数出土しており、複数のユニットが確認されている。

縄文時代では、剣崎長瀞西遺跡 (38) において草創期の爪形文土器・多縄文土器・有舌尖頭器などが出土している。古城遺跡では前期前葉~後葉・後期前葉の土器が出土している。台地内の最高所にある若田原遺跡 (34) では、前期末葉の住居址1軒、後期初頭の柄鏡形敷石住居址2軒、中期後葉の住居址が20軒以上という構成で、拠点的環状集落であると推測される。剣崎稲荷塚遺跡 (39) も前期後葉と中期後葉を主体とした拠点集落の可能性が高い。また、本遺跡 (1、平成15年度調査) においては、中期末葉の柄鏡形敷石住居址を1軒確認している。



第3図 周辺遺跡分布図 (国土地理院発行25.000分の1図「富岡」「下室田」を改変)

1. 海竜寺 II 遺跡 (本報告書) 2. 古城遺跡 3. 板鼻城 4. 市 No.1138 (遠見石) 5. 鷹ノ巣出丸 6. 小丸田曲輪 7. 板鼻 4 号墳 (道場塚) 8. 稲荷木遺跡 9. 板鼻 2 号墳 (井ノ毛塚) 10. 板鼻 3 号墳 (銚子塚) 11 ~ 13. 市 No.1130 ~ 1132・屏風岩遺跡 (板鼻古墳群) 14. 板鼻 1 号墳 (立的塚・荒木塚) 15. 市 No.1123 16 ~ 20. 市 No.1126・No.1127・No.1129・No.1128・No.1125 (板鼻古墳群) 21・22. 市 No.1124・No.1122 23. 平塚古墳 24. 八幡遺跡 25. 八幡二子塚古墳 26. 観音塚古墳 27. 四ノ市遺跡 28. 八幡六枚遺跡 (「片罡郡」刻印須恵器甕出土) 29. 若田屋敷裏 I・II 遺跡 30. 八幡中原遺跡 (第 1 次) 31. 八幡中原遺跡 (第 3 次・第 5 次) 32. 七五三引遺跡 33. 楢ノ木古墳 34. 若田原遺跡 35. 若田大塚古墳 36. 剣崎長瀞西古墳 37. 大島原遺跡 38. 剣崎長瀞西遺跡 39. 剣崎稲荷塚遺跡 40. 剣崎天神山古墳

弥生時代では、八幡遺跡(24)・引間遺跡および烏川右岸の観音山丘陵上に位置する少林山台遺跡に おいて、後期樽式期から古墳時代初頭にかけての集落が営まれ、それぞれ数基の礫床墓を伴う。

古墳時代になると、八幡台地南西崖一帯に板鼻古墳群が築造され、立的塚古墳(14、板鼻1号墳・ 荒木塚)は帆立貝形古墳とも言われている。本古墳群の東には、5世紀後半の平塚古墳(23)・6世紀 前半の八幡二子塚古墳(25)・6世紀末~7世紀初頭の観音塚古墳(26)に代表される八幡古墳群が展 開する。台地北側では、5世紀後半の大型円墳である剣崎長瀞西古墳(36)や剣崎・若田原各古墳群 が築造される。本遺跡から栃谷戸を北上すると、板鼻2号墳(9、井ノ毛塚)と板鼻3号墳(10、銚 子塚)が存在する。

古墳時代の集落としては、本遺跡(平成15年度調査)で前期の住居址2軒、5世紀後半~6世紀初頭の住居址が9軒調査されている。剣崎長瀞西遺跡と大島原遺跡(37)では古墳中期の住居址が合わせて60棟以上確認されており、特に前者での韓式系土器の出土と馬埋葬土坑が注目される。

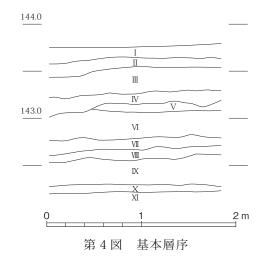
八幡中原遺跡 (30~32) は古墳時代中期・後期から古代にかけての大集落で、基壇状遺構や巨大な 礎石が検出されたことから、七五三引遺跡 (32) とともに片岡郡家に比定されている。東山道駅路の 推定国府ルートは、八幡台地を北東-南西方向で横断し、板鼻1丁目辺りを通過するらしい。駅路推定 位置に近い剣崎稲荷塚遺跡では、11世紀代の金銅製神像が出土している。

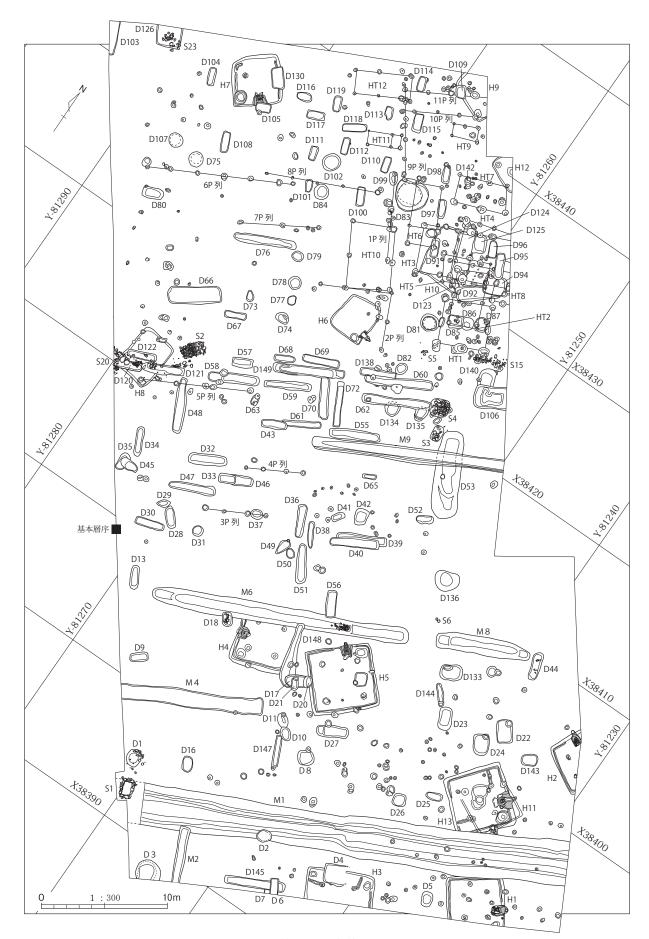
八幡宮は上野介源頼信が 10 世紀半ば頃に勧請したと伝えられ、板鼻に至る一帯には八幡荘が成立した。鎌倉期には安達氏の守護所が板鼻に設置されていたようで、その後八幡荘は新田氏一族の所領となる。室町・戦国期には板鼻は上杉氏の拠点となっていたようで、16 世紀初頭には上杉顕定の生母の回忌法要が海竜寺で行われている。周囲には古城遺跡の館跡(14~15 世紀代)や板鼻城(3、戦国期)、鷹ノ巣出丸(5)などの城館が集中する。近世には中山道が整備され、板鼻宿は上州の中では最大規模の宿場であった。

IV 基本層序

調査区南西壁中央付近で基本層序の確認を行った。 I 層は暗褐色土で現代の耕作土である。 II 層は As-A を大量に含む暗褐色土である。 II 層は黒褐色土で As-A と As-B が混在する。 IV 層は黒褐色土で As-B を大量に含む。 V 層は褐灰色土で As-B が一時堆積に近い状態で堆積していた。 V 層については調査区

全体で確認されたわけではなく調査区北西部のみで確認された。VI層は黒色土で As-C を含んでおり、本層位上面を遺構確認面として調査を行った。VII層は暗褐色土で褐色土ブロックを多く含む。本層位からは遺構の確認には至らなかったが縄文時代中期後半の遺物が出土した。 VII層はにぶい黄褐色土層で As-YP を微量に含む。ローム層へと至る漸移層と捉えられる。 IX層はローム層で As-YP を少量含む。今回の調査では本層位より下層からは遺構・遺物ともに検出されなかった。 X層は褐色土層、XI 層は灰黄褐色土層でいずれも As-YP を少量含んでいる。なお、M-1号溝や M-6号溝の壁面において本層位より下層で As-YP 層が確認された。





第5図 全体図

V 検出された遺構

1 遺跡の概要

海竜寺 II 遺跡は平成 16 年度に実施された海竜寺遺跡 (安中市教育委員会 2006)の南東側に近接する。今回の調査では住居址 13 軒、掘立柱建物址 12 棟、ピット列 (柵列) 11 条、土坑 131 基、溝 6 条、配石遺構 9 基、ピット 479 基(掘立柱建物址・ピット列含む)が検出された。各時代に関する概要は以下のとおりである。

縄文時代 遺構の検出には至らなかったが、基本層序™層から縄文時代中期後半に帰属する遺物が出土 した。海竜寺遺跡では同時期に帰属する柄鏡形敷石住居址が確認されている。

古墳時代 5世紀後半~6世紀初頭に帰属する竪穴住居址が10軒($H-1\sim5\cdot7\cdot9\cdot10\cdot12\cdot13$)確認された。 $H-1\cdot2\cdot4$ 号住居址ではカマドの遺存状態が良好で構造を知る上で好事例といえる。 遺物についても $H-2\cdot4\cdot7\cdot13$ 号住居址において良好な一括資料を得ることができた。

平安時代 9世紀後半から 10世紀前半に帰属する堅穴住居址が 3 軒 $(H-6\cdot8\cdot11)$ 確認された。 $H-6\cdot8$ 号住居址は主軸方位がほぼ一致するが、H-11 号住居址のみ異なる。

中世 埋没土に As-B を含む遺構を当該期とした。掘立柱建物址 12 棟、ピット列 (柵列) 11 条、井戸 6 基、配石遺構 9 基が該当する。出土した遺物から 15 世紀後半から 16 世紀前半に帰属するものと考えられる。 M-6 号溝からは朱墨により文字が書かれた石塔が出土しており特筆される。

近世 埋没土に As-A 多量遺構を当該期とした。As-A 降下以降の復旧溝が該当する。

2 住居址

〈住居址の帰属時期〉

出土した遺物から検出された住居址は以下の時期に帰属する。

5世紀後半:H-7・9・10・12 号住居址

6世紀初頭:H-1~5・13 号住居址

9世紀後半:H-6·11 号住居址

10世紀後半:H-8号住居址

〈住居址の概要〉

検出状態:確認された住居址は古墳時代と平安時代に大別される。各時代に限ってみると近接した箇所に位置する住居址があるが重複は認められない。また、古墳時代の住居址については5世紀後半に帰属するものが調査区北側に、6世紀初頭に帰属するものが調査区南側に分布する状況が看取され時代毎における分布の差が認められる。

5世紀後半に帰属する住居址の概要

H-7号住居址は埋没土中にHr-FAの一次堆積層が確認された住居址である。カマドは南東壁の中央に付設されており黄橙粘質土を構築材とし、焚口天井部及び袖部には河原石を芯材として用いていた。燃焼室天井部は破壊されていたが、側壁の被熱が顕著に認められた。貯蔵穴(D 1)は南側コーナーに位置する。主柱穴は検出されなかった。壁周溝は北東・南西壁において検出された。遺物は大量に出土しており、特にカマド周辺及び住居址中央部に集中する傾向が認められた。

H-9号住居址は調査区北端部において検出された。1/2程が調査区外に及ぶため全容は不明である。

貯蔵穴と考えられる土坑が 1 基(D 1) 南東コーナー部において検出された。遺物はその周囲から集中して出土した。柱穴はピットが 1 基(P 1)検出されているが深度が浅い。床面において台石と考えられる約 30cmの扁平な河原石が 2点出土した。

H-10号住居址は後世の遺構による削平が著しく残存状況は不良であった。主柱穴と考えられるピットが3基 $(P1\sim3)$ 検出されている。本住居址では住居址中央やや北よりの位置で炉跡が検出された。炉跡が認められた住居址は今回の調査においては本遺構のみである。

H-12 号住居址は調査区北端部に位置する。調査区外に 2/3 程が及ぶため全容は不明である。埋没土中には Hr-FA をブロック状に含む。消失家屋と考えられ、屋根材と考えられる炭化物が大量に出土している。出土した遺物の中には消失による屋根材の落下によって破壊された状況を呈しているもの(土師器坏 (2))もあった。

 $H-9 \cdot 12$ 号住居址は炉を伴うH-10 号住居址と東西軸がほぼ一致することを考慮するとカマドではなく炉を伴っていた可能性も考えられよう。それは、カマドを伴うH-7 号住居址の主軸方向が他の3軒と異なるという点からも首肯され得るのではないかと考える。また、H-7 号住居址はカマドを伴う事例としては今回の調査においては最古段階に位置するものである。

6世紀初頭に帰属する住居址の概要

H-1 号住居址は南東壁が調査区外に範囲が及ぶ。カマドは北東壁に付設されていた。遺存状態が極めて良好で黄橙粘質土を構築材とし焚口天井部には凝灰岩を、袖部には河原石を芯材として用いていた。煙道はほぼ破損がない状態で検出された。主柱穴は 4 本確認されており、壁周溝は検出された範囲においては全周していた。貯蔵穴(D1)は東コーナーに位置する。遺物はカマド燃焼室内及び周辺に集中する傾向が認められた。

H-2号住居址は 1/2 程が調査区外に及ぶ。焼失住居址と考えられ屋根材と考えられる炭化材が放射状に検出された。カマドは北西壁に付設されており焚口部は破損していたものの燃焼室や煙道は良好な状態で遺存していた。本住居址のカマドは他の住居址で検出されたカマドとは異なり構築材全体が著しく被熱しており焼土化が顕著であった。主柱穴は2基($P1\cdot 2$)検出されており壁周溝は調査範囲においては全周していた。遺物は住居址全体に散在していた。なお、カマド右側において小型甑(3)が直口壺(5)の上に乗せられた状態で出土した。

H-3 号住居址は 1/2 が調査区外に及ぶ。主柱穴は 2 基(P 1 • 2)検出されており、間仕切り溝と考えられる溝状の掘り込みが 3 箇所で確認された。

H-4号住居址は北西壁および北東壁の一部を削平されていた。消失住居址と考えられ屋根材と考えられる炭化材が検出されている。カマドは南西壁に付設されており、黄橙粘質土を構築材とし焚口天井部及び袖部には河原石を芯材として用いていた。また、カマド構築材に用いている粘質土と同様の粘質土を壁に貼り付けた状態が認められた。これについては壁の補強に用いたとも考えられるが、カマド右側において出土した甕(3)が粘質土に貼り付け固定されたような状態で正位で出土している点を鑑みると一概に補強のみに用いただけとは断定できない。この箇所からはそのほか、小型甑(9・10)や須恵器□もまとまって出土している。主柱穴は4基($P1\sim P4$)検出されており、貯蔵穴(P1)は南側コーナーで検出された。壁周溝は検出された範囲においては全周していた。

H-5号住居址はH-4号住居址に近接した箇所に位置する。カマドは北西壁やや北寄りに位置し、 黄橙粘質土を構築材とし焚口天井部及び袖部には河原石を芯材として用いていた。燃焼室および煙道側 壁は被熱が顕著に認められた。主柱穴は 4 基(P $1\sim 4$)認められ、壁周溝は全周していた。貯蔵穴(D 1)は北側コーナーに位置していた。遺物はカマド周辺において集中する傾向が認められた。

H-13 号住居址はH-11 号住居址と重複し切り合い関係及び出土遺物から本遺構が古い。カマドは北東壁に付設されており黄橙粘質土を構築材とし焚口天井部及び袖部には河原石を芯材として用いていた。燃焼室では火床面が明瞭に確認された。主柱穴は4 基(P $1\sim4$)検出されており壁周溝は南西壁の中央部を除き廻っていた。また、間仕切り溝と考えられる溝状の掘り込みが2 箇所で認められた。貯蔵穴は東コーナーに位置する。遺物が大量に出土しており特に住居址中央部に集中する傾向が認められた。また、床下土坑が2 基(D 2 \cdot 3)検出されている。

9世紀後半に帰属する住居址の概要

 $H-6\cdot 11$ 号住居址が該当する。両遺構ともに主柱穴は検出されなかった。カマドはH-6 号住居址は東壁に、H-11 号住居址は南東壁に付設されていた。古墳時代のカマドとは異なり燃焼室及び煙道部に河原石による芯材を用いていた。H-6 号住居址ではカマド右側に浅い土坑状の掘り込み(D1)が検出されており貯蔵穴と考えられる。

10世紀後半に帰属する住居址の概要

調査区中央西側で検出された。H-8号住居址が該当する。今回の調査で検出された当該期の遺構は本住居址のみである。東壁やや南寄りにカマドは付設されていた。袖部の芯材には河原石が用いられていた。貯蔵穴と考えられる土坑が1基南東コーナーにおいて検出された。

〈古墳時代の住居内施設について〉

貯蔵穴: 5世紀後半に帰属するH-7号住居址ではカマド右側に位置し、床面からの深度は 1.28 m を測る。貯蔵穴上部には蓋を置くための施設と考えられるテラスが認められた。 6 世紀初頭に帰属する $H-1\cdot 4\cdot 5\cdot 13$ 号住居址では位置と床面からの深度に差が認められた。まず位置であるが $H-1\cdot 5\cdot 13$ 号住居址ではカマド右側の近接した位置に貯蔵穴が検出されたのに対し、H-4 号住居址ではカマド左側のやや離れた位置に貯蔵穴が位置している。また、床面からの深度について $H-1\cdot 4\cdot 5$ 号住居址ではその平均深度が 0.70 mであるのに対し、H-13 号住居址では 1.20 mを測り、前段階の H-7号住居址とほぼ同じ値を示す。この貯蔵穴の位置や深度の差がどのような理由に起因するのか現段階では不明である。

カマド:今回の調査で5世紀後半~6世紀初頭に帰属する住居址において遺存状態の良好なカマドが多く検出された。これらのカマドでは共通点と相違点がそれぞれ認められる。まず、共通点としてはいずれのカマドも構築材には黄橙粘質土を用いて構築しているという点である。この構築材については住居址床下において検出される土坑において採取していることが判明している。焚口天井部及び袖部には芯材として河原石を用いている住居址が大半であった。H-1号住居址のみ焚口天井部の芯材に凝灰岩の切石を用いていた。また、支脚にはすべての住居址で高坏を逆位で用いていた。H-5号住居址では逆位で設置された高坏の下部にさらに坏1点を逆位で設置して使用していた。前述したが、H-2号住居址のカマドは他の住居址とは様相が異なりカマド構築材の被熱による焼土化が著しい。カマド焚口部は右側の芯材が抜き取られ破損した状態であったが、燃焼室は2個体の甕が設置された状態で検出された。右側の甕は袖部に食い込んだ状態で設置されており煮炊き用に用いた甕そのものをカマド補強のための部材として用いたことが想定される。また、カマド天井部中央には高坏や坏が正位で設置された

状態で出土しておりその状況からカマド廃絶時に設置された可能性が高いと考えられる。H-4号住居址についてはカマド構築材と同様の黄橙粘質土を住居址壁面にも貼り付ける形態をとっていた。他の住居址では同様の形態は認められなかったものの、カマド形態のバリエーションの一つとして捉えられよう。

床下土坑: H-13 号住居址で確認された ($D2\cdot 3$)。 これらの土坑はカマド構築材に用いている 黄橙粘質土と同様の粘質土が堆積する層位まで掘りこまれており、住居構築の際にカマド構築材に用いる粘質土採取のために掘削された土坑と考えられる。

3 土坑

131 基の土坑が検出され、埋没土に含まれるテフラから時期は大きく 4 時期($I \sim IV$)に分類される。また、時期による分類のほかに形態・遺物出土状態を加え 9 種類に分類される。

Ⅰ 埋没土に Hr-FA を含む土坑

D-130 号土坑が該当する。埋没土に Hr-FA の一時堆積層が確認された H-7 号住居址と重複し、長軸方位が一致することから H-7 号住居址に付随した施設の可能性も考慮されるが D-130 号土坑の掘り方の範囲が H-7 号住居址と想定される範囲を超えることから別の遺構と判断した。

Ⅱ 埋没土に Hr-FA・As-B を含まない土坑

D-31号土坑が該当する。遺物の出土が認められないため詳細な帰属時期については不明である。

Ⅲ 埋没土に As-B を含み As-A が含まれない土坑

- a) 井戸: $D-3\cdot75\cdot81\cdot83\cdot107$ 号土坑が該当する。なお、いずれの井戸址も安全面の配慮から底面の検出には至っていない。検出された井戸址は全て素掘りの井戸である。井戸の規模としては D-83 号土坑の直径が 2.64 mを測り今回調査した中では最も大型のものである。他の井戸址はおよそ $1.10\sim1.50$ mであった。遺物はかわらけや内耳鍋のほか、茶臼・穀物臼といった石製品が出土した。 D-3 号土坑では埋戻しの際に投棄されたと考えられる大量の礫が遺物と共に出土した。また、本遺構から出土した漆が塗布された茶臼(D3-3)は $S-2\cdot20$ から出土したものと接合が認められそれらの遺構の廃絶時期が一致する可能性が考慮される。
- b) 掘立柱建物址に伴う施設の一部:D-53 号土坑が該当する。後述する $M-6\cdot8$ 号溝間にある土橋と掘立柱建物址群を直線で結んだ線上に平行する状態で位置していることから掘立柱建物址を防御する施設であった可能性も考慮される。
- c)土壙墓: $D-18\cdot44$ 号土坑が該当する。D-18 号土坑はM-6 号溝と重複し切り合い関係から本遺構が新しい。人骨の遺存状態も良好で埋葬形態は横臥屈葬であった。また、人骨については 30 代・男性という所見を得ている。副葬品としてはかわらけや六道銭と考えられる銭貨が胸のあたりからまとまって出土した。D-44 号土坑は人骨の遺存状態が不良であったが、残存していた人骨の状態から埋葬形態は横臥屈葬であったと考えられる。副葬品は出土していない。
- d)配石遺構であった可能性のある土坑:D-1号土坑が該当する。S-1号配石と近接した箇所に位置することに加えて、土坑内からは他の配石遺構と同様の河原石が数点出土した。
- e) 竪穴状遺構:D-103号土坑が該当する。大半が調査区外に及ぶため詳細は不明であるが、遺構形態から竪穴状遺構の可能性が考慮される。
 - f) 性格不明の土坑: D-2・5・8・10・11・16・17・19~21・24・26・29・42・49・52・

63・73・74・77 ~ 80・82・84 ~ 87・94・99・102・106 号土坑が該当する。

IV 埋没土に As-A を含む土坑

D $-4 \cdot 6 \cdot 7 \cdot 9 \cdot 13 \cdot 22 \cdot 23 \cdot 25 \cdot 27 \cdot 28 \cdot 30 \cdot 32 \sim 34 \cdot 36 \cdot 38 \sim 40 \cdot 43 \cdot 46 \sim 48 \cdot 51 \cdot 54 \sim 62 \cdot 65 \sim 70 \cdot 72 \cdot 76 \cdot 91 \cdot 92 \cdot 95 \sim 98 \cdot 100 \cdot 101 \cdot 104 \cdot 105 \cdot 109 \sim 126 \cdot 138 \cdot 145 \cdot 147 \sim 149$ が該当する。これらの土坑は多くの平面形が隅丸長方形ないし楕円形を呈する。また、それぞれの位置関係についても平行ないし直行している点などを考慮すると機能が一致していた可能性が考えられる。埋没土に As-A 軽石が大量に含まれている点や他の遺跡の事例を鑑みると As-A を処理するための復旧溝(坑)であると考えられる。

4 掘立柱建物址・ピット列

調査区北部で 12 棟の掘立柱建物址を検出した。これらの掘立柱建物址には著しい重複が認められることから数度の建て替えが行われたことが想定される。また、柱穴埋没土には As-B が含まれていることから As-B 降下以降に帰属する建物といえる。検出された掘立柱建物址はすべて側柱式の形態をとっており、 $HT-6\cdot 11$ 号掘立柱建物址については庇が付属していたことを示す柱穴配列をとっていた。ピット列は 11 条確認された。これらは掘立柱建物址や後述する溝と平行ないし直行する走行方向をとっている点、柱穴埋没土に As-B を含んでいる点を考慮すると同時期に機能していた可能性が高いと考えられる。

5 溝

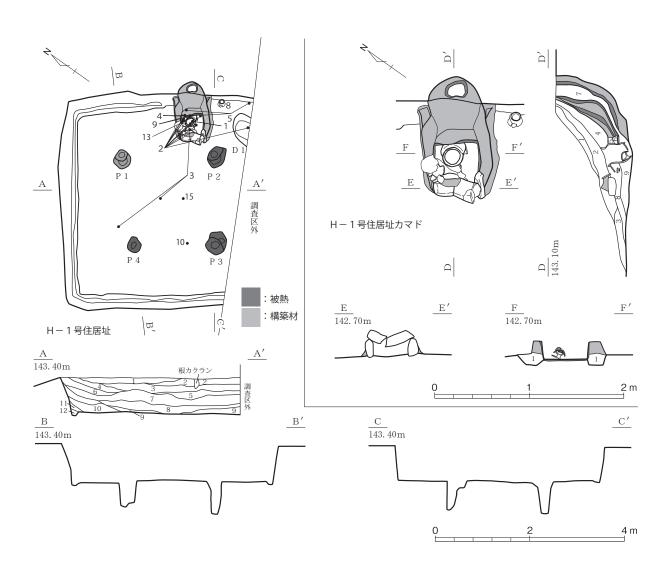
6条の溝を検出した。M-2号溝は溝として扱ったが、As-A降下に伴う復旧溝の可能性が高いと考えられる。また、M-4号溝についても深度が浅く他の溝とはやや様相が異なる。埋没土には As-Bを多く含んでいた。M-1号溝は南西-北東方向に直線的に走行する。S-1号配石と重複し切り合い関係から本遺構が古い。 $M-6 \cdot 8$ 号溝は両溝とも南西-北東方向の走行方向を示し同一線上に位置することから M-6号溝と M-8号溝の間は土橋として使用されていたことが想定される。M-9号溝は調査区中央北東側に位置する。北東-南西方向に走行し、D-53号土坑と重複する。切り合い関係から本遺構が新しい。 $M-1 \cdot 6 \cdot 8 \cdot 10$ 号溝は埋没土や出土遺物から前述の掘立柱建物址やピット列との有機的関係が強いと考えられる。

6 配石遺構

9基の河原石を用いた配石遺構を検出した。配石遺構は土坑状の掘り込みを伴うもの($S-1\sim4$ 号配石遺構)と平面的に石を集石したもの($S-5\cdot6\cdot15\cdot20\cdot23$ 号配石遺構)に分類される。埋没土及び覆土には As-B が含まれている。 S-1号配石遺構は平面形が長方形で土坑壁際に河原石を $2\sim3$ 段積んで構築されていた。

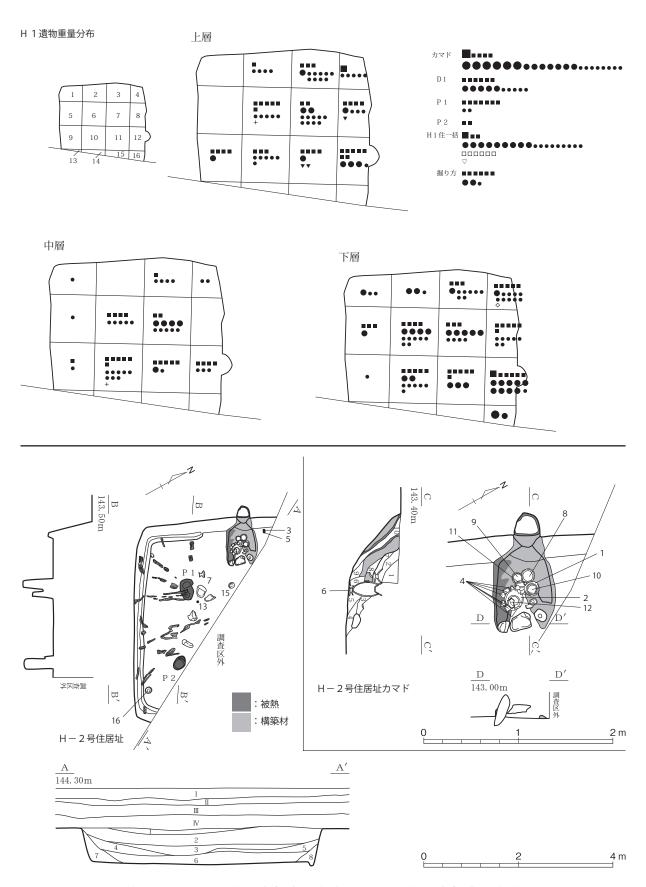
7 ピット

479 基のピットを検出した。 9 割以上のピットで埋没土に As-B を含んでいた。なお、ピット総数の中には掘立柱建物址・ピット列に伴うものも含まれている。



場はな	E A	Zz, ∃H	1 + 6	V I- 64-				混	入物				備考
遺構名	層番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	As-C	Hr-FA	As-B	炭	焼土	1個考
H1A-A'	1	灰褐(10YR4/2)	Δ	0	*	*	×	Δ	×	×	×	×	
	2	黒褐(10YR3/2)	\triangle	0	*	\times	×	*	\times	\times	\times	\times	
	3	黒褐(10YR3/2)	\triangle	0	\times	*	×	\triangle	×	×	*	*	
	4	黒褐(10YR3/1)	\triangle	0	\times	*	×	0	\times	×	\times	×	
	5	灰黄褐(10YR4/2)	\triangle	0	*	*	×	\times	\times	\times	\times	×	褐色土ブロック多量
	6	暗褐(10YR3/3)	\triangle	\circ	*	*	×	\circ	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	7	にぶい黄褐(10YR4/3)	\triangle	0	\times	\circ	\circ	*	\times	×	*	*	褐色土ブロック多量
	8	黒褐(10YR3/2)	0	0	×	*	0	×	×	×	*	*	黒色土ブロック少量 褐色土ブロック少量
	9	黒褐(10YR3/2)	\triangle	\circ	\triangle	\times	\triangle	×	×	×	\times	×	
	10	暗褐(10YR3/2)	\triangle	\circ	×	\triangle	\triangle	×	×	×	*	*	
	11	黒褐(10YR3/2)	\triangle	\circ	×	\times	\triangle	×	×	×	\times	*	
	12	黒褐(10YR3/2)	\triangle	\triangle	×	\times	\circ	×	×	×	\times	×	
H1D-D'	1	黒褐(10YR3/2)	\triangle	0	*	×	*	×	×	×	\times	×	
	2	灰黄褐(10YR4/2)	\triangle	\circ			\triangle	×	×	×	\times	*	
	3	黒褐(10YR3/2)	0	0	*	\times	*	\times	\times	\times	*	*	
	4	黒褐(10YR3/2)	0	0			×	\times	\times	\times	\times	\triangle	
	5	灰黄褐(10YR4/2)	0	\circ	\triangle	×	×	\times	×	×	×	\circ	
	6	にぶい黄褐(10YR7/4)	0	0	\times	×	×	\times	\times	×	\times	0	灰少量
	7	黒褐(10YR3/2)	\triangle	\circ	\triangle	\triangle	\triangle	\times	×	×	×	\triangle	
	8	黒褐(10YR3/2)	0	0	\triangle	\triangle	×	\triangle	\times	×	*	\triangle	
	9	灰黄褐(10YR4/2)	\triangle	\triangle	0	\circ	*	*	×	×	\triangle	\triangle	
H1F-F'	1	黒褐(10YR3/2)	0	\circ	×	\times	\circ	×	×	×	\times	×	第2層ブロック少量

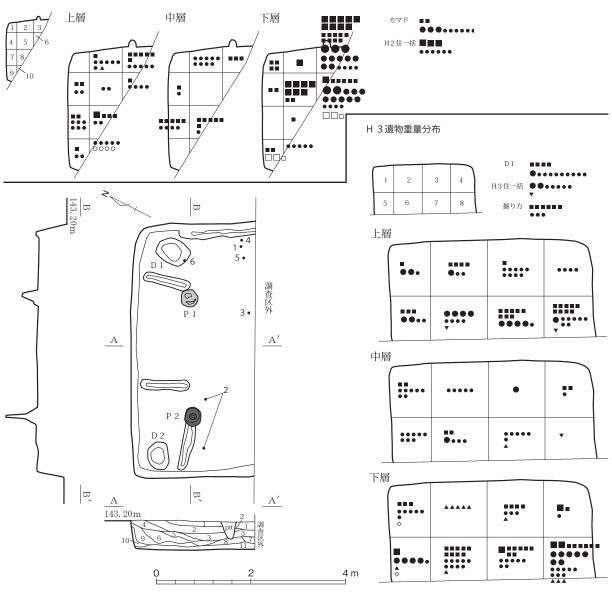
第6図 H-1号住居址実測図(1)



第7図 H-1号住居址実測図(2)・H-2号住居址実測図(1)

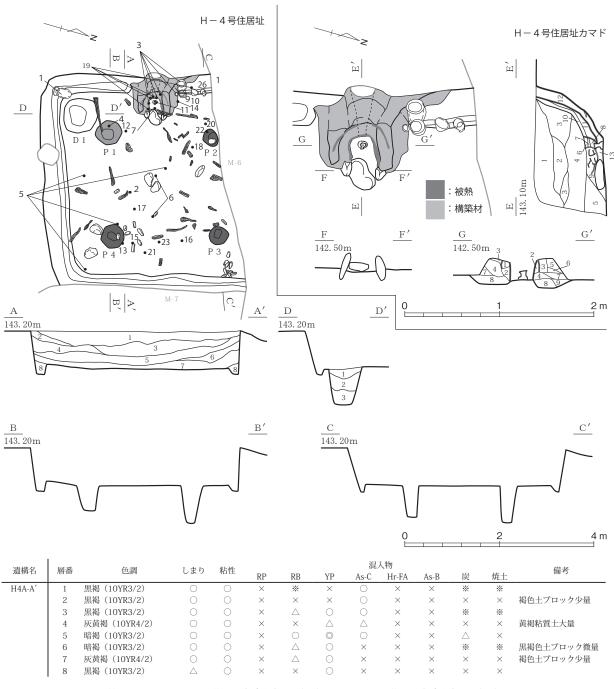
遺構名	層番	色調	しまり	粘性				混	入物				備考
退佣石	眉笛	巴詗	しより	柏注	RP	RB	YP	As-C	Hr-FA	As-B	炭	焼土	1佣-5
H2A-A'	1	黒褐(10YR3/2)	0	0	Δ	Δ	Δ	0	×	×	*	*	
	2	黒褐(10YR3/2)	0	\circ	\triangle	\triangle	*	0	×	×	\triangle	*	
	3	灰黄褐(10YR4/2)	0	0	\triangle	\triangle	*	0	\times	\times	\circ	*	
	4	灰黄褐(10YR4/2)	0	\circ	*	×	×	0	×	×	*	*	
	5	黒褐(10YR3/2)	0	0	*	*	*	0	\times	\times	\times	\times	
	6	黒褐(10YR3/1)	0	0	*	\triangle	*	0	\times	\times		\circ	
	7	褐色(10YR4/4)	\triangle	0	*	×	\circ	*	×	×	*	*	
	8	灰黄褐(10YR4/2)	\triangle	0	0	\triangle	*	*	\times	\times	\circ	*	
H2C-C'	1	黒褐(10YR3/2)	0	\circ	\times	×	*	\triangle	×	×	×	\triangle	
	2	灰黄褐(10YR4/2)	0	0	\times	\times	*	\times	\times	\times	\times	*	黄褐色粘質土微量
	3	黒褐(10YR3/2)	0	0	\times	\times	×	\times	\times	\times	\times	\triangle	黄褐色粘質土多量
	4	黒褐(10YR3/2)	0	0	\times	×	×	\times	×	×	*	*	黄褐色粘質土少量
	5	灰黄褐(10YR4/2)	\triangle	\triangle	*	\times	×	\times	\times	\times	*	\triangle	灰少量
	6	黒褐(10YR3/2)	\triangle	0	\times	\circ	×	\times	×	×	\triangle		
	7	黒褐(10YR3/2)	\triangle	0	\times	\times	×	\times	\times	\times	\times	\triangle	黄褐色粘質土少量
	8	黒褐(10YR3/2)	0	\circ	\times	×	×	×	×	×	×	\triangle	黄褐色粘質土多量
	9	黒褐(10YR3/2)	0	0	×	\times	×	\times	\times	\times	*	\circ	
	10	灰黄褐(10YR4/2)	\triangle	\circ	*	*	*	\triangle	×	×	*	*	

H 2遺物重量分布



第8図 H-2号住居址実測図(2)・H-3号住居址実測図(1)

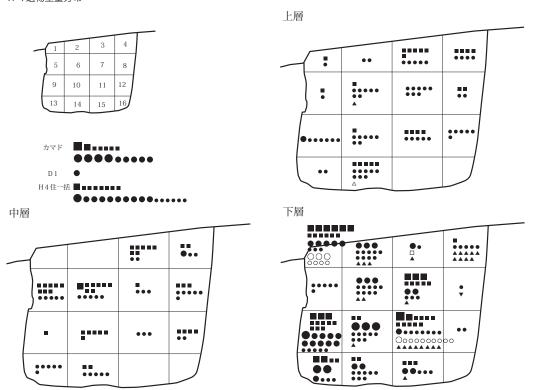
遺構名	EZ JE	色調	1 + 6	粘性				備考					
退愽石	層番	巴洞	しまり	和生	RP	RB	YP	As-C	Hr-FA	As-B	炭	焼土	1用与
НЗА-А′	1	黒褐(10YR3/1)	0	0	×	×	×	Δ	×	×	*	*	
	2	黒褐(10YR3/2)	0		×	*	×	\triangle	×	\times	\times	*	
	3	黒褐(10YR3/2)	0	0	×	×	*	\triangle	×	×	\times	*	褐色土ブロック少量
	4	黒褐(10YR3/2)	0	0	\times	*	\triangle	*	×	×	×	\times	
	5	黒褐(10YR3/1)	0	0	×	*	*	\triangle	×	×	\times	*	
	6	灰黄褐(10YR4/2)	0	0	\times	\triangle	\triangle	*	×	×	×	*	
	7	灰黄褐(10YR4/2)	0	0	×	\circ	\circ	\triangle	×	×	*	*	
	8	黒褐(10YR3/2)	0	0		\triangle	\triangle	×	×	×	×	*	
	9	黒褐(10YR3/2)	0	0	\times	\triangle	\triangle	×	×	×	×	\times	
	10	灰黄褐(10YR4/2)	0	0	*	×	*	\times	×	×	\times	×	
	11	灰黄褐(10YR4/2)	0		\triangle	\triangle	\circ	×	×	\times	\times	×	



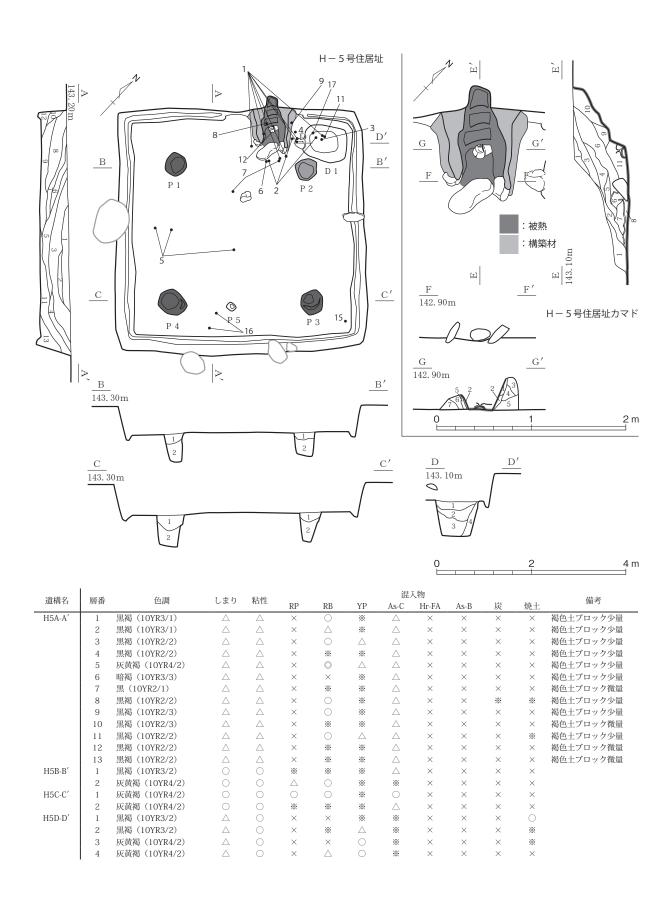
第9図 H-3号住居址実測図(2)・H-4号住居址実測図(1)

事性力	日本	左 □Ⅲ	しまり	粘性				混	入物				備考
遺構名	層番	色調	しまり	柏性	RP	RB	YP	As-C	Hr-FA	As-B	炭	焼土	佣考
H4D-D'	1	黒褐(10YR3/2)	Δ	0	×	*	*	×	×	×	×	×	
	2	黒褐(10YR3/2)	\triangle		*	×	\triangle	×	×	×	×	\times	
	3	黒褐(10YR3/2)	\triangle		×	\triangle	*	\times	\times	\times	\times	\times	
H4E-E'	1	黒褐(10YR3/2)	\triangle		×	×	*	*	×	×	×	*	褐色土微量
	2	暗褐(10YR3/3)	\triangle	\triangle	×	×	\triangle	\triangle	×	×	×	*	黒褐色土微量
	3	暗褐(10YR3/3)	\triangle	\triangle	×		\triangle	*	×	\times	\times	*	黒褐色土少量
	4	黒褐(10YR3/2)	\triangle	\triangle	×	*	\triangle	*	×	\times	*	*	
	5	黒褐(10YR3/2)	\triangle		*	*	\triangle	*	×	\times	*	*	
	6	灰黄褐(10YR4/2)	0		*	×	*	*	×	\times	*	*	
	7	黒褐(10YR3/2)	\circ		*	×	*	*	×	\times	*	\triangle	
	8	暗褐 (10YR3/3)	0		×	×	*	*	×	\times	*	*	
	9	灰黄褐(10YR4/2)	\circ		*	×	*	*	×	\times	\triangle	\triangle	
	10	黄橙(10YR7/8)	\circ		×	×	×	\times	×	\times	\times	×	カマド構築材
	11	灰黄褐(10YR4/2)	0		*	×	*	*	×	\times	×	*	
	12	黒褐(10YR3/2)	\circ		*	×	*	\circ	×	\times	*	*	
	13	暗褐(10YR3/3)	\circ		*	*	×	*	×	\times	\circ	0	
H4G-G'	1	灰白 (5Y8/2)	0		×	×		*	×	\times	×	\triangle	黒褐色粘質土多量
	2	橙(7.5YR7/6)	\circ	×	×	×	×	\times	×	\times	\times		燃焼室被熱層
	3	橙(7.5YR7/6)	0	\times	×	\times	\triangle	\times	\times	\times	\times	\times	黒褐色土少量
	4	灰黄褐(10YR4/2)	0		×	×		×	×	\times	×		黒褐色土少量
	5	黄褐((10YR5/8)	0		×	\times	\triangle	\times	\times	\times	\times	\times	黒褐色土少量
	6	黄褐(10YR5/8)		\circ	×	×	\triangle	\times	×	×	\times	×	被熱層
	7	にぶい黄褐(10YR7/4)		\circ	×	×	\circ	\times	×	×	\times	×	黒褐色土多量
	8	灰黄褐(10YR4/2)		\circ	×	×	\circ	\times	×	×	\times	0	黒褐色土多量
	9	灰黄褐(10YR4/2)	0	0	×	0	0	×	×	×	×	×	

H 4遺物重量分布

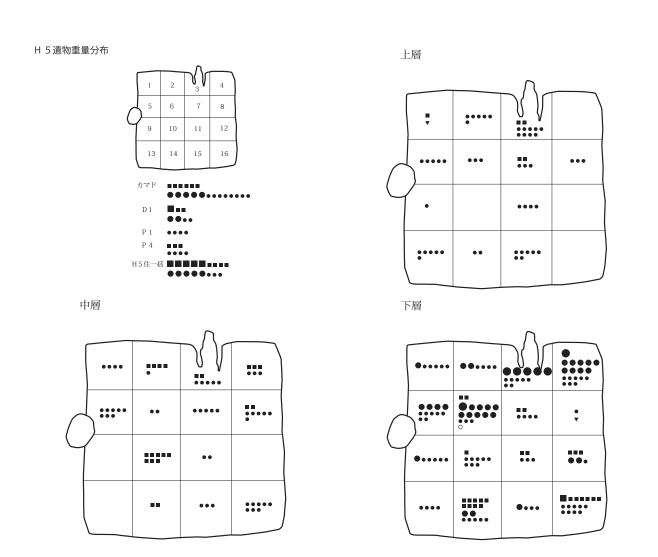


第10図 H-4号住居址実測図(2)

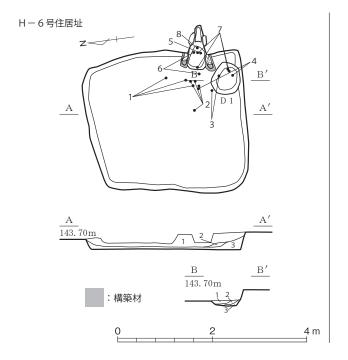


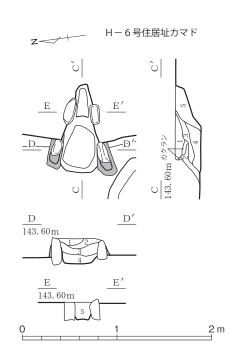
第11図 H-5号住居址実測図(1)

遺構名	層番	色調	しまり	粘性				混	入物				備考
退Ħ石	眉笛	巴酮	しより	怕狂	RP	RB	YP	As-C	Hr-FA	As-B	炭	焼土	1用"与
H5E-E'	1	黒褐(10YR3/2)	0	0	×	×	*	×	×	×	×	×	黄色粘質土微量
	2	黒褐(10YR3/2)	0	\circ	\times	\times	*	×	×	×	×	×	黄色粘質土少量
	3	黄橙(10YR7/8)	0		\times	\times	*	\times	×	\times	\times	×	カマド構築材多量
	4	黄橙(10YR7/8)	0		\times	\times	\circ	×	×	×	×	×	カマド構築材多量
	5	暗褐(10YR3/3)	0	0	\times	*	*	*	×	\times	\times	×	
	6	黒褐(10YR3/2)	0	\circ	\times	\times	*	*	×	×	×	×	
	7	暗褐(10YR3/3)	0	0	\times	\times	*	\times	×	\times	\times	*	黄橙色粘質土多量
	8	暗褐(10YR3/3)	0	\circ	\times	\times	*	*	×	×	×	*	
	9	灰黄褐(10YR4/2)	0	\circ	×	\times	\circ	\triangle	×	×	×	\triangle	黄橙色粘質土少量
	10	黄橙(10YR7/8)	0		\times	\times	×	\triangle	×	\times	\times	\circ	カマド構築材
	11	黄橙(10YR7/8)	0		\times	\times	×	\triangle	×	×	×	0	カマド構築材
H5G-G'	1	橙(5YR6/6)	0	\times	\times	\times	×	\times	×	\times	\times		被熱層
	2	橙(5YR6/8)	0	\times	\times	\times	×	\times	×	\times	*		被熱層
	3	褐(10YR4/4)	0	0	\times	×	×	*	×	×	×	*	カマド構築材
	4	暗褐(10YR3/3)	0	0	*	*	*	*	×	\times	*	*	
	5	灰黄褐(10YR4/2)	0	\circ	\triangle	*	\triangle	*	×	×	×	*	
	6	灰黄褐(10YR4/2)	0	0	*	*	*	*	×	\times	*	*	
	7	暗褐(10YR3/3)	0	0	*	\triangle	*	*	×	×	×	×	



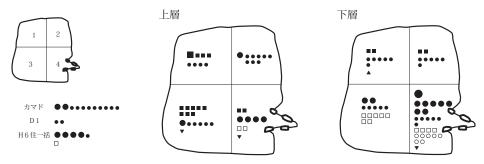
第12図 H-5号住居址実測図(2)・H-6号住居址実測図(1)



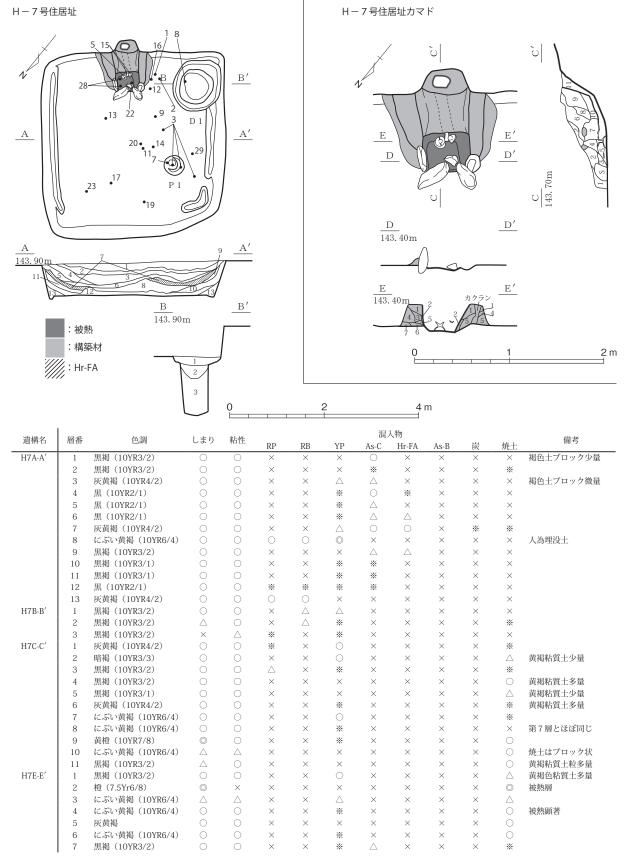


遺構名	層番	色調	しまり	粘性			備考						
7511711	/H H			711111	RP	RB	YP	As-C	Hr-FA	As-B	炭	焼土	C. mid
H6A-A'	1	黒褐(10YR2/2)	\triangle	Δ	×	×	×	0	×	×	×	*	
	2	褐灰(10YR4/1)	×	×	×	×	\times	×	×	×	×	×	根カクラン
	3	黒褐 (10YR3/1)	\triangle	\triangle	\times	×	\times	\triangle	×	×	×	*	灰黄褐ブロック微量
H6B-B'	1	灰黄褐(10YR4/2)	0		×	\triangle	×	*	×	×	×	*	
	2	黒褐 (10YR3/2)	0	0	\times	×	\times	*	×	×	×	*	
	3	灰黄褐(10YR4/2)	0		×	×	×	*	×	×	×	×	褐色粘質土少量
H6 C-C'	1	黒褐 (7.5YR2/2)	\triangle	\triangle	\times	0	\times	*	×	×	*	*	
D-D'	2	黒褐 (7.5YR2/2)	\triangle	\triangle	×	×	\times	*	×	×	×	*	
E-E'	3	黒褐(10YR2/2)	\triangle	\triangle	×	×	×	*	×	×	×	\triangle	
	4	灰黄褐(10YR4/2)	\triangle	\triangle	\times	\times	×	*	×	×	×	0	
	5	黒褐(7.5YR2/2)	\triangle	\triangle	×	×	×	*	×	×	\times	*	

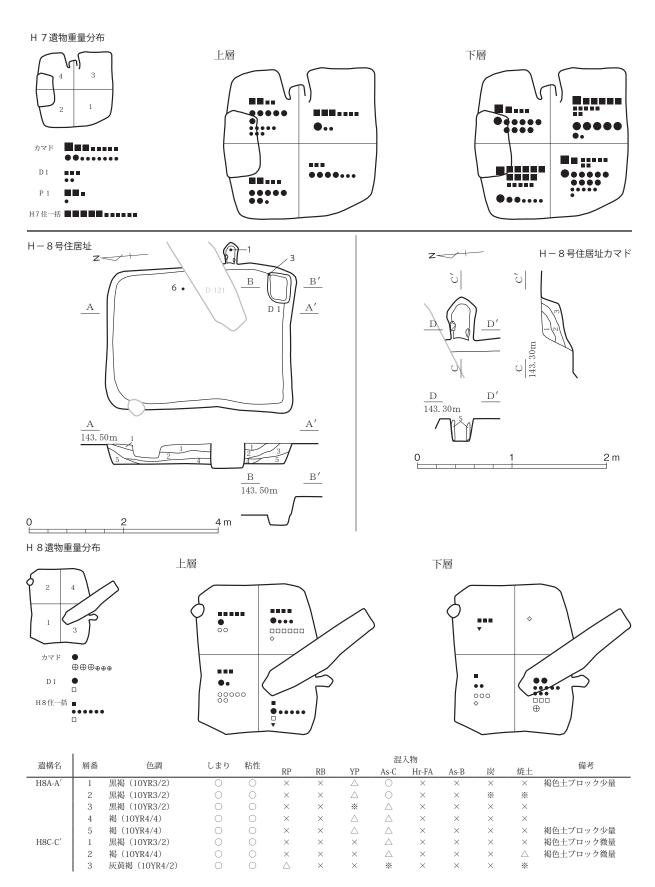
H 6遺物重量分布



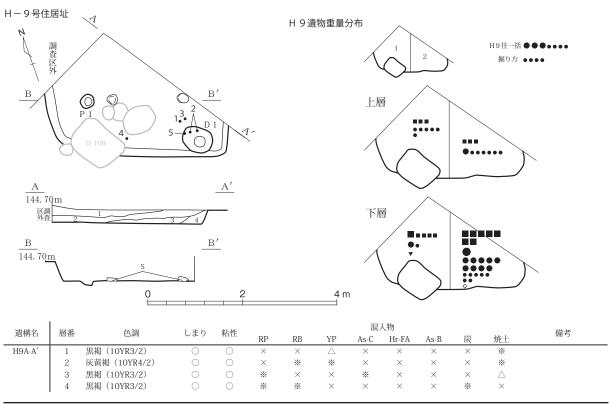
第13図 H-6号住居址実測図(2)

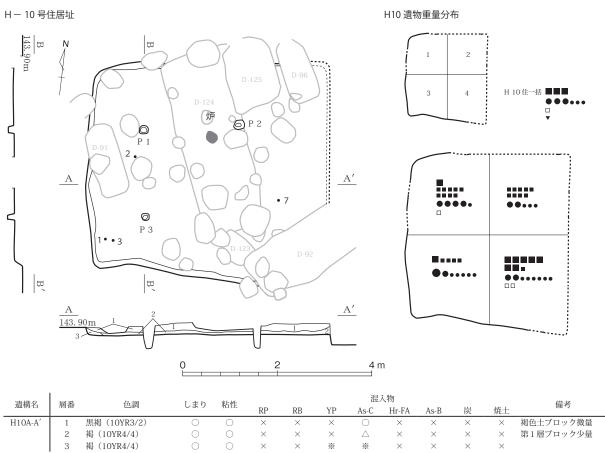


第14図 H-7号住居址実測図(1)

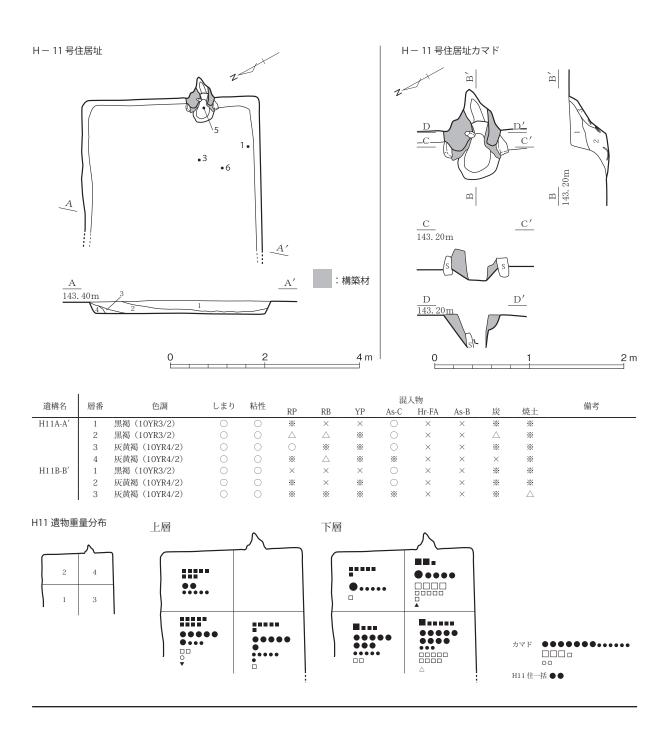


第15図 H-7号住居址実測図(2)・H-8号住居址実測図



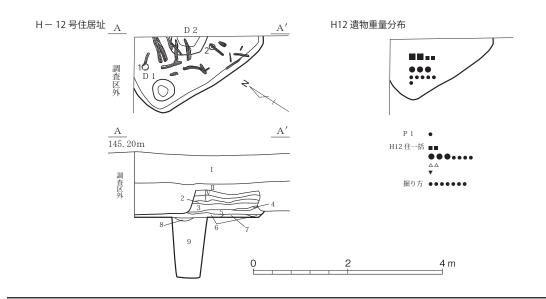


第 16 図 H-9 · 10 号住居址実測図

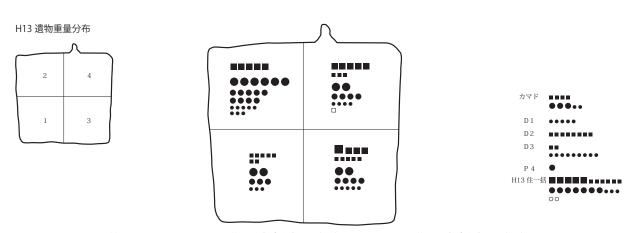


遺構名	層番	色調	しまり	粘性				備考					
起冊口	眉田		Uan	MILITE	RP	RB	YP	As-C	Hr-FA	As-B	炭	焼土	−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−
H12A-A'	1	黒褐(10YR3/2)	0	Δ	×	×	*	*	*	×	*	*	
	2	黒褐(10YR3/2)	0	\triangle	\times	×	*	*	\triangle	×	*	*	
	3	暗褐 (10YR3/3)	0	\triangle	\times	×	*	*	*	×	\triangle	*	
	4	黒褐(10YR3/2)	\triangle	\triangle	×	×	\times	*	*	×	*	*	
	5	黒褐 (10YR3/2)	\triangle	\triangle	*	×	*	*	*	×	\triangle	×	
	6	黒褐 (10YR3/1)	\triangle	\triangle	\times	×	*	*	*	×	\triangle	*	
	7	黒褐 (10YR3/1)	\triangle	\triangle	*	*	*	*	\triangle	×	\circ	*	
	8	黒褐 (10YR3/1)	0	\triangle	*	\triangle	×	*	\triangle	×	\triangle	×	
	9	黒褐(10YR3/1)	\triangle	\triangle	*	0	\circ	*	\triangle	×	×	×	

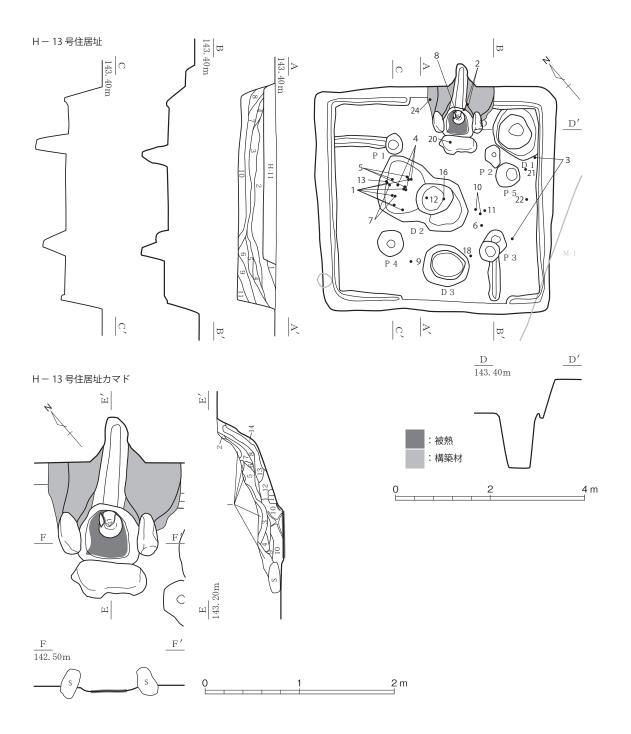
第 17 図 H-11 号住居址実測図・H-12 号住居址実測図(1)



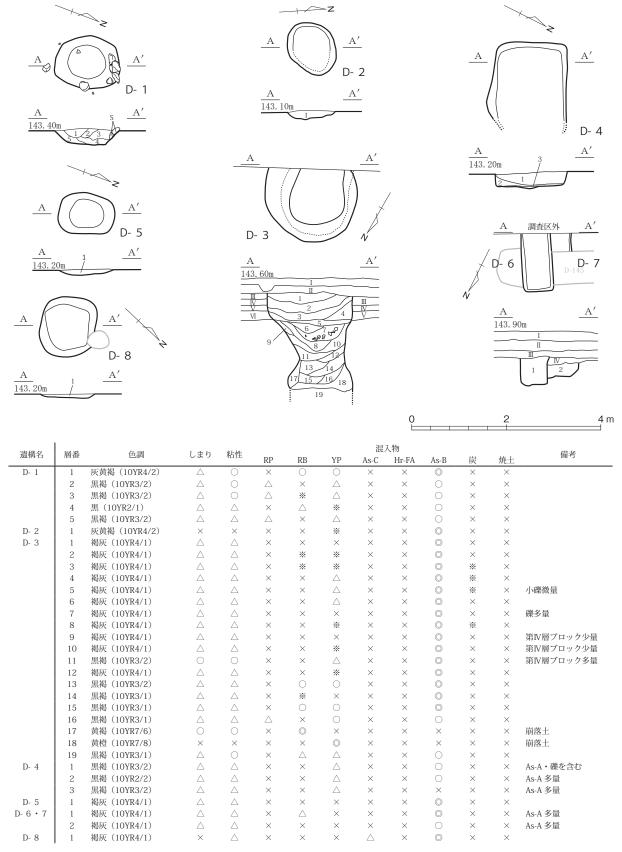
いれば カ	FF 45	<i>t</i> 7. ≃⊞	1 + 6	w L. M.				混	入物				/H: -far
遺構名	層番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	As-C	Hr-FA	As-B	炭	焼土	備考
H13A-A'	1	黒褐(10YR3/2)	0	0	×	*	*	0	×	×	*	*	
	2	黒褐(10YR3/1)	\circ	\circ	*	\triangle	*	\circ	×	×	\triangle	*	
	3	灰黄褐(10YR4/2)	\circ	\circ	*	*	*	\circ	×	×	\triangle	\triangle	
	4	黒褐(10YR3/2)	0		\times	×	\times		×	×	0	×	
	5	黒褐(10YR3/2)	0	\circ	*	×	*	0	×	×	*	\triangle	
	6	灰黄褐(10YR4/2)	0		\circ	*	*		×	×	\triangle	\triangle	
	7	灰黄褐(10YR4/2)	0		*	\triangle	*		×	×	\times	\triangle	
	8	にぶい黄褐(10YR6/4)	0		\triangle	*	\triangle	\triangle	×	×	\times	×	
	9	暗褐(10YR3/3)	0		*	×	*		×	×	*	*	
	10	灰黄褐(10YR4/2)	0	\circ	\triangle	\triangle	*	*	×	×	\triangle	\triangle	
	11	にぶい黄褐(10YR6/4)	0		\triangle	\triangle	\triangle	*	×	×	*	*	
H13E-E'	1	黒褐(10YR3/1)	\triangle		\times	×	\times	×	×	×	\times	*	黄橙粘質土少量
	2	灰黄褐(10YR4/2)	\triangle	\triangle	×	×	×	×	×	×	\triangle	\triangle	黄橙粘質土少量
	3	灰黄褐(10YR4/2)	0	\triangle	\times	×	\times	×	×	×	*	\triangle	黄橙粘質土少量
	4	灰黄褐色土(10YR4/2)	0	\triangle	×	×	×	×	×	×	*	0	黄橙粘質土多量
	5	黄橙(10YR8/8)	0		×	×	×	×	×	×	×	0	粘質土
	6	黄橙(10YR8/8)		\triangle	×	×	×	×	×	×	×	\triangle	粘質土
	7	黒褐(10YR3/2)	0		×	×	*	×	×	×	×	*	黄橙粘質土少量
	8	黄橙(10YR8/8)	0		\times	×	\times	×	×	×	\triangle		
	9	灰黄褐(10YR4/2)	0	\triangle	×	×	×	×	×	×	*	\triangle	黄橙粘質土多量
	10	黒褐(10YR3/2)	\triangle	\triangle	*	×	*	*	×	×	*	0	
	11	黄橙(10YR8/8)	\circ	0	×	×	×	×	×	×	×	×	黄橙粘質土ブロック
	12	黒褐(10YR3/1)	\triangle	\triangle	\times	×	\times	×	×	×	\times	\triangle	
	13	灰黄褐(10YR4/2)	\triangle		×	×	*	×	×	×	×	0	黒褐色土多量
	14	黄橙(10YR8/8)	\circ		×	×	×	×	×	×	×	×	カマド構築材



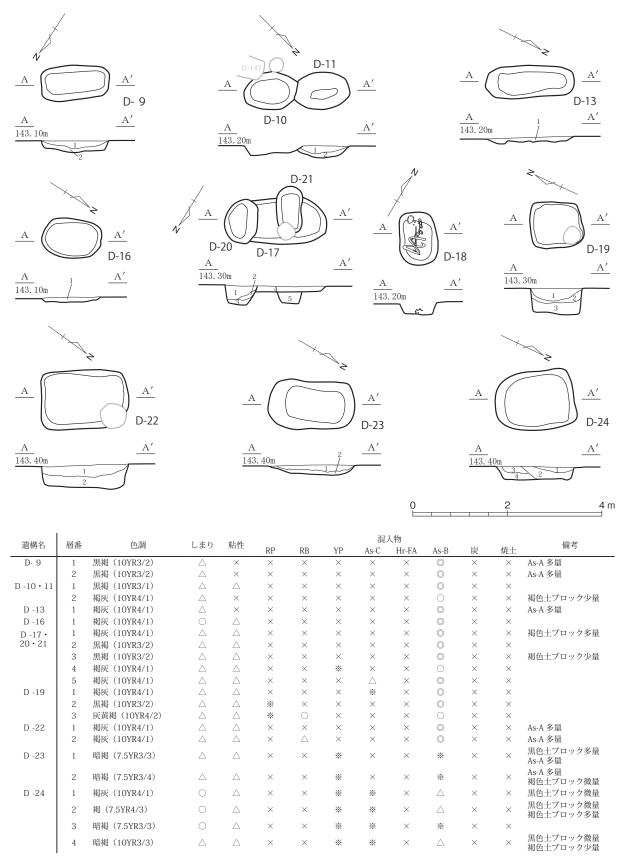
第 18 図 H-12 号住居址実測図(2)・H-13 号住居址実測図(1)



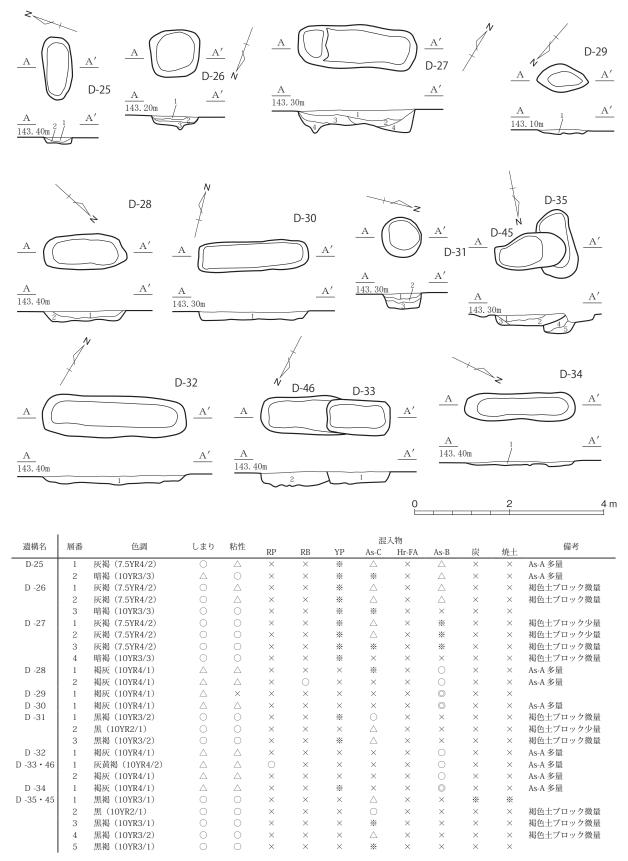
第19図 H-13号住居址実測図(2)



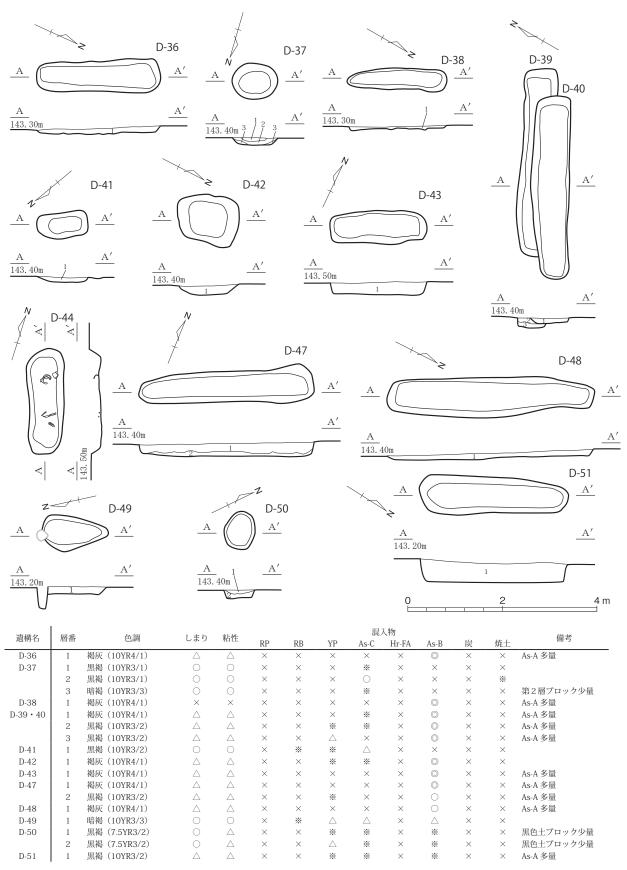
第 20 図 D-1~8号土坑実測図



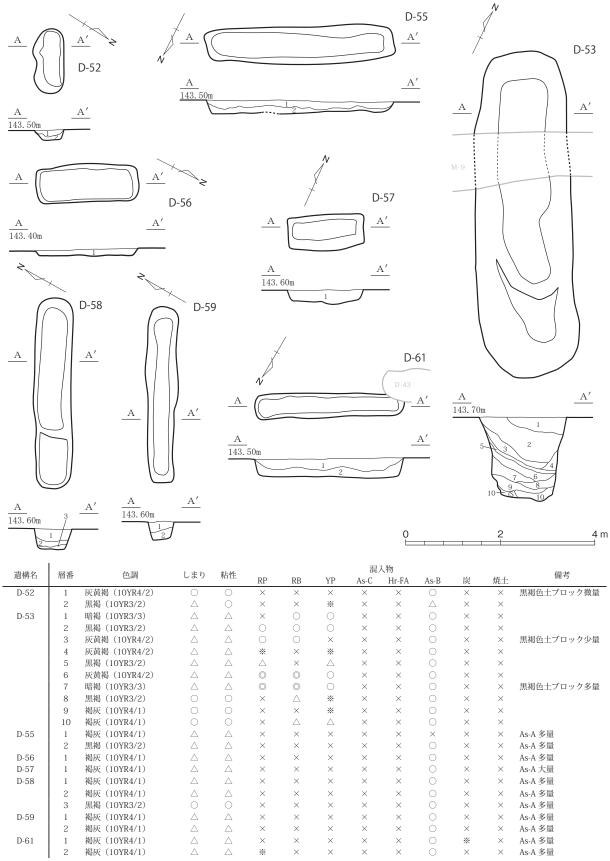
第 21 図 D-9~11・13・16~24 号土坑実測図



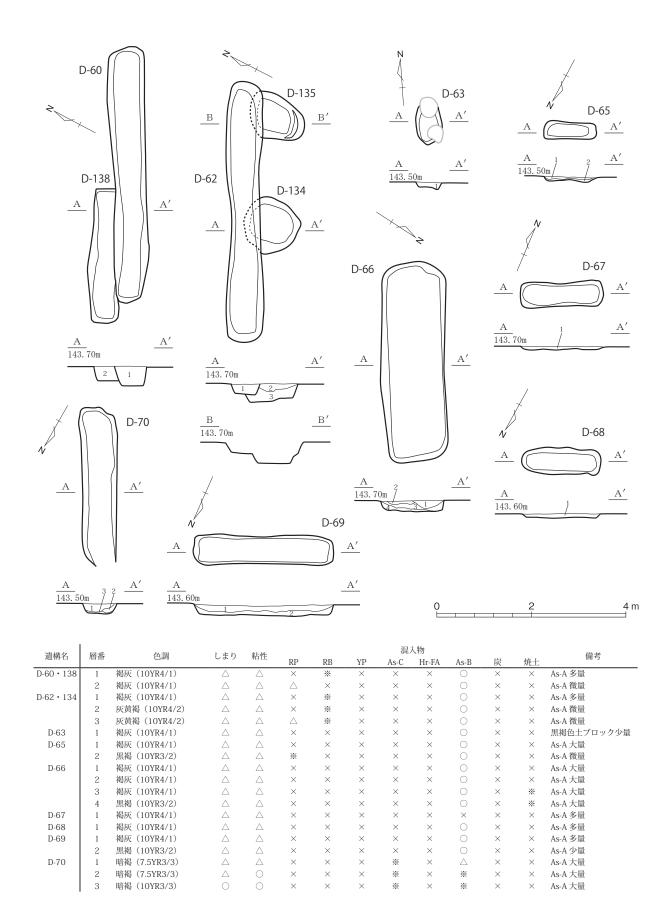
第 22 図 D-25~35・45・46 号土坑実測図



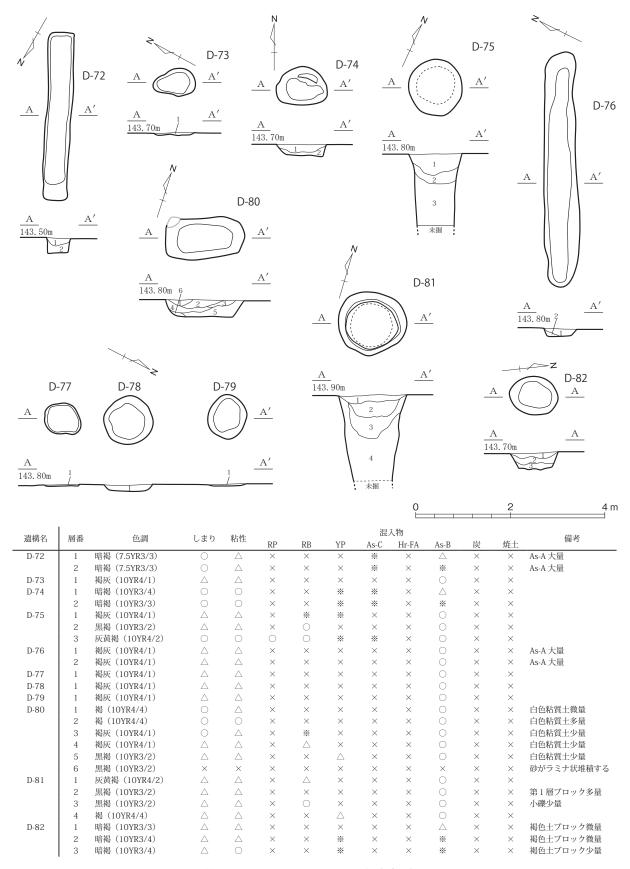
第 23 図 D-36~43·47~51 号土坑実測図



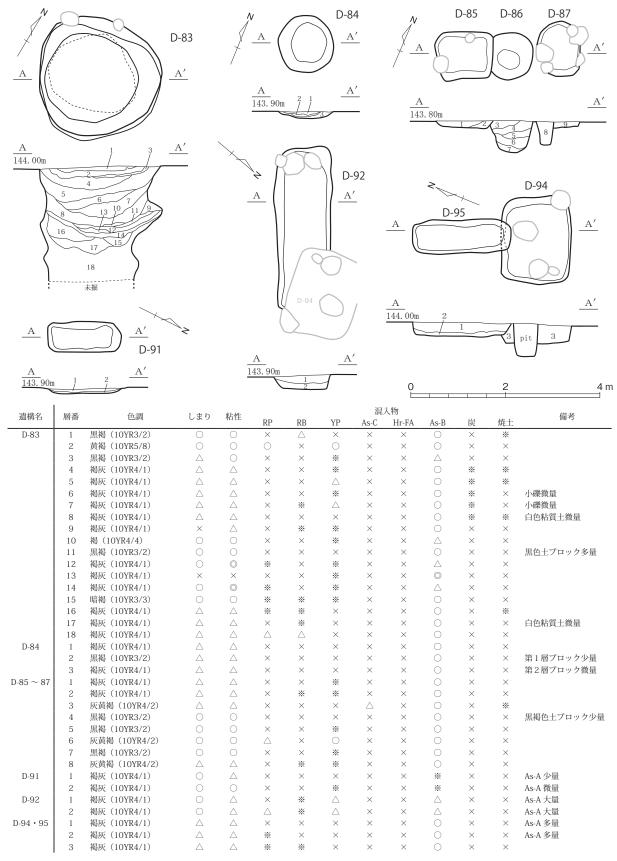
第 24 図 D-52・53・55 ~ 59・61 号土坑実測図



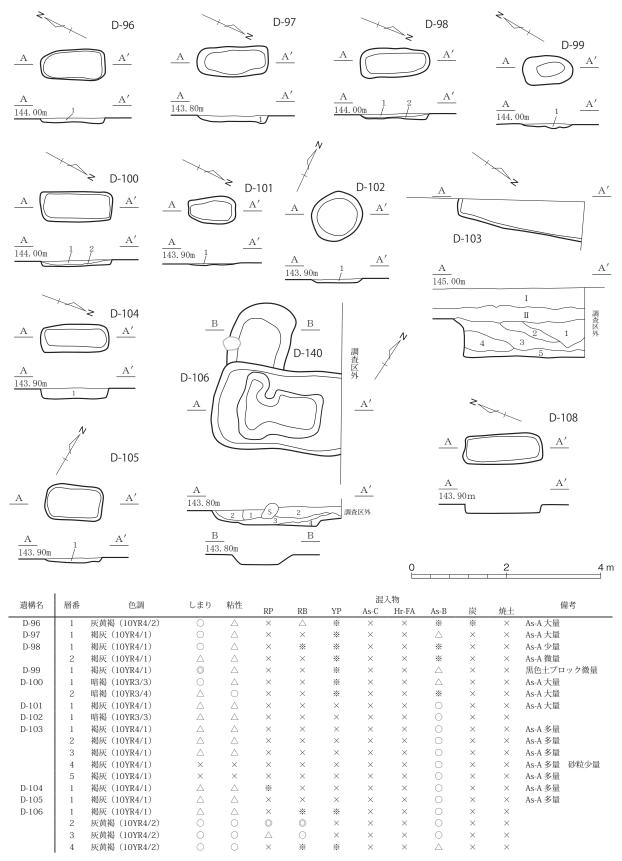
第 25 図 D-60・62・63・65 ~ 70・134・135・138 号土坑実測図



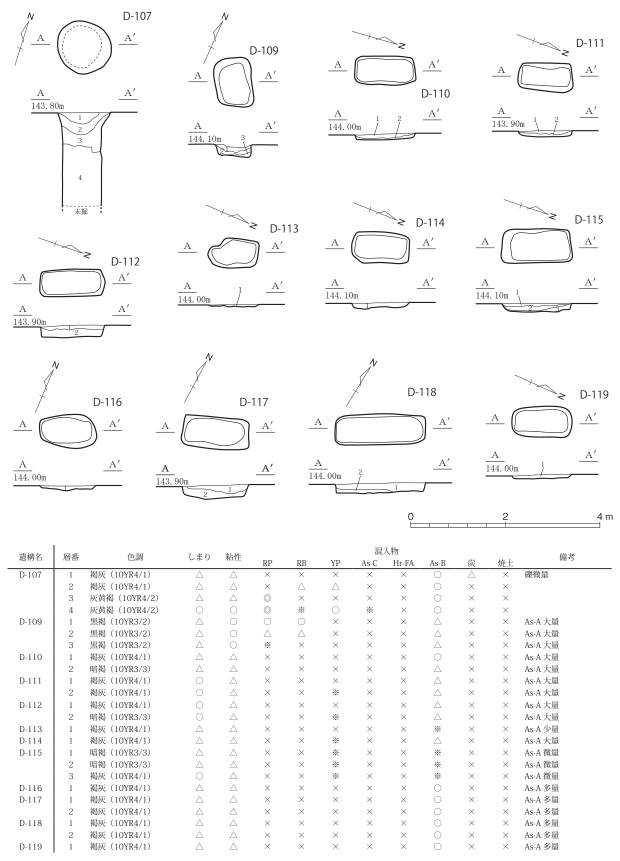
第 26 図 D-72~82 号土坑実測図



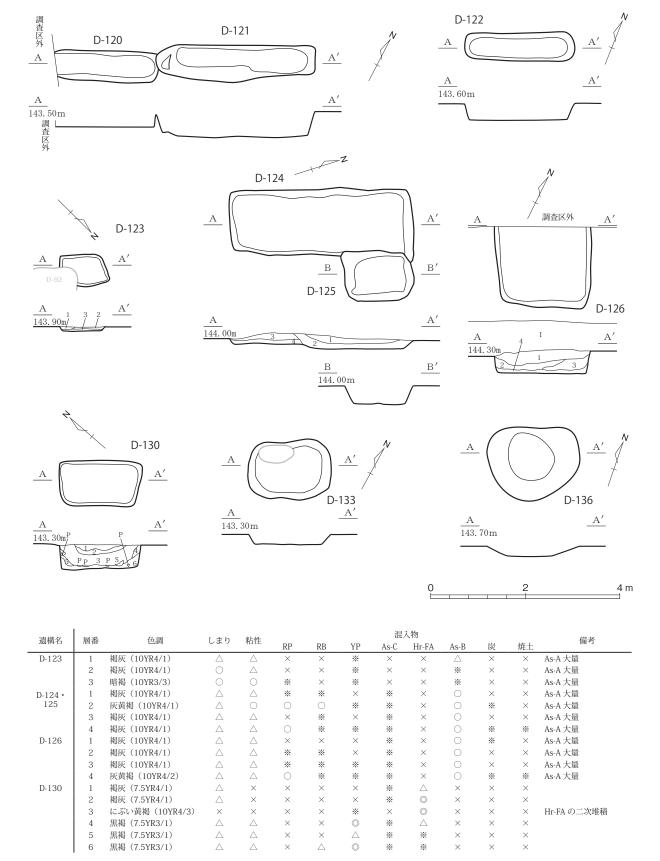
第 27 図 D-83~87・91・92・94・95 号土坑実測図



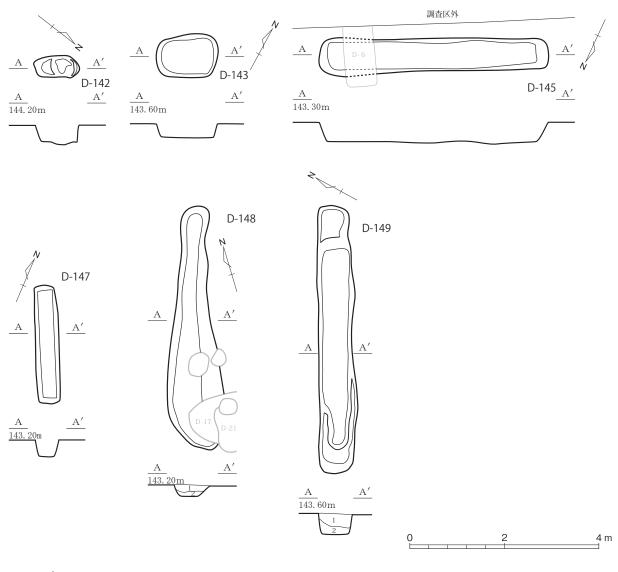
第28図 D-96~106・108・140号土坑実測図



第 29 図 D-107·109~119 号土坑実測図

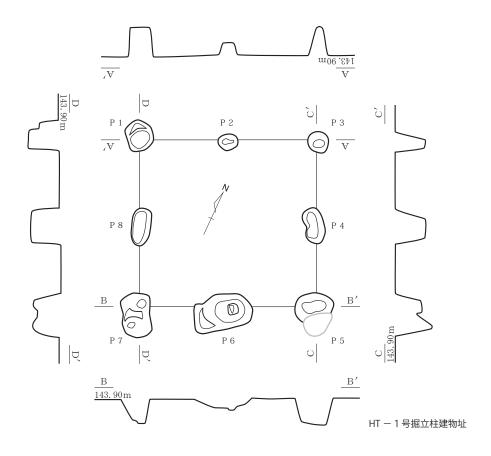


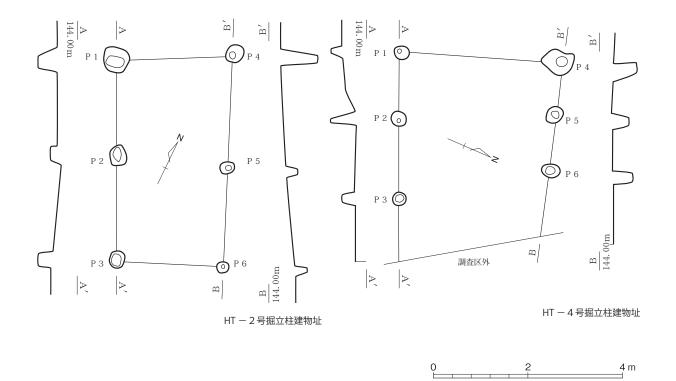
第 30 図 D-120~126・130・133・136 号土坑実測図



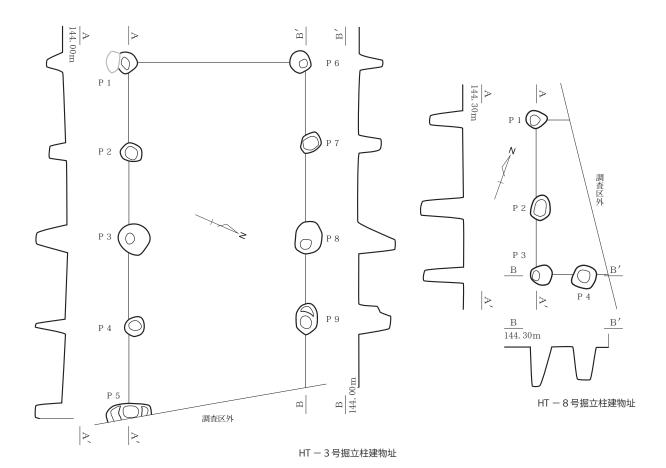
遺構名	層番	色調	しまり	粘性				混	入物				備考
退阱石	眉田	出即	しょり	和江土	RP	RB	YP	As-C	Hr-FA	As-B	炭	焼土	1用 写
D-148	1	褐灰(10YR4/1)	×	×	×	×	*	×	×	0	×	×	As-A 大量
	2	黒褐(10YR3/2)	×	\times	\times	×	×	×	×		×	×	As-A 大量
D-149	1	褐灰(10YR4/1)	\triangle	\triangle	\times	×	×	×	×		×	×	As-A 大量
	2	褐灰(10YR4/1)	\triangle	\triangle	×	×	×	×	×		×	×	As-A 大量

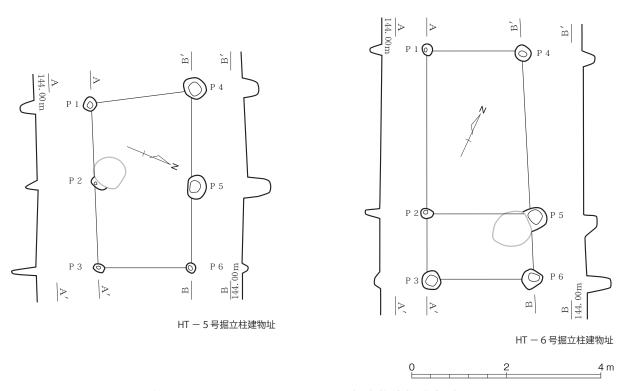
第 31 図 D-142・143・145・147 ~ 149 号土坑実測図



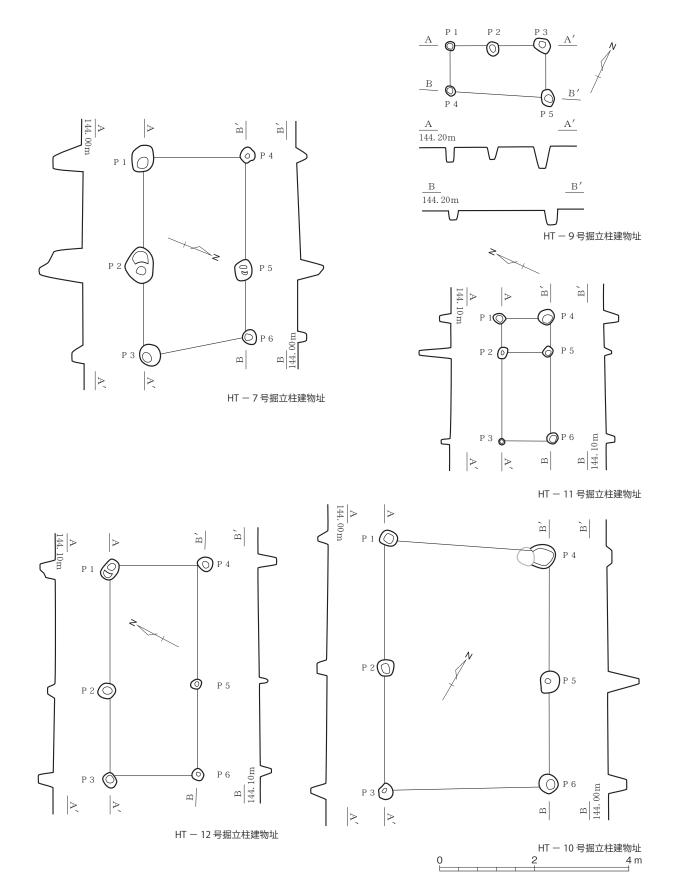


第 32 図 HT - 1 · 2 · 4 号掘立柱建物址実測図

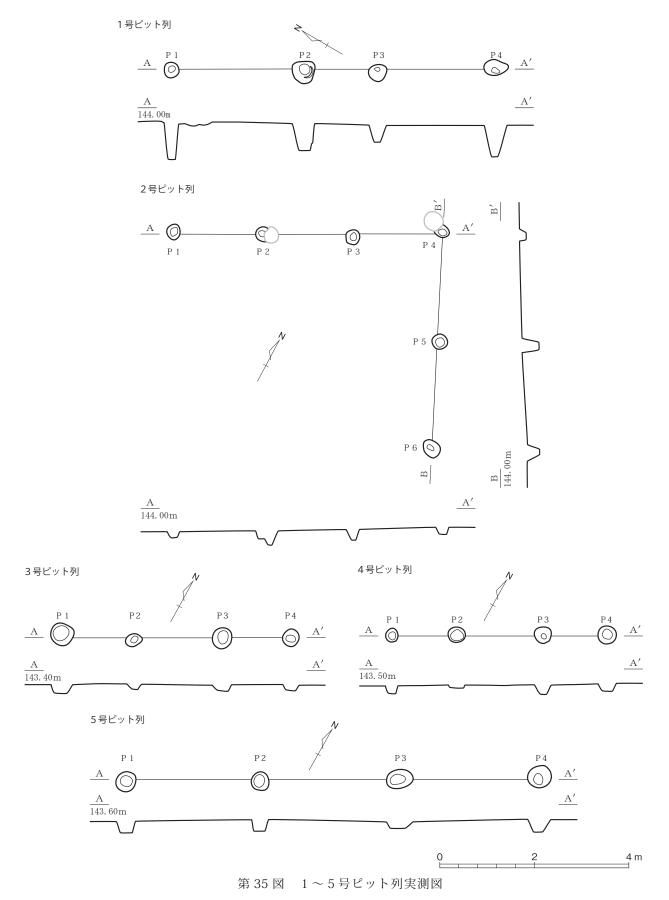




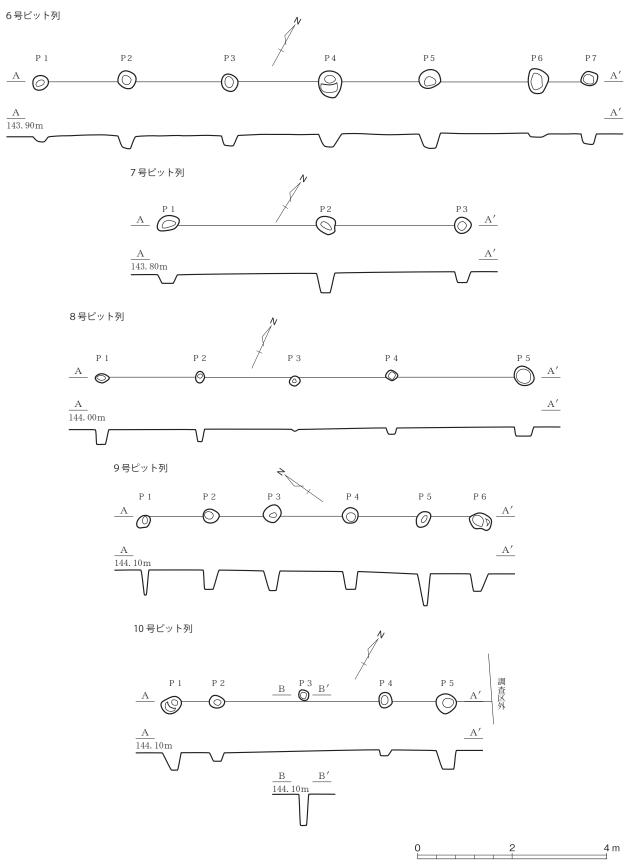
第33図 HT-3・5・6・8号掘立柱建物址実測図



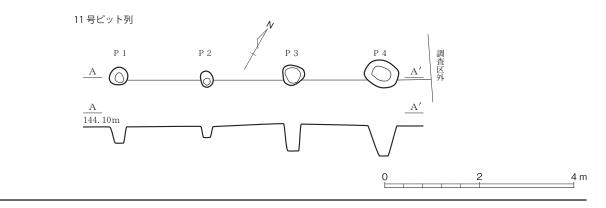
第34図 HT-7・9~11号掘立柱建物址実測図

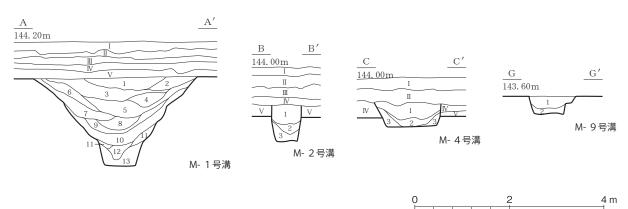


- 41 -



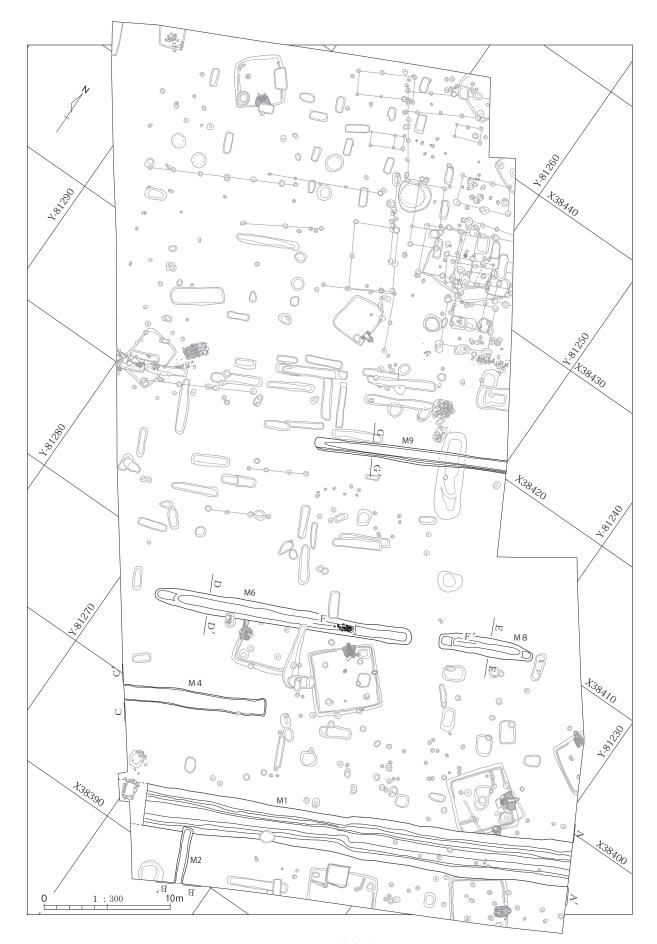
第 36 図 6~10 号ピット列実測図



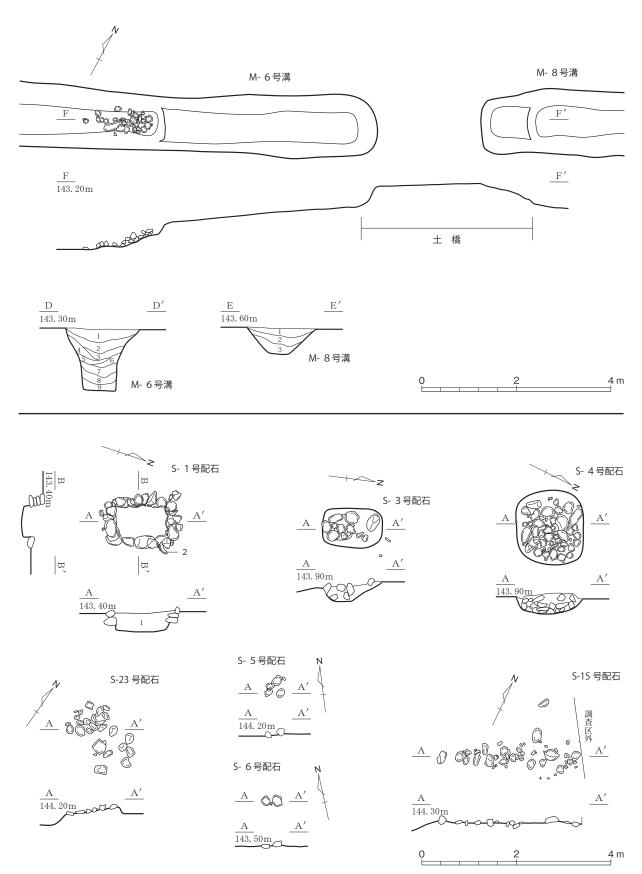


遺構名	層番	色調	しまり	粘性				混	入物				備考
退Ħ石	眉笛	巴詗	しょり	柏注	RP	RB	YP	As-C	Hr-FA	As-B	炭	焼土	1用方
M1A-A'	1	灰黄褐(10YR4/2)	Δ	\triangle	Δ	\triangle	*	0	×	0	×	×	
	2	灰黄褐(10YR4/2)	\triangle	\triangle	0	0	*	*	×		\times	\times	
	3	暗褐(10YR3/3)	\triangle	\triangle	\triangle	\triangle	*	*	×		×	\times	
	4	黒褐(10YR3/2)	\triangle	\triangle	\times	*	\triangle	×	×		\times	\times	
	5	灰黄褐(10YR4/2)	\triangle	\triangle	×	*	0	*	×	0	\times	\times	
	6	にぶい黄褐(10YR4/3)	0	\circ	\times	\times	\triangle	*	×		\times	\times	黒褐色土ブロック少量
	7	灰黄褐(10YR4/2)	\triangle	\triangle	×	×	*	×	×	0	\times	\times	褐色土ブロック少量
	8	にぶい黄褐(10YR4/3)	\circ	0	×	*	0	*	×	0	\times	\times	褐色土ブロック少量
	9	黒褐(10YR3/2)	\circ	\circ	×	\times	*	*	×	\circ	\times	×	褐色土ブロック少量
	10	黒褐(10YR3/2)	\triangle	\triangle	×	×	\triangle	*	×	0	\times	\times	
	11	褐(10YR4/4)	\triangle	\circ	×	\times		×	×	0	×	×	
	12	黒褐(10YR3/2)	\triangle	\triangle	×	\triangle	\triangle	*	×		×	×	
	13	褐(10YR4/4)	\triangle	\triangle	×	\triangle	\circ	×	×	\circ	×	×	
M2B-B'	1	褐灰(10YR4/1)	\triangle	\triangle	*	\times	*	×	×	\circ	×	×	As-A 多量
	2	灰黄褐(10YR4/2)	\triangle	\triangle	\times	\triangle	\triangle	×	×		\times	\times	As-A 大量
	3	灰黄褐(10YR4/2)	\triangle	\triangle	×	\triangle	*	×	×	0	\times	\times	As-A 大量
M4C-C'	1	褐灰(10YR4/1)	\triangle	\triangle	\times	\times	\times	*	×		\times	\times	
	2	黒(10YR2/1)	×	\triangle	\times	\times	\times	×	×	0	\times	\times	
	3	褐灰(10YR4/1)	\triangle	\triangle	×	×	×	×	×		×	×	
M6D-D'	1	黒褐(10YR3/2)	\triangle	\triangle	\times	×	×	\triangle	×		×	\times	
	2	褐灰(10YR4/1)	\triangle	\triangle	\times	*	\times	\triangle	×	0	\times	\times	
	3	黒褐(10YR3/2)	0	\circ	*	\triangle	×	*	×		×	\times	
	4	暗褐(10YR3/3)	\circ	0	*	*	*	*	×	0	\times	\times	
	5	黒褐(10YR3/2)	\triangle	\circ	\times	×	*	×	×		×	\times	
	6	黒(10YR2/1)	\triangle	\triangle	\times	\times	\times	*	×	0	\times	\times	
	7	黒(10YR2/1)	\triangle	\triangle	*	*	*	×	×		×	\times	
	8	黒(10YR2/1)	\triangle	\triangle	\triangle	*	\triangle	×	×	0	\times	\times	
	9	黒褐(10YR3/2)	\triangle	\triangle	×	×		×	×	0	\times	\times	
M8E-E'	1	褐灰(10YR4/1)	0	\circ	\times	\times	\times	\triangle	×	0	\triangle	\times	
	2	褐灰(10YR4/1)	\circ	\circ	×	×	\times	×	×		*	*	黒褐色土ブロック少量
	3	暗褐(10YR3/3)	0	\circ	\times	×	\times	*	×	\circ	\times	\times	
M9G-G'	1	褐灰(10YR4/1)	\triangle	\triangle	×	×	\times	×	×		\times	×	黒褐色土ブロック多量
	2	灰黄褐(10YR4/2)	0	\circ	\times	×	\times	×	×	\triangle	\times	\times	

第 37 図 11 号ピット列・M-1・2・4・9 号溝実測図



第38図 溝実測図



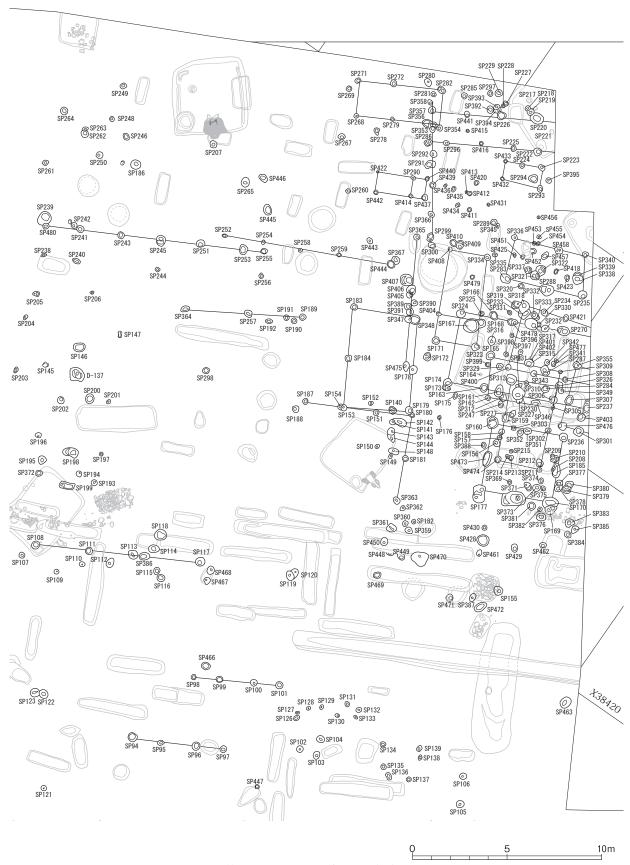
第 39 図 M-6・8 号溝・S-1・3~6・15・23 号配石遺構実測図



第40図 S-2・20号配石遺構実測図・ピット位置図(1)



第 41 図 ピット位置図(2)



第 42 図 ピット位置図 (3)

竪穴住居址観察表(単位:m, 〈 〉:残存值)

D- 12 /2	其	見模(m))	主軸方位	住居内	内土坑		燃焼	施設	時期	備考
住居名	長軸	短軸	深さ	土粬力址	貯蔵(区)	床下(基)	主柱穴	炉	カマド	(世紀)	[その他付属施設]
H-1	4.64	⟨4.16⟩	0.80	N-54° - E	16	2	4		北東	6 I	[壁周溝] カマドは黄橙粘質土を構築材とし焚口天 井部に凝灰岩の切石、袖部に河原石を使 用。
H-2	4.40	⟨3.00⟩	0.80	N-60° - W			2		北西	6 I	[壁周溝] 消失住居址。炭化した部材が良好な状態 で検出された。カマド構築材には全体的 に顕著な被熱が認められる。焚口部は破 損しているものの燃焼室は良好な状態で 遺存していた。袖部に河原石を使用。
H-3	5.44	⟨2.64⟩	0.64	N-63° - E	1 • 4		2			6 I	[壁周溝・間仕切り溝]
H-4	⟨4.72⟩	⟨4.40⟩	0.80	N-75° - E	13		4		西	6 I	[壁周溝] 消失住居址。炭化した部材が全体的に散 在していた。カマドは黄橙粘質土を構築 材とし焚口天井部・袖部ともに河原石を 使用。
H-5	5.36	5.28	0.72	N-43° - W	4		4		北西	6 I	[壁周溝] カマドは黄橙粘質土を構築材とし焚口に は天井部・袖部ともに河原石を使用。
H-6	3.52	3.04	0.36	N-82° - W	4				東	9 IV	カマドは褐色粘質土を構築材とし袖部及 び煙道部に河原石を芯材として使用。
H-7	4.00	3.92	0.76	N-39° - W	3		1		南西	5 IV	[壁周溝] Hr-FA のレンズ状堆積が認められた。カマドは黄橙粘質土を構築材とし焚口天井部・袖部には河原石を芯材として使用。
H-8	4.08	3.20	0.44	N-86° - W	3				東		カマドは芯材として河原石を使用。
H-9	3.92	⟨2.64⟩	0.40		2		1			5 IV	
H-10	(5.20)	4.80	0.28	N-7° - W			3	中央北 寄り		5 Ⅲ	遺構の重複による削平が著しい。
H-11	3.80	⟨3.28⟩	0.28	N-61° - W					南西	9 Ⅲ	H-13と重複し切り合い関係及び出土遺物から本遺構が新しい。カマドは白色粘質土を構築材とし芯材には河原石を使用。
H-12	2.96	⟨1.76⟩	0.48		1	1				5 Ⅲ	消失住居址。炭化した部材が良好な状態で検出された。埋没土に Hr-FA をブロック状に含む。
H-13	5.16	4.84	0.80	N-41° - E	4	2	4		北東	6 I	[壁周溝・間仕切り溝] H-11と重複し切り合い関係及び出土遺物から本遺構が古い。カマドは黄橙粘質 土を構築材とし焚口天井部・袖部には河原石を使用。

土坑観察表(1)

		1	規模			T .		
遺構名	平面形態	Eith	短軸	深さ	断面形態	遺物	時期	備考
	leter and and	長軸	7		VA 1. TV	Bhatti (whi)	1100 1500 6	777 b th o 776 bl 1844 b 1814 b
D-1	楕円形	1.40	1.20	0.32	逆台形	陶器(甕)		配石遺構の可能性が考慮される。
D-2	楕円形	1.12	1.04	0.16	皿形		1108~1783年	
D-3	〈楕円形〉	1.96	⟨1.60⟩	⟨2.12⟩	不整形	軟質陶器(内耳鍋)、磁器(皿)、石製品(穀物臼・茶臼・板碑) 鍛冶関連遺物(椀形鍛冶滓)、 銭貨	1108~1783年	井戸址。
D-4	〈隅丸長方形〉	1.72	⟨1.68⟩	0.40	箱形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-5	隅丸長方形	1.20	0.92	0.12	皿形		1108~1783年	
D-6	〈長方形〉	⟨1.20⟩	0.72	0.64	箱形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-7	_	⟨0.48⟩	⟨0.40⟩	0.32	〈逆台形〉		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-8	隅丸方形	1.28	1.24	0.08	逆台形		1108~1783年	
D-9	隅丸長方形	1.48	0.80	0.24	箱形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-10	楕円形	⟨1.16⟩	0.88	0.20	逆台形		1108~1783年	
D-11	〈楕円形〉	1.20	0.80	0.28	皿形	かわらけ		
D-12	欠番							
D-13	隅丸長方形	1.92	0.72	0.16	不整形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-14	欠番							
D-15	欠番							-
D-16	楕円形	1.28	0.84	0.12	逆台形		1108~1783年	
D-17	〈楕円形〉	⟨1.60⟩	1.00	0.12	〈逆台形〉		1108~1783年	

第1表 遺構観察表(1)

土坑観察表(2)

遺構名	平面形態		規模(m		断面形態	遺物	時期	備考
		長軸	短軸	深さ				
	精円形	1.12	0.80	0.28	逆台形	かわらけ、六道銭、人骨	16世紀	土坑墓。横臥屈葬。
	隅丸方形	1.16	1.00	0.56	箱形	鉄片	1108~1783年	
)-20	楕円形	0.96	0.72	0.40	逆台形	かわらけ	1108~1783年	
)-21	〈楕円形〉	1.04	0.56	0.36	逆台形		1108~1783年	
)-22	隅丸長方形	1.92	1.28	0.52	箱形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
)-23	隅丸長方形	1.88	1.08	0.20	皿形	かわらけ	1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
-24	隅丸長方形	1.76	1.36	0.28	逆台形		1108~1783年	
-25	楕円形	1.36	0.64	0.12	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
-26	隅丸方形	1.08	1.00	0.32	逆台形		1108~1783年	
-27	隅丸長方形	2.56	1.00	0.48	不整形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
-28	不整形	1.80	0.80	0.24	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
-29	不整形	1.12	0.60	0.12	不整形		1108~1783年	
-30	隅丸長方形	2.36	0.72	0.24	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
)-31	円形	0.88	0.84	0.32	逆台形		古墳~平安時代	END HAVE STORED
-32	隅丸長方形	3.08	0.96	0.32	逆台形	陶器	1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
-33	隅丸長方形	1.36	0.76	0.28	逆台形	陶器、瓦(丸瓦)	1783年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
-34	楕円形	2.36	0.64	0.16	不整形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
-35	不整形	1.48	0.92	0.40	〈逆台形〉		古墳~平安時代	W
36	不整形	2.64	0.72	0.16	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
37	楕円形	1.00	0.76	0.16	皿形		古墳~平安時代	
38	不整形	2.16	0.52	0.12	不整形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
39	〈隅丸長方形〉	4.00	0.92	0.24	〈箱形〉	鍛冶関連遺物(鉄滓)	1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
40	隅丸長方形	3.88	0.84	0.16	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
41	隅丸長方形	1.12	0.64	0.12	皿形		古墳~平安時代	
42	不整形	1.36	1.12	0.12	皿形		1108~1783年	
43	隅丸長方形	2.08	0.72	0.24	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
				_		I G		
-44	楕円形	2.24	0.84	0.28	逆台形	人骨		土壙墓。横臥屈葬と想定される。
45	不整形	1.52	0.80	0.24	逆台形		古墳~平安時代	
46	〈隅丸長方形〉	⟨1.84⟩	0.84	0.32	〈不整形〉		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
47	楕円形	3.76	0.88	0.32	逆台形	青磁(碗)	1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
-48	隅丸長方形	4.40	0.84	0.24	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
-49	不整形	1.44	0.80	0.16	〈逆台形〉		1108~1783年	
-50	楕円形	0.84	0.68	0.16	逆台形		1108~1783年	
-51	楕円形	3.20	0.88	0.52	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
-52	不整形	1.36	0.68	0.24	逆台形	陶器(碗)	1108~1783年	
-53	隅丸長方形	6.88	2.24	1.80	逆台形	かわらけ、陶器(焼・擂鉢)、 土製品(円盤状土製品)、鉄製品(小刀)、鍛冶関連遺物(椀 形鍛冶滓)、銭貨	15 世紀後半	海竜寺関連施設に伴う遺構の可能性が考慮される。
-54	欠番							
-55	隅丸長方形	4.08	0.88	0.32	逆台形	陶器(碗)	1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
-56	隅丸長方形	2.20	0.88	0.20	逆台形	1.388 (98)	1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
-57			0.80	0.20	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
		1 68						
	隅丸長方形	1.68		_		おがぬ中 (中古知)		
-58	隅丸長方形	4.04	0.88	0.44	逆台形	軟質陶器(内耳鍋)	1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
-58 -59	隅丸長方形 隅丸長方形	4.04 3.76	0.88 0.72	0.44	逆台形 逆台形	かわらけ	1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
-58 -59 -60	隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形	4.04 3.76 5.44	0.88 0.72 0.92	0.44 0.40 0.40	逆台形 逆台形 逆台形		1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
58 59 60 61	隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形	4.04 3.76 5.44 3.20	0.88 0.72 0.92 0.60	0.44 0.40 0.40 0.44	逆台形 逆台形 逆台形 逆台形	かわらけ	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
58 59 60 61	隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形	4.04 3.76 5.44	0.88 0.72 0.92	0.44 0.40 0.40	逆台形 逆台形 逆台形	かわらけ	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
58 59 60 61 62	隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形	4.04 3.76 5.44 3.20	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84	0.44 0.40 0.40 0.44	逆台形 逆台形 逆台形 逆台形	かわらけ	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
58 59 60 61 62 63	隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24	逆台形 逆台形 逆台形 逆台形	かわらけ	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
58 59 60 61 62 63 64	隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 (楕円形)	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24	逆台形 逆台形 逆台形 逆台形	かわらけ	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
60 61 62 63 64	隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 〈楕円形〉 欠番	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 ⟨0.84⟩	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24 0.16	逆台形 逆台形 逆台形 逆台形 逆台形 逆台形	かわらけ	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108 ~ 1783 年	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
-58 -59 -60 -61 -62 -63 -64 -65 -66	開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 (楕円形) 欠番 開丸長方形 開丸長方形	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 ⟨0.84⟩ 1.12 4.28	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24 0.16	逆台形 逆台形 逆台形 逆台形 逆台形 逆台形	かわらけ 陶器(皿)、鉄製品(棒状品)	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
658 60 61 62 63 64 65 66 67	開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 (特円形) 欠番 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 (0.84) 1.12 4.28 1.76	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 0.40 1.48	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24 0.16 0.12 0.24 0.08	逆台形 逆台台形 逆台台形 逆台台形 逆台台形 逆台形	かわらけ 陶器(皿)、鉄製品(棒状品)	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
-58 -59 -60 -61 -62 -63 -64 -65 -66 -67	隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 、 格円形〉 大四 、 大四 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 (0.84) 1.12 4.28 1.76 1.68	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 0.40 1.48 0.60 0.64	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24 0.16 0.12 0.24 0.08 0.12	逆台形 逆台台形 逆台台台形 逆逆台台台 逆逆逆逆 逆台台台 逆逆逆逆逆	かわらけ 陶器 (皿)、鉄製品 (棒状品) 軟質陶器 (内耳鍋)	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
-58 -59 -60 -61 -62 -63 -64 -65 -66 -67 -68	隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 、 木 衛 門形〉 大 番 隅丸長方形 、 大 番 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 ⟨0.84⟩ 1.12 4.28 1.76 1.68 3.00	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 0.40 1.48 0.60 0.64 0.68	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24 0.16 0.12 0.24 0.08 0.12 0.28	逆台形形 逆台台形 逆台台形 逆 逆 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台	かわらけ 陶器 (皿)、鉄製品 (棒状品) 軟質陶器 (内耳鍋) 陶器 (碗)	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
-58 -59 -60 -61 -62 -63 -64 -65 -66 -67 -68 -69	隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 ス番 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 (0.84) 1.12 4.28 1.76 1.68	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 0.40 1.48 0.60 0.64	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24 0.16 0.12 0.24 0.08 0.12	逆台形 逆台台形 逆台台台形 逆逆台台台 逆逆逆逆 逆台台台 逆逆逆逆逆	かわらけ 陶器 (皿)、鉄製品 (棒状品) 軟質陶器 (内耳鍋)	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70	隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 ス番 隅丸長方形 大番 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 橋円形 塚土長方形 橋円形 塚土長方形 橋円形 塚土長方形	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 ⟨0.84⟩ 1.12 4.28 1.76 1.68 3.00 ⟨3.36⟩	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 0.40 1.48 0.60 0.64 0.68 0.84	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24 0.16 0.12 0.24 0.08 0.12 0.28 0.24	逆台 形形 逆逆 逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆	かわらけ 陶器 (皿)、鉄製品 (棒状品) 軟質陶器 (内耳鍋) 陶器 (碗) 陶器 (裹)	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71	開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 (楕円形) 欠番 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 衛内長方形 衛内形 (開丸長方形	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 ⟨0.84⟩ 1.12 4.28 1.76 1.68 3.00 ⟨3.36⟩	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 0.40 1.48 0.60 0.64 0.68 0.84	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24 0.16 0.12 0.24 0.08 0.12 0.28 0.24	逆台 形形 逆 治 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台	かわらけ 陶器 (皿)、鉄製品 (棒状品) 軟質陶器 (内耳鍋) 陶器 (碗)	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71	開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 (楕円形) 欠番 開丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 間丸長方形 て、 開丸長方形 に、 て、 開丸長方形 で、 関丸長方形 で、 関丸長方形 に、 で、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 ⟨0.84⟩ 1.12 4.28 1.76 1.68 3.00 ⟨3.36⟩	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 0.40 1.48 0.60 0.64 0.68 0.84	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24 0.16 0.12 0.24 0.08 0.12 0.28 0.24	逆 逆 治 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台	かわらけ 陶器 (皿)、鉄製品 (棒状品) 軟質陶器 (内耳鍋) 陶器 (碗) 陶器 (裹)	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73	開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 (楕円形) 欠番 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 衛内長方形 衛内形 (開丸長方形	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 ⟨0.84⟩ 1.12 4.28 1.76 1.68 3.00 ⟨3.36⟩	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 0.40 1.48 0.60 0.64 0.68 0.84	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24 0.16 0.12 0.24 0.08 0.12 0.28 0.24	逆台 形形 逆 治 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台	かわらけ 陶器 (皿)、鉄製品 (棒状品) 軟質陶器 (内耳鍋) 陶器 (碗) 陶器 (裹)	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74	開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 (楕円形) 欠番 開丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 間丸長方形 て、 開丸長方形 に、 て、 開丸長方形 で、 関丸長方形 で、 関丸長方形 に、 で、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 ⟨0.84⟩ 1.12 4.28 1.76 1.68 3.00 ⟨3.36⟩ 3.56 0.92	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 0.40 1.48 0.60 0.64 0.68 0.84	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24 0.16 0.12 0.24 0.08	逆 逆 治 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台	かわらけ 陶器 (皿)、鉄製品 (棒状品) 軟質陶器 (内耳鍋) 陶器 (碗) 陶器 (甕)	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
-58 -59 -60 -61 -62 -63 -64 -65 -66 -67 -68 -69 -70 -71 -72 -73 -74 -75	開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 (楕円形) 欠番 開丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 隅丸長方形 属丸長方形 不整形 杯 番円形 下 大番 開丸長方形 大野 開丸長方形 大野 開丸長方形 大野 開丸長方形 大野 開丸長方形 大野 開丸長方形 将門形 大野 開丸長方形 門丸長方形 門丸長方形 門丸長方形 門丸長方形 円形 大野 門丸長方形 円形 大野 門丸長方形 円形 大野 門丸長方形 円形 大野 門丸長方形 円形 大野 門丸長方形 大野 門丸長方形 大野 門丸長方形 大野 門丸長方形 大野 門丸長方形 大野 門丸長方形 大野 門丸長方形 大野 大野 大野 大野 大野 大野 大野 大野 大野 大野 大野 大野 大野	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 ⟨0.84⟩ 1.12 4.28 1.76 1.68 3.00 ⟨3.36⟩ 3.56 0.92 1.12 1.20	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 1.48 0.60 0.64 0.68 0.84 0.68 0.64 0.84	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24 0.16 0.12 0.24 0.08 0.12 0.28 0.24 0.32 0.08 0.24 (1.52)	逆台形形 逆台台形 逆逆台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台 台	かわらけ 陶器 (皿)、鉄製品 (棒状品) 軟質陶器 (内耳鍋) 陶器 (碗) 陶器 (甕)	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
-58 -59 -60 -61 -62 -63 -64 -65 -66 -67 -68 -69 -71 -72 -73 -74 -75	開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 衛丸長方形 大番 開丸長方形 横四丸長方形 横四丸長方形 大番 開丸長方形 横四丸長方形 大番 開丸長方形 大番 開丸長方形 大番 開丸長方形 大番 門丸長方形 大番 門丸長方形	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 ⟨0.84⟩ 1.12 4.28 1.76 1.68 3.00 ⟨3.36⟩ 3.56 0.92 1.12 1.20 4.96	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 0.40 1.48 0.60 0.64 0.68 0.84 0.68 0.64 0.68 0.64 0.76	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24 0.16 0.12 0.24 0.08 0.12 0.28 0.24 0.32 0.08 0.24 (1.52) 0.20	逆逆治的形形 逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆 箱皿台一台台台台 形形形 逆一一 逆光	かわらけ 陶器 (皿)、鉄製品 (棒状品) 軟質陶器 (内耳鍋) 陶器 (碗) 陶器 (甕)	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
-58 -59 -60 -61 -62 -63 -64 -65 -66 -67 -68 -69 -70 -71 -72 -73 -74 -75 -76	開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 衛丸長方形 大腐丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 内部 大腐丸長方形 開丸長方形 大腐丸長方形 大腐丸長方形 大番 開丸長方形 大番 門丸長方形 大木 大木 大木 大木 大木 大木 大木 大木 大木 大木 大木 大木 大木	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 (0.84) 1.12 4.28 1.76 1.68 3.00 (3.36) 3.56 0.92 1.12 1.20 4.96 0.80	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 0.40 1.48 0.60 0.64 0.68 0.84 0.68 0.84 1.16 0.76 0.68	0.44 0.40 0.40 0.40 0.44 0.16 0.12 0.24 0.08 0.12 0.28 0.24 0.32 0.08 0.24 (1.52) 0.20 0.08	逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆 箱皿台台台台台 新形形台 一台台台 新形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形	かわらけ 陶器 (皿)、鉄製品 (棒状品) 軟質陶器 (内耳鍋) 陶器 (碗) 陶器 (甕)	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1783 年以降 1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
-58 -59 -60 -61 -62 -63 -64 -65 -66 -67 -68 -69 -71 -72 -73 -74 -75 -76 -77	開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 (開丸長方形 (開丸長方形 大番 開丸長方形 大番 門丸長方形 大番 円形 大番 大番 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 ⟨0.84⟩ 1.12 4.28 1.76 1.68 3.00 ⟨3.36⟩ 3.56 0.92 1.12 1.20 4.96 0.80 1.04	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 0.40 1.48 0.60 0.64 0.68 0.84 0.68 0.64 0.68 0.64 0.68 0.76 0.76	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24 0.16 0.12 0.24 0.08 0.12 0.28 0.24 0.24 0.32 0.08 0.24 (1.52) 0.20 0.08 0.16	逆进位的形形	かわらけ 陶器 (皿)、鉄製品 (棒状品) 軟質陶器 (内耳鍋) 陶器 (碗) 陶器 (甕)	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1108~1783 年 1108~1783 年 1108~1783 年 1108~1783 年 1108~1783 年 1108~1783 年	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
-58 -59 -60 -61 -62 -63 -64 -65 -66 -67 -70 -71 -72 -73 -74 -75 -76 -77	開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 (楕円形) 欠審 開丸長方形 (楕円形) 欠審 開丸長方形 衛丸長方形 衛丸長方形 (隅丸長方形 (隅丸長方形) 欠番 開丸長方形 (隅丸長方形) 欠番 開丸長方形 下 下 下 下 下 門 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 <0.84> 1.12 4.28 1.76 1.68 3.00 <3.36> 3.56 0.92 1.12 1.20 4.96 0.80 1.04 0.96	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 0.40 1.48 0.60 0.64 0.68 0.84 0.68 0.64 0.68 0.64 0.68 0.64 0.68 0.64 0.68	0.44 0.40 0.40 0.40 0.41 0.12 0.24 0.08 0.12 0.28 0.24 0.32 0.08 0.24 (1.52) 0.08 0.16	逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆	かわらけ 陶器 (皿)、鉄製品 (棒状品) 軟質陶器 (内耳鍋) 陶器 (碗) 陶器 (甕)	1783 年以降 1783 年以降 108 ~ 1783 年 1108 ~ 1783 年	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
-58 -59 -60 -61 -62 -63 -64 -65 -66 -67 -68 -69 -70 -71 -72 -73 -74 -75	開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 (開丸長方形 (開丸長方形 大番 開丸長方形 大番 門丸長方形 大番 円形 大番 大番 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 ⟨0.84⟩ 1.12 4.28 1.76 1.68 3.00 ⟨3.36⟩ 3.56 0.92 1.12 1.20 4.96 0.80 1.04	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 0.40 1.48 0.60 0.64 0.68 0.84 0.68 0.64 0.68 0.64 0.68 0.76 0.76	0.44 0.40 0.40 0.44 0.24 0.16 0.12 0.24 0.08 0.12 0.28 0.24 0.24 0.32 0.08 0.24 (1.52) 0.20 0.08 0.16	逆进位的形形	かわらけ 陶器 (皿)、鉄製品 (棒状品) 軟質陶器 (内耳鍋) 軟質陶器 (競) 軟質陶器 (内耳鍋) かわらけ、軟質陶器 (内耳鍋)	1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1783 年以降 1108~1783 年 1108~1783 年 1108~1783 年 1108~1783 年 1108~1783 年 1108~1783 年 1108~1783 年	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。
-58 -59 -60 -61 -62 -63 -64 -65 -66 -67 -70 -71 -72 -73 -74 -75 -76 -77	開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 開丸長方形 (楕円形) 欠審 開丸長方形 (楕円形) 欠審 開丸長方形 衛丸長方形 衛丸長方形 (隅丸長方形 (隅丸長方形) 欠番 開丸長方形 (隅丸長方形) 欠番 開丸長方形 下 下 下 下 下 門 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下	4.04 3.76 5.44 3.20 5.52 <0.84> 1.12 4.28 1.76 1.68 3.00 <3.36> 3.56 0.92 1.12 1.20 4.96 0.80 1.04 0.96	0.88 0.72 0.92 0.60 0.84 0.60 0.40 1.48 0.60 0.64 0.68 0.84 0.68 0.64 0.68 0.64 0.68 0.64 0.68 0.64 0.68	0.44 0.40 0.40 0.40 0.41 0.12 0.24 0.08 0.12 0.28 0.24 0.32 0.08 0.24 (1.52) 0.08 0.16	逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆逆	かわらけ 陶器 (皿)、鉄製品 (棒状品) 軟質陶器 (内耳鍋) 陶器 (碗) 陶器 (甕)	1783 年以降 1783 年以降 108 ~ 1783 年 1108 ~ 1783 年	復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。 復旧溝の可能性が考えられる。

第2表 遺構観察表(2)

土坑観察表(3)

操師 操師 操師 操師 操師 操師 操師 操作 操師 操作 操作				規模				1	
1984 明日 264 244 246 246 246 247 24	遺構名	平面形態	長軸		深さ	断面	遺物	時期	備考
1985 開展 124 129 104 102 遊野 1108 - 1783 年 1985 現札五万形 128 104 0.881 0.88 1278 日 1108 - 1783 年 1987 749 129 120 0.92 0.12 2259 1108 - 1783 年 1988 1989 1990 1991 120 0.92 0.12 2259 1108 - 1783 年 1988 1989 1991 1991 1991 120 1092 121 2259 1108 - 1783 年 1990 1881 128 128 0.22 2259 2259 1278	D-83	格口形	_		_	_	かわらけ、石製品(穀物臼)	1108~1783年	井戸址。
884 日	-					m形	7 10 20八 日製品(秋内口)	+	717 -11.0
1988 1948 104 1088 098 197世 1108 ~ 1783 年 108 ~					_			 	
1987 120 092 012 位き部 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 1783 年 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 108 ~ 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 108 ~ 108 ~ 108 ~ 108 ~ 108 ~ 108 ~ 108 ~ 1783 年 108 ~ 108	-				_			+	
D-89 P-90 保証上が形 1.00 0.68 0.16 皿形 陶器 (W) 1.783 年以際 保証所の可能性が考えられる。 P-90 保証上が形 3.44 1.28 0.32 逆形形 2.95 2.9									
D91 報料長万郎 1.00 0.08 0.16 Ⅲ形 開霧 (他) 1783 年以降 粉田神の可能性が考えられる。 D92 成相上方形 3.4 1.28 0.32 逆形形 数十 1783 年以降 粉田神の可能性が考えられる。 D93 次番 P94 数末 P95	D-88								
19-19 競技方形 160 0.68 0.10 皿形 関係 (余) 1753 年以静 世間海の可能性が考えられる。 19-28 (報政方形 3.44 1.52 0.44 (銀合形) (銀合形) (数分形) (数分形)	D-89								
□92 (開入長方形) 3.44 1.28 □32 逆行形 執行 1783 年以降 取目像の可能性が考えられる。 □94 (開入長方形 1.88 □32 □44 □26 □36 □27 □47 □47 □47 □47 □47 □47 □47 □47 □47 □4	D-90	欠番							
1994 南具長方形 1.88 1.52 0.44 (図か形) かわらけ 1108 - 1783 中以降 1108 - 1783 中以降 1108 - 1783 中以降 1108 - 1783 中以降 11783 中以降 1	D-91	隅丸長方形	1.60	0.68	0.16	皿形	陶器(碗)	1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
1995 横孔長方形 1.88 1.52 0.44 ②金上形 40.56 1108 - 11783 年以降 1108 - 11783 年以降 1118 1118 11783 年以降 1118 1118 1118 11783 年以降 1118 1118 1118 1118 11783 年以降 1118 1118 1118 1118 11783 年以降 1118 1118 1118 1118 1118 1118 1118 1118 118	D-92	〈隅丸長方形〉	3.44	1.28	0.32	逆台形	鉄片	1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
1995 横丸丘方形 208 0.76 0.32 逆分形 1783 年以降 2011年の可能性が考えられる。 1996 横丸丘方形 1.52 0.68 0.14 逆分形 1783 年以降 2011年の可能性が考えられる。 1996 横丸丘方形 1.52 0.68 0.16 逆分形 1783 年以降 2011年の可能性が考えられる。 1998 横木万形 1.52 0.64 0.08 囲形 1108 - 1783 年以降 2011年の可能性が考えられる。 1998 横木万形 1.52 0.64 0.08 囲形 1108 - 1783 年以降 2011年の可能性が考えられる。 1909 横木万形 1.60 0.64 0.16 節形 1783 年以降 2011年の可能性が考えられる。 100 毎月 1.12 0.12 2012 2018 1108 - 1783 年以降 2011年の可能性が考えられる。 1010 横木万形 1.04 0.60 0.08 囲形 1783 年以降 2011年の可能性が考えられる。 1010 横木万形 1.04 0.60 0.08 囲形 1783 年以降 2011年の可能性が考えられる。 1010 横木万形 1.04 0.60 0.08 囲形 1783 年以降 2011年の可能性が考えられる。 2012年 2012年									
1996 陳末丘万形 1.40 0.68 0.12 並合形 1783 年以降			-	_	_		かわらけ	+	
1995 瀬山丘が形 152 0.68 0.16 逆台形 1783 年以降 初日語の可能性が考えられる。 1998 瀬山丘が形 152 0.64 0.08 加非 1108 ~ 1783 年以降 初日語の可能性が考えられる。 1998 和上が形 1.04 0.06 0.08 加非 1108 ~ 1783 年以降 初日語の可能性が考えられる。 1010 瀬山丘が形 1.06 0.64 0.16 和形 1783 年以降 初日語の可能性が考えられる。 1010 瀬山丘が形 1.04 0.00 0.08 加邦 1108 ~ 1783 年 初日語の可能性が考えられる。 1010 瀬山丘が形 1.04 0.00 0.08 加邦 1108 ~ 1783 年 初日語の可能性が考えられる。 1010 河山丘が形 1.08 0.12 逆台形 1108 ~ 1783 年 初日語の可能性が考えられる。 1010 河山丘が形 1.28 0.04 0.24 和形 1783 年以降 初日語の可能性が考えられる。 1010 河山丘が形 1.28 0.04 0.24 和形 1783 年以降 初日語の可能性が考えられる。 1010 河山丘が形 1.28 0.08 0.12 逆台形 かわらけ 1108 ~ 1783 年 月日記 1108 ~ 1783 年 日日記 日日記 日田記									
1998 開発は反形 152 064 012 逆台形 1783 年以降 1783 年以本 1783 年以降 1					_			 	
1999 株円形 112 0.64 0.08 順形 1108 ~ 1783 年 1108									
1-100 献丸長万形 1.00 0.64 0.16 前形 1783年以降 11783年以降			_					+	復旧溝の可能性か考えられる。
四月 四月 四月 四月 四月 四月 四月 四月	-				_			 	作口港の司能性が表えたれて
1010									
1015 1026 1083 0.84 (名前形 108 - 1783 年 野穴決遺構の可能性が考慮される。 1016 関丸長方形 1.48 0.80 0.12 逆合形 1783 年以降 世間海の可能性が考慮される。 1783 年以降 世間海の可能性が考えられる。 1017 1018 1.16 1.12 1.16 1.12 1.16 1.12 1.16 1.12 1.16 1.17 1.16 1.12 1.16 1.17 1.16 1.18 1								 	
1783 年以降 148		— VIV							B 竪穴状遺構の可能性が考慮される。
1783 年以降 1884 日 18		隅丸長方形		_					
1016 両具長方形 280 200 0.40 (逆音形) かわらけ、陶器 (鐵鉾) 1108 ~ 1783 年 110									
D-107 用形			_				かわらけ、陶器(擂鉢)		
D-108 開入長方形			-						井戸址。
D-110 両人長方形	D-108	隅丸長方形	1.68	0.68	0.20	逆台形	銭貨	<u> </u>	
1-11 親長長万形	D-109	隅丸長方形	1.08	0.88	0.24	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-113 両丸長方形	D-110	隅丸長方形	1.36	0.64	0.16	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-113 不整形	D-111	隅丸長方形	1.20	0.64	0.16	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-114 両丸長方形			1.44	0.60				1783 年以降	
D-115 隅丸長方形 1.52 0.76 0.16 逆台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-116 楕円形 1.24 0.72 0.08 遊台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-117 隅丸長方形 1.4 0.76 0.32 遊台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-118 隅丸長方形 1.92 0.72 0.24 遊台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-119 隅丸長方形 1.32 0.72 0.08 遊台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-120 隅丸長方形 1.32 0.72 0.08 遊台形 1783 年以降 形状から復旧清の可能性が考えられる。 D-121 隅丸長方形 3.36 0.80 0.56 逆台形 1783 年以降 形状から復旧清の可能性が考えられる。 D-121 隅丸長方形 2.32 0.64 0.36 遊台形 1783 年以降 形状から復旧清の可能性が考えられる。 D-123 隅丸長方形 3.92 1.60 0.36 逆台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-124 隅丸長方形 3.92 1.60 0.36 逆台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-127 欠番 1.28 0.4 並台形								+	
D-116 楕円形 1.24 0.72 0.08 逆台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-117 腐丸長方形 1.44 0.76 0.32 逆台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-118 腐丸長方形 1.32 0.72 0.08 逆台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-119 腐丸長方形 1.32 0.72 0.08 逆台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-120 腐丸長方形 (224) 0.72 0.32 逆台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-121 腐丸長方形 (224) 0.72 0.32 逆台形 1783 年以降 後旧清の可能性が考えられる。 D-122 腐丸長方形 (224) 0.72 0.32 逆台形 1783 年以降 形状から復旧満の可能性が考えられる。 D-123 腐丸長方形 (234) 0.64 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧満の可能性が考えられる。 D-123 腐丸長方形 (108 0.68 0.08 逆台形 (1783 年以降 度日清の可能性が考えられる。 1783 年以降 度旧清の可能性が考えられる。 D-124 腐丸長方形 (1783 年以降 度日清の可能性が考えられる。 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-125 不整形 (1.52 1.08 0.40 逆台形 (1783 年以降 度日清の可能性が考えられる。 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-129 欠番 1.76 (1.00 0.56 箱形 生師器(雙) 6世紀初頭 Hr-FAの一次堆積層が認められた。 D-131 欠番 1.28 (24 逆分形 生師器 (雙) 6世紀初頭 Hr-FAの一次堆積層が認められた。 D-131 欠番 1.24 (0.92) (24 逆分形 生師器 (1.104 0.92) (24 逆分形 生師器 (1.104 0.92) (24 逆分形 生師器 (1.104 0.92) (24 逆分形 上現品 (1.104 0.92) (24 逆分形 上現品 (1.104 0.92) (24 逆分形 上現品 (1.104 0.92) (24 逆分形 一 1.104 0.92) (24 逆分形								. 	
D-117 関丸長方形 1.44 0.76 0.32 逆台形 同器(皿) 1783 年以降 復旧満の可能性が考えられる。 D-118 関丸長方形 1.92 0.72 0.08 逆台形 1783 年以降 復旧満の可能性が考えられる。 D-120 関丸長方形 <2.24			_					+	
D-118 関丸長方形 1.92 0.72 0.24 逆台形 1783 年以降 復旧満の可能性が考えられる。 D-119 関丸長方形 1.32 0.72 0.08 逆台形 1783 年以降 復旧満の可能性が考えられる。 D-120 関丸長方形 3.36 0.80 0.56 逆台形 1783 年以降 形状から復旧満の可能性が考えられる。 D-121 関丸長方形 3.36 0.80 0.56 逆台形 1783 年以降 形状から復旧満の可能性が考えられる。 D-122 関丸長方形 2.32 0.64 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧満の可能性が考えられる。 D-123 関丸長方形 1.08 0.68 0.08 逆台形 1783 年以降 機目満の可能性が考えられる。 D-123 不整形 1.52 1.08 0.40 逆台形 1783 年以降 復旧満の可能性が考えられる。 D-125 不整形 1.52 1.08 0.40 逆台形 1783 年以降 復旧満の可能性が考えられる。 D-127 欠番 7 7 7 7 1783 年以降 復旧満の可能性が考えられる。 D-128 欠番 7 7 7 1.76 1.00 0.56 箱形 上師器(連) 6 世紀初頭 Hr-FA の一次堆積層が認められた。 D-130 欠番							Platte (mt)		
D-119 関丸長方形 1.32 0.72 0.08 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-120 関丸長方形 (2.24) 0.72 0.32 逆台形 1783 年以降 形状から復旧清の可能性が考えられる。 D-121 関丸長方形 2.32 0.64 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧清の可能性が考えられる。 D-123 関丸長方形 1.08 0.68 0.08 逆台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-124 関丸長方形 3.92 1.60 0.36 逆台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-124 関丸長方形 3.92 1.60 0.36 逆台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-126 (開丸長方形) 1.02 0.48 逆台形 1783 年以降 復旧清の可能性が考えられる。 D-129 欠番 1.76 1.00 0.56 箱形 土飾器(糞) 6世紀初頭 Hr-FA の一次堆積層が認められた。 D-131 欠番 1.76 1.28 0.24 逆台形 1 10 1 1 1 1 1 1 1 1 1							陶奋(皿)	+	
D-120 関丸長方形 〈2.24〉 0.72 0.32 逆台形 1783 年以降 形状から復旧満の可能性が考えられる。 D-121 関丸長方形 3.36 0.80 0.56 逆台形 1783 年以降 形状から復旧満の可能性が考えられる。 D-122 関丸長方形 1.08 0.68 0.08 逆台形 1783 年以降 形状から復旧満の可能性が考えられる。 D-124 関丸長方形 1.08 0.68 0.08 逆台形 1783 年以降 復旧満の可能性が考えられる。 D-124 関丸長方形 1.52 1.08 0.40 逆台形 1783 年以降 復旧満の可能性が考えられる。 D-125 不整形 1.52 1.08 0.40 逆台形 1783 年以降 復旧満の可能性が考えられる。 D-127 次番 1.76 0.48 逆台形 1783 年以降 復旧満の可能性が考えられる。 D-131 欠番 1.76 1.0 0.56 箱形 土師器(雙) 6世紀初頭 Hr-FA の一次堆積層が認められた。 D-133 内形 1.76 1.28 0.24 逆台形 一 1108 ~1783 年 一 D-134 円形 1.24 (0.88) 0.40 逆台形 </td <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>									
D-121 関丸長方形 3.36 0.80 0.56 逆台形 1783 年以降 形状から復旧満の可能性が考えられる。 D-122 関丸長方形 2.32 0.64 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧満の可能性が考えられる。 D-123 関丸長方形 3.92 1.60 0.36 逆台形 1783 年以降 復旧満の可能性が考えられる。 D-124 関丸長方形 3.92 1.60 0.36 逆台形 1783 年以降 復旧満の可能性が考えられる。 D-125 不整形 1.52 1.08 0.40 逆台形 1783 年以降 復旧満の可能性が考えられる。 D-126 〈隅丸長方形〉 2.08 〈1.76〉 0.48 逆台形 1783 年以降 復旧満の可能性が考えられる。 D-127 欠番 D-128 欠番 人番 1.76 1.00 0.56 箱形 土師器(養) 6世紀初頭 Hr-FA の一次堆積層が認められた。 D-131 欠番 D-132 欠番 1.76 1.28 0.24 逆台形 土製品(円盤状土製品) - D-134 円形 1.24 (0.88) 0.40 逆台形 - 1108 ~ 1783 年 復旧満の可能性が考えられる。 D-137 欠番 1.04 (郊東長方形) 2.84 0.72 0.32 逆台形 - - - <t< td=""><td></td><td></td><td>_</td><td></td><td>_</td><td></td><td></td><td>+</td><td></td></t<>			_		_			+	
D-122 関丸長方形								+	
D-123 関丸長方形 1.08 0.68 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-124 関丸長方形 3.92 1.60 0.36 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-125 不整形 1.52 1.08 0.40 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-126 (隅丸長方形〉 2.08 (1.76) 0.48 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-127 欠番 D-128 欠番 0.48 逆台形 上師器(葉) 6世紀初頭 Hr-FA の一次堆積層が認められた。 D-131 欠番 D-132 欠番 0.40 逆台形 土製品(円盤状土製品) - - D-134 円形 1.24 (0.88) 0.40 逆台形 上製品(円盤状土製品) - - D-136 不整形 1.04 (0.92) 0.44 逆台形 - - - D-137 欠番 1.108 (2.84 0.72 0.32 逆台形 一 - - - D-137 欠番 2.84 0.72 0.32 逆台形 一 - - - D-140 〈隅丸長方形〉 1.48 (1.40) 0.20 逆台形 - - - D-141 欠番 0.96 0.48 0.40 逆台形 0.9								-	
D-125 不整形 1.52 1.08 0.40 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-126 〈関丸長方形〉 2.08 〈1.76〉 0.48 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-127 欠番 7条 D-128 欠番 7条 D-130 関丸長方形 1.76 1.00 0.56 箱形 土師器(妻) 6世紀初頭 Hr-FA の一次堆積層が認められた。 D-131 欠番 D-132 欠番 D-133 関丸長方形 1.76 1.28 0.24 逆台形 土製品(円盤状土製品) — D-134 円形 1.24 〈0.88〉 0.40 逆台形 1108 ~ 1783 年 D-135 不整形 1.04 〈0.92〉 0.44 逆台形 — D-136 不整形 2.00 1.60 0.24 逆台形 — D-138 関丸長方形 2.84 0.72 0.32 逆台形 — D-140 〈関丸長方形〉 1.48 〈1.40〉 0.20 逆台形 — D-141 へ整形 0.96 0.48 0.40 逆台形 — D-144 へ整形 0.96 0.48 0.48 逆台形 — D-144 へ番 1.184 大番 1.182 0.96 0.32 逆台形 D-144 関丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 — D-145 関丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 17								+	
D-126 〈関丸長方形〉 2.08 〈1.76〉 0.48 遊台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-127 欠番 D-128 欠番 D-129 欠番 D-130 関丸長方形 1.76 1.00 0.56 箱形 土師器(製) 6世紀初頭 田-FAの一次堆積層が認められた。 D-131 欠番 D-133 関丸長方形 1.76 1.28 0.24 逆台形 土製品(円盤状土製品) - D-133 不整形 1.04 〈0.88〉 0.40 逆台形 1.08 0.24 逆台形 - 1108 ~ 1783 年 D-135 不整形 1.04 〈0.92〉 0.44 逆台形 - - D-137 欠番 - - D-138 関丸長方形 2.84 0.72 0.32 逆台形 - 一 D-139 欠番 - D-140 〈関丸長方形 1.48 〈1.40〉 0.20 逆台形 - - D-141 欠番 - D-142 不整形 0.96 0.48 0.40 逆台形 - - D-143 関丸長方形 1.32 0.96 0.32 逆台形 - - D-144 欠番 - D-144 欠番 - D-144 欠番 - D-145 関丸長方形 1.32 0.96 0.32 逆台形 - - D-146 関丸長方形 1.52 0.96 0.36 逆台形 - - D-147 関丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 - 原台形 - D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 - 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 - 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。	D-124	隅丸長方形	3.92	1.60	0.36	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-127 欠番 D-128 欠番 D-129 欠番 D-130 関丸長方形 1.76 1.00 0.56 箱形 土師器(甕) 6世紀初頭 Hr-FAの一次堆積層が認められた。 D-131 欠番 D-132 欠番 D-133 関丸長方形 1.76 1.28 0.24 逆台形 土製品(円盤状土製品) — D-134 円形 1.24 (0.88) 0.40 逆台形 1.05 不整形 1.04 (0.92) 0.44 逆台形 — D-135 不整形 2.00 1.60 0.24 逆台形 — D-137 欠番 D-138 関丸長方形 2.84 0.72 0.32 逆台形	D-125	不整形	1.52	1.08	0.40	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-128 欠番 D-129 欠番 D-130 関丸長方形 1.76 1.00 0.56 箱形 上師器(漿) 6世紀初頭 Hr-FA の一次堆積層が認められた。 D-131 欠番 D-132 欠番 D-133 関丸長方形 1.76 1.28 0.24 逆台形 土製品(円盤状土製品) - D-133 開丸長方形 1.24 (0.88) 0.40 逆台形 1108 ~ 1783 年 D-135 不整形 1.04 (0.92) 0.44 逆台形 - D-136 不整形 2.00 1.60 0.24 逆台形 - D-137 欠番 D-138 開丸長方形 2.84 0.72 0.32 逆台形 - D-139 欠番 D-140 (関丸長方形) 1.48 (1.40) 0.20 逆台形 - D-141 欠番 D-142 不整形 0.96 0.48 0.40 逆台形 - D-144 欠番 D-144 欠番 D-145 開丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 - D-145 開丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-147 開丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降	-		2.08	⟨1.76⟩	0.48	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-129 欠番 CPT D-130 隅丸長方形 1.76 1.00 0.56 箱形 土師器(甕) 6世紀初頭 Hr-FA の一次堆積層が認められた。 D-131 欠番 D-132 欠番 D-133 隅丸長方形 1.76 1.28 0.24 逆台形 土製品(円盤状土製品) — D-133 隅丸長方形 1.24 (0.88) 0.40 逆台形 1108 ~ 1783 年 D-135 不整形 1.04 (0.92) 0.44 逆台形 — D-136 不整形 2.00 1.60 0.24 逆台形 — D-137 欠番 **** <td< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></td<>									
D-130 関丸長方形 1.76 1.00 0.56 箱形 上師器(甕) 6世紀初頭 Hr-FA の一次堆積層が認められた。 D-131 欠番 D-132 欠番 D-133 関丸長方形 1.76 1.28 0.24 逆台形 上製品(円盤状土製品) — D-134 円形 1.24 (0.88) 0.40 逆台形 1108 ~ 1783 年 — D-135 不整形 1.04 (0.92) 0.44 逆台形 — D-136 不整形 2.00 1.60 0.24 逆台形 — D-137 欠番 URL URL<									
D-131 欠番 D-132 欠番 D-133 関丸長方形 1.76 1.28 0.24 逆台形 土製品 (円盤状土製品) ー D-134 円形 1.24 (0.88) 0.40 逆台形 1108 ~ 1783 年 D-135 不整形 1.04 (0.92) 0.44 逆台形 - D-136 不整形 2.00 1.60 0.24 逆台形 - D-137 欠番 D-138 開丸長方形 2.84 0.72 0.32 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-139 欠番 D-140 〈隅丸長方形〉 1.48 (1.40) 0.20 逆台形 - D-141 欠番 D-142 不整形 0.96 0.48 0.40 逆台形 - D-143 隅丸長方形 1.32 0.96 0.32 逆台形 - D-144 欠番 D-144 欠番 D-145 隅丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-146 隅丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-147 隅丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降 振状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。	-						Literan (also)	L - monte	I d WARTING
D-132 欠番 D-133 隅丸長方形 1.76 1.28 0.24 逆台形 土製品(円盤状土製品) — D-133 円形 1.24 (0.88) 0.40 逆台形 1108 ~ 1783 年 D-135 不整形 1.04 (0.92) 0.44 逆台形 — D-136 不整形 2.00 1.60 0.24 逆台形 — D-137 欠番 — — D-138 隅丸長方形 2.84 0.72 0.32 逆台形 — D-138 隅丸長方形 2.84 0.72 0.32 逆台形 — [1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-140 〈隅丸長方形〉 1.48 (1.40) 0.20 逆台形 — — D-141 欠番 — — — — D-143 隅丸長方形 1.32 0.96 0.32 逆台形 — — D-144 欠番 — — — — D-144 欠番 — — — — D-145 隅丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 — 下状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-146 隅丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 1783 年以降 複旧溝の可能性が考えられる。			1.76	1.00	0.56	箱形	土帥器(甕)	6世紀初頭	Hr-FA の一次堆積層が認められた。
D-133 関丸長方形 1.76 1.28 0.24 逆台形 土製品(円盤状土製品) — D-134 円形 1.24 (0.88) 0.40 逆台形 1108 ~ 1783 年 D-135 不整形 1.04 (0.92) 0.44 逆台形 — D-136 不整形 2.00 1.60 0.24 逆台形 — D-137 欠番 — 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-138 関丸長方形 2.84 0.72 0.32 逆台形 — D-139 欠番 — — ● D-140 〈隅丸長方形〉 1.48 (1.40) 0.20 逆台形 — D-141 欠番 — ● ● D-142 不整形 0.96 0.48 0.40 逆台形 — D-143 隅丸長方形 1.32 0.96 0.32 逆台形 — D-144 欠番 ● ● ● D-145 隅丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-146 隅丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-147 隅丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。									
D-134 円形 1.24 (0.88) 0.40 逆台形 1108~1783年 D-135 不整形 1.04 (0.92) 0.44 逆台形 一 D-136 不整形 2.00 1.60 0.24 逆台形 一 D-137 欠番 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-138 隅丸長方形 2.84 0.72 0.32 逆台形 一 D-139 欠番 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-140 (隅丸長方形) 1.48 (1.40) 0.20 逆台形 一 D-141 欠番 - D-143 隅丸長方形 1.32 0.96 0.32 逆台形 一 D-144 欠番 - D-145 隅丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-145 隅丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-147 隅丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 1783 年以降 複旧溝の可能性が考えられる。			1.70	1.20	0.24	満ム形	十制口 (田粉化工制口)	<u></u>	<u> </u>
D-135 不整形 1.04 (0.92) 0.44 逆台形 — D-136 不整形 2.00 1.60 0.24 逆台形 — D-137 欠番 — 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-138 隅丸長方形 2.84 0.72 0.32 逆台形 — D-139 欠番 — — — — D-140 (隅丸長方形) 1.48 (1.40) 0.20 逆台形 — — — D-141 欠番 —	-		_		_		上表印(门盤朳工製品)	1100~1702年	
D-136 不整形 2.00 1.60 0.24 逆台形 - D-137 欠番 - 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-138 関丸長方形 2.84 0.72 0.32 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-149 欠番 -								- 1100~1783年	
D-137 欠番 D-138 関丸長方形 2.84 0.72 0.32 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-139 欠番 D-140 (関丸長方形) 1.48 (1.40) 0.20 逆台形 — D-141 欠番 — — D-142 不整形 0.96 0.48 0.40 逆台形 — D-143 関丸長方形 1.32 0.96 0.32 逆台形 — D-144 欠番 — D-145 関丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-146 — D-147 関丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。								_	
D-138 関丸長方形 2.84 0.72 0.32 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。 D-139 欠番 D-140 〈隅丸長方形〉 1.48 〈1.40〉 0.20 逆台形 — D-141 欠番 D-142 不整形 0.96 0.48 0.40 逆台形 — D-143 隅丸長方形 1.32 0.96 0.32 逆台形 — D-144 欠番 D-144 欠番 — 下状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-146 B丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-147 隅丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 1783 年以降 複旧溝の可能性が考えられる。			2.00	1.00	0.24	AZ-[]/D		<u> </u>	I
D-139 欠番 D-140 〈隅丸長方形〉 1.48 〈1.40〉 0.20 逆台形 一 D-141 欠番 一 D-142 不整形 0.96 0.48 0.40 逆台形 — 一 D-143 隅丸長方形 1.32 0.96 0.32 逆台形 — 一 D-144 欠番 一 D-145 隅丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 月783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-146 隅丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 月783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-147 隅丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 月783 年以降 極大から復旧溝の可能性が考えられる。 D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 月783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。			2.84	0.72	0,32	逆台形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-140〈隅丸長方形〉 1.48 〈1.40〉 0.20 逆台形 - D-141 欠番 - D-142 不整形 0.96 0.48 0.40 逆台形 - D-143 隅丸長方形 1.32 0.96 0.32 逆台形 - D-144 欠番 - D-145 隅丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-146 - D-147 隅丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 1783 年以降 複旧溝の可能性が考えられる。				,		~= 11/12	<u> </u>	1 22 1 2017	1
D-141 欠番 D-142 不整形 0.96 0.48 0.40 逆台形 D-143 関丸長方形 1.32 0.96 0.32 逆台形 D-144 欠番 D-145 関丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 D-145 関丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 D-146 関丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 D-147 関丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 1783 年以降 複旧溝の可能性が考えられる。			1.48	⟨1.40⟩	0.20	逆台形		_	
D-142 不整形 0.96 0.48 0.40 逆台形 - D-143 隅丸長方形 1.32 0.96 0.32 逆台形 - D-144 欠番 D-145 隅丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-146 カー D-147 隅丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。									
D-143 関丸長方形 1.32 0.96 0.32 逆台形 - D-144 欠番 - - - D-145 関丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-146 -			0.96	0.48	0.40	逆台形		_	
D-145 隅丸長方形 4.88 0.84 0.48 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-146 D-147 隅丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。	-			0.96	0.32				
D-146 D-147 開丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。	D-144	欠番							
D-147 関丸長方形 2.52 0.56 0.36 逆台形 1783 年以降 形状から復旧溝の可能性が考えられる。 D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。	D-145	隅丸長方形	4.88	0.84	0.48	逆台形		1783 年以降	形状から復旧溝の可能性が考えられる。
D-148 不整形 5.20 1.20 0.24 逆台形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。									
			_		_			+	
D-149 隅丸長万形 5.68 0.48 0.48 箱形 1783 年以降 復旧溝の可能性が考えられる。									
<u> </u>	D-149	隅丸長方形	5.68	0.88	0.48	箱形		1783 年以降	復旧溝の可能性が考えられる。

第3表 遺構観察表(3)

掘立柱建物址・ピット列観察表

遺構名	平面形		規模(m)		主軸方位	時期	備考
退開石	十山形	長軸	短軸	柱間	土翈刀似	时州	1用号
HT-1	側柱	3.76	3.44	1.96	N-65° - E	1108 年以降	
HT-2	側柱	4.48	2.28	2.36	N-25° - W	1108 年以降	
HT-3	側柱	7.36	3.76	2.16	N-65° - E	1108 年以降	
HT-4	側柱	⟨4.44⟩	3.44	1.64	N-70° - E	1108 年以降	
HT-5	側柱	3.76	1.92	2.04	N-67° - E	1108 年以降	
HT-6	側柱	4.88	2.04	3.44	N-27° - W	1108 年以降	
HT-7	側柱	4.12	2.16	2.32	N-67° - E	1108 年以降	
HT-8	側柱	3.28	⟨1.52⟩	1.84	N-20° - W	1108 年以降	
HT-9	側柱	2.08	1.16	1.04	N-66° - E	1108 年以降	
HT-10	側柱	5.32	3.28	2.72	N-30° - W	1108 年以降	
HT-11	側柱	2.60	1.00	1.84	N-64° - E	1108 年以降	
HT-12	側柱	4.48	2.00	2.60	N-63° - E	1108 年以降	
P列-1	南北方向	6.88	_	$1.56 \sim 2.80$	N-30° - W	1108 年以降	
P列-2-1	東西方向	5.68		$1.88 \sim 1.92$	N-60° - E	1108 年以降	
P列-2-2	南北方向	4.52	_	$2.20 \sim 2.32$	N-25° - W	1108 年以降	
P列-3	東西方向	4.88	_	$1.44 \sim 1.88$	N-60° - E	1108 年以降	
P列-4	東西方向	4.56	ı	$1.32 \sim 1.84$	N-61° - E	1108 年以降	
P列-5	東西方向	8.72	-	$2.80 \sim 2.96$	N-60° - E	1108 年以降	
P列-6	東西方向	11.60	_	$1.08 \sim 2.24$	N-61° - E	1108 年以降	
P列-7	東西方向	6.24	_	$2.88 \sim 3.36$	N-59° - E	1108 年以降	
P列-8	東西方向	8.96	_	$2.00 \sim 2.80$	N-65° - E	1108 年以降	
P列-9	南北方向	7.08	_	$1.12 \sim 1.64$	N-35° - W	1108 年以降	
P列-10	東西方向	⟨5.80⟩	_	$0.88 \sim 1.84$	N-60° - E	1108 年以降	
P列-11	東西方向	⟨5.56⟩	_	$1.84 \sim 1.88$	N-60° - E	1108 年以降	

溝観察表

遺構名		規模(m)		走行方向	遺物	時期	備考
退押石	上端幅	下端幅	深さ	足11万间	超初	时州	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
M-1	2.80 ~ 3.65	0.30 ~ 1.10	1.88	N-64° - E	陶器(鉢・甕)、鍛冶関連遺物 (境形鍛冶滓)	1108~1783年	海竜寺関連施設に伴う 区画溝と考えられる。
M-2	$0.60 \sim 0.80$	$0.40 \sim 0.50$	0.80	N-24° - W		1783 年以降	溝として扱ったが復旧 溝の可能性も考慮され る。
M-3	欠番						
M-4	1.10 ~ 1.40	0.90 ~ 1.20	0.56	N-63° - E		1108~1783年	海竜寺関連施設に伴う 区画溝と考えられる。
M-5	欠番						
M-6	0.50 ~ 1.60	0.25 ~ 0.75	1.32	N-65° - E	かわらけ、燈明皿、軟質陶器(内 耳鍋)、瓦(平瓦)、石製品(石 塔・穀物臼)、鍛冶関連遺物(鞴 羽口)		海竜寺関連施設に伴う 区画溝と考えられる。
M-7	欠番					•	
M-8	$0.50 \sim 1.50$	$0.30 \sim 0.65$	0.56	N-65° - E	かわらけ、軟質陶器(内耳鍋)	1108~1783年	海竜寺関連施設に伴う 区画溝と考えられる。
M-9	$0.50 \sim 1.20$	$0.10 \sim 0.70$	0.40	N-63° - E		1108~1783年	海竜寺関連施設に伴う 区画溝と考えられる。

配石遺構観察表

遺構名	平面形	規	模	遺物	時期	備考
退悔行	十回ル	長軸	短軸	1-1.4		
S-1	長方形	1.76	1.20	陶器(皿)、石製品(茶臼・穀物臼)	1108~1783年	土坑状の掘り込みが認められ、石積 みが施される。
S-2	隅丸長方形	2.08	1.20	陶器(擂鉢)、石製品(茶臼・穀物臼)	1108~1783年	平らに石が敷かれる。
S-3	不整形	1.20	0.64	鍛冶関連遺物(鞴羽口)	1108~1783年	土坑状の掘り込みが認められる。
S-4	隅丸長方形	1.36	1.32	陶器 (皿)	1108~1783年	土坑状の掘り込みが認められる。
S-5	不整形	0.48	0.44		1108~1783年	
S-6	不整形	0.44	0.24	陶器(擂鉢)	1108~1783年	
S-15	列状	⟨3.04⟩	0.96		1108~1783年	
S-20	列状	⟨6.36⟩	1.76	陶器(鉢)・石製品(砥石・板碑)	1108~1783年	
S-23	不整形	1.52	1.52		1108~1783年	

第4表 遺構観察表(4)

ピット観察表(1)

)虫排力		規模		烘土	・鬼様な		規模		/#: -1z.	油排力		規模		/#: ±z
遺構名	長軸	短軸	深さ	備考	遺構名	長軸	短軸	深さ	備考	遺構名	長軸	短軸	深さ	備考
SP01	0.36	0.33	0.32		SP50	0.49	0.40	0.23		SP99	0.38	0.34	0.07	4P列P2
SP02	0.46	0.36	0.27		SP51	0.37	0.36	0.48		SP100	0.38	0.37	0.21	4 P 列 P 3
SP03	0.41	0.36	0.35		SP52	0.32	0.28	_		SP101	0.41	0.40	0.16	4 P 列 P 4
SP04	0.50	0.37	0.36		SP53	0.41	0.37	_		SP102	0.38	0.37	0.22	
SP05	0.39	0.36	0.24		SP54	0.40	0.38	0.94		SP103	0.42	0.37	0.17	
SP06	0.28	0.26	0.22		SP55	0.34	0.28	0.15		SP104	0.44	0.39	0.09	
SP07	0.38	0.36	0.36		SP56	0.76	0.49	0.47		SP105	0.44	0.40	0.18	
SP08	0.47	0.42	0.36		SP57	0.79	0.51	0.30		SP106	0.40	0.36	0.24	
SP09	0.28	0.26	0.31		SP58	0.50	0.50	0.26		SP107	0.34	0.33	0.39	
SP10	0.41	0.30	0.10		SP59	0.29	0.27	0.18		SP108	0.45	0.44	0.23	5 P 列 P 1
SP11	0.20	0.18	0.33		SP60	0.56	0.55	0.29		SP109	0.28	0.28	0.34	
SP12	0.27	0.25	0.07		SP61	0.50	0.47	0.31		SP110	0.33	0.28	0.72	
SP13	0.36	0.33	0.13		SP62	0.39	0.34	0.21		SP111	0.41	0.39	0.24	5P列P2
SP14	0.33	0.31	0.08		SP63	0.56	0.41	0.30		SP112	0.52	0.43	0.33	
SP15	0.30	0.29	0.08		SP64	0.66	0.64	0.20		SP113	0.53	0.48	0.28	5P列P3
SP16	0.25	0.24	0.10		SP65	0.45	0.39	0.18		SP114	0.60	0.43	0.20	
SP17	0.37	0.36	0.22		SP66	0.26	0.22	0.30		SP115	0.41	0.35	0.24	
SP18	0.26	0.26	0.40		SP67	0.29	0.28	0.59		SP116	0.44	0.39	0.12	
SP19	0.26	0.25	0.19		SP68	0.61	0.52	0.25		SP117	0.52	0.48	0.26	5 P 列 P 4
SP20	0.21	0.19	0.20		SP69	0.31	0.30	0.28		SP118	0.68	0.59	0.15	
SP21	0.22	0.20	0.21		SP70	0.28	0.28	0.17		SP119	0.53	0.43	0.44	
SP22	0.44	0.37	0.22		SP71	0.32	0.32	0.35		SP120	0.58	0.45	0.32	
SP23	0.31	0.30	0.54		SP72	0.31	0.29	0.34		SP121	0.31	0.30	0.30	
SP24	0.33	0.32	0.38		SP73	0.43	0.42	0.19		SP122	0.49	0.49	0.08	
SP25	0.34	0.34	0.14		SP74	0.34	0.33	0.26		SP123	0.50	0.48	0.02	
SP26	0.31	0.31	0.12		SP75	0.32	0.25	0.29		SP124	0.34	0.33	_	
SP27	0.35	0.34	0.17		SP76	0.28	0.27	0.05		SP125	0.34	0.32	_	
SP28	0.44	0.41	0.29		SP77	0.29	0.27	0.26		SP126	0.34	0.29	0.11	
SP29	0.45	0.38	0.15		SP78	0.32	0.30	0.17		SP127	0.24	0.17	_	
SP30	0.42	0.38	0.20		SP79	0.21	0.20	0.05		SP128	0.25	0.21	0.24	
SP31	0.37	0.34	0.23		SP80	0.36	0.32	0.11		SP129	0.27	0.23	0.21	
SP32	0.47	0.45	0.07		SP81	0.32	0.30	0.21		SP130	0.25	0.21	0.25	
SP33	0.43	0.39	0.33		SP82	0.34	0.33	0.02		SP131	0.31	0.26	0.25	
SP34	0.51	0.44	0.23		SP83	0.38	0.37	0.33		SP132	0.33	0.29	0.38	
SP35	0.62	0.48	_		SP84	0.24	0.24	0.24		SP133	0.23	0.21	0.18	
SP36	0.52	0.47	0.26		SP85	0.34	0.28	0.39		SP134	0.33	0.28	0.12	
SP37	0.32	0.32	0.52		SP86	0.37	0.31	0.16		SP135	0.33	0.31	0.30	
SP38	0.80	0.62	0.22		SP87	0.28	0.26	0.47		SP136	0.41	0.35	0.14	
SP39	0.28	0.21	0.08		SP88	0.52	0.52	0.41		SP137	0.29	0.29	0.08	
SP40	0.32	0.26	0.06		SP89	0.23	0.22	0.11		SP138	0.31	0.22	0.13	
SP41	0.47	0.47	0.52		SP90	0.48	0.41	0.45		SP139	0.35	0.31	0.37	
SP42	0.35	0.35	0.22		SP91	0.48	0.42	0.22		SP140	0.45	0.42	0.17	
SP43	0.53	0.51	0.59		SP92	0.55	0.50	0.31		SP141	0.33	0.30	0.22	
SP44	0.53	0.50	0.42		SP93	0.48	0.45	0.34		SP142	0.76	0.48	0.46	
SP45	0.53	0.50	0.37		SP94	0.52	0.50	0.21	3P列P1	SP143	0.42	0.41	0.54	
SP46	0.54	0.47	0.38		SP95	0.38	0.29	0.12	3P列P2	SP144	0.47	0.41	0.18	
SP47	0.47	0.46	0.47		SP96	0.46	0.43	0.13	3P列P3	SP145	0.34	0.29	0.02	
SP48	0.41	0.40	0.65		SP97	0.39	0.37	0.13	3 P 列 P 4	SP146	0.65	0.49	0.09	
SP49	0.43	0.42	0.71		SP98	0.31	0.28	0.16	4P列P1	SP147	0.37	0.21	0.02	
01 10	1 0.10	U. 12	0.71		0.00	0.01	0.20	0.10	/ /	0.111	0.01	Ų.21	0.02	

第5表 遺構観察表(5)

ピット観察表(2)

		規模					+0.45				1	規模		ı
遺構名	長軸	短軸	深さ	備考	遺構名	長軸	規模 短軸	深さ	備考	遺構名	長軸	短軸	深さ	備考
SP148	0.56	0.38	0.47		SP197	0.22	0.22	0.23		SP246	0.00	0.34	0.13	
SP149	0.28	0.20	0.30		SP198	0.84	0.57	0.52		SP247	0.39	0.28	0.37	
SP150	0.26	0.25	0.07		SP199	0.86	0.48	0.61		SP248	0.31	0.27	0.35	
SP151	0.33	0.31	0.22	2P列P3	SP200	0.53	0.47	0.21		SP249	0.38	0.33	0.43	
SP152	0.27	0.24	0.10		SP201	0.24	0.24	0.12		SP250	0.38	0.38	0.55	
SP153	0.36	0.32	0.31	HT10P 3	SP202	0.40	0.36	0.25		SP251	0.47	0.41	0.31	6P列P5
SP154	0.33	0.29	0.16	2P列P2	SP203	0.33	0.25	0.11		SP252	0.31	0.21	0.30	8 P 列 P 1
SP155	0.50	0.49	0.41		SP204	0.28	0.26	0.10		SP253	0.55	0.45	0.08	6P列P6
SP156	0.39	0.38	0.48		SP205	0.39	0.29	0.12		SP254	0.26	0.21	0.26	8P列P2
SP157	0.28	0.24	0.30		SP206	0.24	0.19	0.10		SP255	0.38	0.32	0.24	6 P 列 P 7
SP158	0.32	0.31	0.43		SP207	0.40	0.38	0.20		SP256	0.32	0.28	0.15	
SP159	0.45	0.37	0.25	HT 2P 2	SP208	0.31	0.23	0.07		SP257	0.46	0.37	0.41	7 P 列 P 2
SP160	0.68	0.60	0.62	HT1P 1	SP209	0.28	0.25	0.54		SP258	0.25	0.22	0.11	8P列P3
SP161	0.65	0.48	0.66		SP210	0.43	0.41	0.42		SP259	0.27	0.24	0.14	8 P 列 P 4
SP162	0.32	0.30	0.28	HT5P 1	SP211	0.28	0.25	0.38	HT 2P 6	SP260	0.30	0.29	0.30	
SP163	0.47	0.43	0.35	HT3P 2	SP212	0.43	0.40	0.47		SP261	0.37	0.30	0.09	
SP164	0.18	0.18	0.11		SP213	0.31	0.28	0.25		SP262	0.41	0.40	0.19	
SP165	0.52	0.44	0.29	HT5P 4	SP214	0.24	0.21	0.29		SP263	0.35	0.21	0.13	
SP166	0.42	0.43	0.48		SP215	0.23	0.22	0.31		SP264	0.43	0.41	0.14	
SP167	0.85	0.75	0.26		SP216	0.56	0.49	_		SP265	0.53	0.45	0.21	
SP168	0.49	0.46	0.23	HT 6P 5	SP217	0.33	0.30	0.45		SP266	0.45	0.41	_	
SP169	0.67	0.49	_		SP218	0.30	0.30	0.23		SP267	0.40	0.34	0.18	
SP170	0.86	0.60	0.56	HT1P	SP219	0.39	0.39	0.27		SP268	0.26	0.26	0.22	HT12P 6
SP171	0.42	0.41	0.09	HT 6P3	SP220	0.74	0.61	0.65	10P列P4	SP269	0.32	0.31	0.34	
SP172	0.47	0.41	0.21		SP221	0.69	0.57	0.53		SP270	0.69	0.48	0.67	HT3P 9
SP173	0.48	0.30	0.65		SP222	0.44	0.44	0.38	10P列P5	SP271	0.33	0.27	0.31	HT12P 3
SP174	0.48	0.44	0.37	HT3P 1	SP223	0.39	0.31	0.43	HT 9P3	SP272	0.40	0.35	0.45	HT12P 2
SP175	0.39	0.28	0.45		SP224	0.32	0.27	0.25	HT 9P 2	SP273	0.28	0.28	_	
SP176	0.23	0.22	0.08		SP225	0.34	0.29	0.11	10P列P4	SP274	0.59	0.53	_	
SP177	0.98	0.69	0.51	HT 1 P 7	SP226	0.49	0.45	0.57	10P列P3	SP275	0.42	0.31	_	
SP178	0.52	0.44	0.65	HT10P 5	SP227	0.29	0.29	0.28		SP276	0.28	0.24	_	
SP179	0.42	0.40	0.39	HT10P 6	SP228	0.23	0.22	0.28		SP277	0.40	0.35	0.18	
SP180	0.32	0.28	0.14	2 P 列 P 4	SP229	0.42	0.41	0.40		SP278	0.41	0.31	0.06	
SP181	0.34	0.34	0.34	2P列P5	SP230	0.68	0.65	0.65	НТЗР З	SP279	0.25	0.22	0.17	HT12P 5
SP182	0.28	0.25	0.23		SP231	0.36	0.27	0.52		SP280	0.45	0.40	0.33	
SP183	0.39	0.33	0.19	HT10P 1	SP232	0.43	0.38	0.69		SP281	0.30	0.30	0.36	
SP184	0.38	0.37	0.20	HT10P 2	SP233	0.66	0.61	0.49		SP282	0.47	0.35	0.32	HT12P 1
SP185	0.80	0.44	0.56	HT1P 4	SP234	0.41	0.34	0.33	HT 4 P 5	SP283	0.62	0.50	0.59	
SP186	0.55	0.52	0.59		SP235	0.49	0.46	0.22	HT7P 3	SP284	0.44	0.39	0.35	
SP187	0.34	0.31	0.12	2 P 列 P 1	SP236	0.49	0.46	0.59	HT1P 3	SP285	0.35	0.33	0.34	
SP188	0.37	0.57	0.22		SP237	0.98	0.36	0.85	HT3P 5	SP286	0.44	0.35	0.36	10P列P1
SP189	0.35	0.35	0.22	7 P 列 P 3	SP238	0.34	0.21	0.37		SP287	0.58	0.48	0.74	
SP190	0.32	0.32	0.29		SP239	0.74	0.75	0.12		SP288	0.78	0.63	0.89	HT7P 2
SP191	0.33	0.31	0.26		SP240	0.43	0.32	0.05		SP289	0.37	0.36	0.30	
SP192	0.41	0.27	0.19		SP241	0.41	0.40	0.27	6P列P2	SP290	0.27	0.22	0.67	HT11P 2
SP193	0.34	0.34	0.24		SP242	0.34	0.33	0.34		SP291	0.40	0.35	0.60	
SP194	0.33	0.31	0.24		SP243	0.39	0.36	0.23	6 P 列 P 3	SP292	0.40	0.35	0.41	9P列P3
SP195	0.46	0.44	0.21		SP244	0.28	0.27	0.13		SP293	0.38	0.29	0.30	HT 9P 5
			H						6 P 列 P 4		0.51	0.45	0.53	

第6表 遺構観察表(6)

ピット観察表(3)

当掛力		規模		/##=#z	・鬼世々	1	規模		/±± -4×)虫排力	1	規模		[±±+×
遺構名	長軸	短軸	深さ	備考	遺構名	長軸	短軸	深さ	備考	遺構名	長軸	短軸	深さ	備考
SP295	0.61	0.44	0.28		SP344	0.53	0.38	_		SP393	0.35	0.30	0.37	
SP296	0.34	0.29	0.38	10P列P2	SP345	0.26	0.20	0.29		SP394	0.44	0.27	0.37	
SP297	0.35	0.30	0.29		SP346	0.52	0.25	0.16		SP395	0.31	0.31	0.39	
SP298	0.38	0.35	0.40		SP347	0.40	0.38	0.35	1P列P3	SP396	0.26	0.23	0.26	
SP299	0.49	0.37	0.36	9P列P6	SP348	0.54	0.63	0.12	HT10P 4	SP397	0.31	0.28	0.30	
SP300	0.39	0.32	0.45		SP349	0.31	0.30	_		SP398	0.28	0.26	0.22	
SP301	0.51	0.50	0.39	HT8P 4	SP350	0.58	0.55	_		SP399	0.31	0.27	0.37	
SP302	0.33	0.27	0.24	HT 2P 5	SP351	0.44	0.36	0.24	HT1P 2	SP400	0.26	0.30	0.23	HT 4P 1
SP303	0.28	0.24	0.32		SP352	0.38	0.35	_		SP401	0.25	0.22	0.56	HT5P 5
SP304	0.24	0.21	-		SP353	0.36	0.31	0.44	9P列P2	SP402	0.25	0.22	0.04	
SP305	0.25	0.19	0.23	HT5P 3	SP354	0.34	0.32	0.48	HT12P 4	SP403	0.45	0.43	0.04	
SP306	0.46	0.43	0.66	HT3P 4	SP355	0.46	0.40	0.32	HT8P 1	SP404	0.28	0.24	0.29	HT 6 P 2
SP307	0.56	0.43	0.30	HT8P 2	SP356	0.79	0.52	0.59		SP405	0.36	0.29	0.31	
SP308	0.30	0.30	0.25	HT 4 P 3	SP357	0.41	0.39	0.33	11P列P1	SP406	0.51	0.50	0.59	1P列P2
SP309	0.24	0.21	0.12	HT5P 6	SP358	0.34	0.26	0.53	9P列P1	SP407	0.68	0.63	0.64	
SP310	0.28	0.25	0.51		SP359	0.41	0.37	0.16		SP408	0.27	0.23	0.23	HT 6P 1
SP311	0.54	0.43	_		SP360	0.33	0.32	0.11		SP409	0.49	0.39	0.19	
SP312	0.41	0.40	0.44		SP361	0.56	0.46	0.43		SP410	0.41	0.40	0.30	
SP313	0.58	0.55	0.67	HT 2P 1	SP362	0.29	0.29	0.25		SP411	0.26	0.26	0.25	
SP314	0.38	0.34	_		SP363	0.42	0.34	0.27	2P列P6	SP412	0.29	0.25	0.15	
SP315	0.52	0.41	0.64		SP364	0.51	0.33	0.18	7 P 列 P 1	SP413	0.18	0.17	0.16	
SP316	0.50	0.41	0.58		SP365	0.34	0.33	0.39	1 P 列 P 1	SP414	0.25	0.22	0.14	HT11P 5
SP317	0.71	0.59	0.73	HT3P 8	SP366	0.39	0.29	0.29	9 P 列 P 5	SP415	0.20	0.20	0.14	
SP318	0.72	0.58	0.50	HT 4P 4	SP367	0.46	0.44	0.12	7,7-0	SP416	0.26	0.23	0.22	10P列P3
SP319	0.55	0.42	0.45	-	SP368	0.45	0.43	-		SP417	0.40	0.35	-	7,7-0
SP320	0.34	0.31	0.40		SP369	0.27	0.24	0.22		SP418	0.30	0.24	0.19	
SP321	0.50	0.50	0.44	HT7P 1	SP370	0.38	0.35	-		SP419	0.77	0.41	_	
SP322	0.60	0.54	0.31		SP371	0.53	0.34	0.34		SP420	0.28	0.28	0.22	
SP323	0.45	0.44	0.48	HT 6 P 6	SP372	0.39	0.33	0.60		SP421	0.40	0.32	0.39	HT 4 P 6
SP324	0.49	0.44	0.45	HT3P 6	SP373	0.33	0.33	0.44		SP422	0.40	0.32	0.39	HT11P 3
SP325	0.49	0.40	0.43	11101 0	SP374	0.43	0.38	0.44		SP423	0.13	0.14	0.13	1111111
SP326	0.30	0.30	0.24	HT 2P 4	SP375	0.33	0.21	0.07		SP424	0.30	0.41	- 0.14	
SP327	_	0.40			SP376	0.51	0.24	0.16		SP424	-	0.41	0.09	
	0.36	0.26	0.23	HT5P 2		_				SP425 SP426	0.26	0.19	0.09	HT8P 3
SP328	-				SP377	0.37	0.33	0.40			-		0.88	11101 3
SP329	0.38	0.36	0.44		SP378	0.39	0.52	0.41		SP427	0.56	0.48		
SP330	0.27	0.26	0.38		SP379	0.46	0.45	0.48	<u> </u>	SP428	0.67	0.63	0.22	
SP331	0.27	0.26	0.49		SP380	0.44	0.39	0.28		SP429	0.46	0.34	0.86	
SP332	0.39	0.37	0.33		SP381	0.46	0.44	_		SP430	0.29	0.28	0.08	
SP333	0.29	0.21	0.34	I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	SP382	0.27	0.26	_		SP431	0.20	0.18	0.16	
SP334	0.36	0.34	0.22	HT 6P 4	SP383	0.51	0.47	0.34		SP432	0.24	0.20	0.18	HT 9P 2
SP335	0.29	0.23	0.19		SP384	0.38	0.04	0.24		SP433	0.22	0.22	0.29	HT 9P 1
SP336	0.33	0.32	0.21	HT7P 4	SP385	0.43	0.42	0.62		SP434	0.26	0.25	0.28	
SP337	0.40	0.38	0.44		SP386	0.58	0.41	0.14		SP435	0.32	0.27	0.24	
SP338	0.58	0.49	0.35		SP387	0.46	0.37	0.52		SP436	0.20	0.20	0.18	
SP339	0.49	0.25	0.30		SP388	0.34	0.28	0.28		SP437	0.37	0.34	0.31	HT11P 4
SP340	0.34	0.31	0.20	HT7P 6	SP389	0.42	0.36	0.61		SP438	0.35	0.34	0.12	
SP341	0.32	0.24	0.45		SP390	0.37	0.34	0.54		SP439	0.35	0.34	0.37	9P列P4
SP342	0.32	0.28	0.43		SP391	0.40	0.39	0.74		SP440	0.28	0.24	0.24	HT11P 1
SP343	0.36	0.33	0.53	HT 4 P 2	SP392	0.41	0.36	0.39		SP441	0.36	0.28	0.23	11P列P2

第7表 遺構観察表(7)

遺構名	長軸	規模短軸	深さ	備考
SP442	0.26	0.25	0.16	HT11P 6
SP443	0.34	0.32	0.19	
SP444	0.46	0.40	0.19	8P列P5
SP445	0.59	0.43	0.25	
SP446	0.48	0.46	0.24	
SP447	0.24	0.23	_	
SP448	0.39	0.13	0.18	
SP449	0.42	0.36	0.25	
SP450	0.44	0.40	0.27	
SP451	0.27	0.24	0.38	
SP452	0.32	0.31	0.36	
SP453	0.22	0.22	0.07	
SP454	0.22	0.21	0.30	

遺構名	規模			備考
尼併行	長軸	短軸	深さ	畑与
SP455	0.25	0.23	0.19	
SP456	0.19	0.18	0.04	
SP457	0.42	0.40	0.23	
SP458	0.44	0.39	0.50	HT7P 5
SP459	0.37	0.34	_	
SP460	0.51	0.51	-	
SP461	0.36	0.31	0.24	
SP462	0.39	0.30	0.98	
SP463	0.62	0.61	0.22	
SP464	0.57	0.48	-	
SP465	0.59	0.51	_	
SP466	0.50	0.41	_	
SP467	0.40	0.36	_	

遺構名	規模			備考
退佣石	長軸	短軸	深さ	1 加方
SP468	0.46	0.40	_	
SP469	0.45	0.35	_	
SP470	0.95	0.78	-	
SP471	0.40	0.39	_	
SP472	0.72	0.45	_	
SP473	0.82	0.43	_	
SP474	0.38	0.36	0.32	HT 2P 3
SP475	0.54	0.48	0.80	1 P 列 P 4
SP476	0.48	0.44	_	
SP477	0.25	0.22	_	
SP478	0.58	0.38	_	
SP479	0.27	0.26	_	
SP480	0.32	0.28	0.12	6P列P1

第8表 遺構観察表(8)

VI 出土遺物

1 縄文時代の遺物

遺構の検出には至らなかったが、早期末(外 - 1)、前期末(外 - 2・3)及び中期後半(外 - 4~8)の遺物が出土した。外 - 1は M - 1号溝埋没土中からの出土で混入遺物と考えられる。それ以外の遺物は基本層序収層からの出土である。収層から出土した遺物の大半は中期後半に帰属する。石器は石鏃 1点(外 - 1)、打製石斧 2点(外 -10・11)を図示した。いずれも基本層序収層からの出土である。

2 古墳時代・平安時代の遺物

1) 土師器・須恵器:古墳時代中期後半から後期初頭と平安時代の土器群が出土した。

住居址出土の古墳時代の土器群は5世紀第3四半期(H - 10・12号住居址)、5世紀第4四半期(H - 7・9号住居址)、6世紀第1四半期(H - 1~5・13号住居址)に区分される。土師器の器種には甕、甑、壺、大形鉢、小形甕、小形壺、直口壺、高坏、鉢、埦、坏、手捏ね土器が確認される。甕は丸底と平底があり、平底の甕は胴部が球胴状に張るものと、中~下位にやや膨らみをもつ長胴のものに大別される。甑は前代の有孔鉢の系譜にある小形甑と、須恵器の影響により出現したと考えられる大形甑がある。大形甑の底部は筒抜け状を呈する。高坏は前代の系譜にある、脚部が下位で屈折し短い裾部を作るものと、新たに出現する短脚のものがある。坏は丸底で、いわゆる内湾口縁坏、内斜口縁坏、須恵器模倣坏に分けられる。高坏・坏の内面には放射状へラミガキが多くみられ、黒色処理が施される個体も確認される。また、5世紀第4四半期~6世紀第1四半期には、内底面に「×」の暗文を施すものが目立つ。この暗文は、高坏では前代の系譜にあるものに、坏では内湾口縁坏と内斜口縁坏に認められる。須恵器の器種には坏と聴が確認される。須恵器はH - 2・4・10号住居址で数点出土したのみで、客体的な様相である。以下、各住居址の概要を記す。

H-10号住居址 小形甕、高坏、坏、須恵器坏が出土した。小形甕 $(1\sim3)$ は上げ底気味の平底を呈する。 高坏(4)は前代の系譜にあるもので、口縁部と体部の境に明瞭な稜をもつ。 坏(5)は内斜口縁坏で、 歪みがなく整った形状を呈する。須恵器坏(7)は受部が上方へのび、たちあがりは内傾する。口唇部には面をもち、内稜は鋭い。

H-12号住居址 内湾口縁坏と内斜口縁坏が出土した。H-10号住居址と同様に整った形状である。 内斜口縁坏(1)は身が深く、口縁部の作りは端正である。

H-9号住居址 甕、甑、高坏、鉢が出土した。甕(1)は丸底で肩が張る器形である。口縁部は「く」の字状に外反し、頸部の括れが強い。甑(2)は甕の底部を切り抜いた形状で、括れの弱い頸部から口縁部が短く外反する。外底面と内面下端部に丁寧なヘラミガキが施される、やや特異なものである。高坏(3)は器厚が厚く、坏部外面には粗いハケメが施される。鉢(5)は平底気味で、底部は焼成後に穿孔される。

H-7号住居址 甕、直口壺、高坏、埦、坏が出土している。甕は平底で、胴部が長胴化の傾向にあり、口縁部が「く」の字状に外反するもの(1)と、球胴で口縁部が直立するもの(2)がある。また、やや小形の甕(3)もみられる。高坏は前代の系譜にあるものと短脚のものが共伴する。短脚の坏部には模倣坏(9)が選択される。埦(15・16)は器厚が厚くやや粗雑な作りである。坏は内湾・内斜口縁坏があり、内斜口縁坏の割合が多い。 $20\cdot 21$ の内斜口縁坏の内底面には暗文が施されるが、「×」ではなく「一」である。時期は5世紀第4四半期の中でも、より6世紀第1四半期に近い段階と考えられる。H-5号住居址 甕、大形甑、壺、高坏、坏が出土した。甕は丸底と平底がある。丸底(3・11)には粗いミガキ調整が施される。平底は長胴で、調整にハケメを残すような古い要素をもつ甕(5・8)もある。坏は内湾・内斜口縁坏である。時期は6世紀第1四半期に比定されるが、やや古相を示す。

H-1 号住居址 饗、小形甕、小形甕、直口壺、高坏、坏が出土した。甕は平底で球胴状と長胴がある。球胴甕(5)の胎土は非常に精選されている。小形甕(6)にはミガキ調整が施される。坏は内湾口縁坏、内斜口縁坏、須恵器模倣坏が共伴する。同時期に比定される $H-2\sim 4\cdot 13$ 号住居址の坏の組成も同様である。14 の内湾口縁坏は外底面にもヘラミガキが施されている。15 はミニチュア土器というべき小形の模倣坏で、胎土が精選され精緻な作りである。

H-2号住居址 甕、小形甑、直口壺、高坏、坏、須恵器坏が出土した。甕は平底で球胴状と長胴がある。球胴甕(2)は口縁部が直立し、口縁部内面にハケメ調整が施される。直口壺(5)は平底で木葉痕が残る。模倣坏(12)は口縁部が大きく外傾して開くタイプである。短脚の高坏(7・8)に付く坏部は 12 に似る。須恵器坏(15・16)は受部が水平で、たちあがりは内傾する。口唇部の内稜はH-10号住7に比べてシャープさに欠ける。MT-15型式と考えられる。15 には漆が付着している。

H-3号住居址 小形甑、坏が出土した。小形甑(1)は逆ハの字状に開く鉢形で、底部は筒抜けである。H-4号住居址 甕、大形甑、小形甑、高坏、坏、須恵器壁が出土した。甕は長胴甕が主体となる。7は胴部中位に膨らみをもつやや小形の甕で、胴部内面にはハケメ調整が施される。小形甑には逆ハの字状に開く鉢形で単孔のもの(10)と、小形甕の形態で筒抜けのもの(9)がみられる。坏では24・25は丸底で、体部と口縁部の境に稜をもたず、口縁部が大きく外反して開く形態である。内面には緻密なヘラミガキと黒色処理が施されている。当該期の西毛地域に特徴的にみられるタイプである。須恵器塵(26)は還元焔焼成の堅緻なもので、陶邑窯産の可能性がある。

H-13号住居址 甕、大形甑、大形鉢、小形甕、小形壺、高坏、坏、手捏ね土器が出土した。甕は長胴甕がみられ、2の胴部にはミガキ調整が施されている。大形鉢(3)は平底で口の広い、鍋ともいえる形態である。小形甕(6)はまばらなミガキ調整が施される。小形壺(7)は丸底で、直立する口縁

部と下膨れの胴部をもつ。外面には密なヘラミガキが施される。高坏には、脚部に長い透かし孔があく もの(12)があり、須恵器の模倣と考えられる。透かしは1段で、三方に開くと推測される。坏では、 17 は内斜口縁坏の崩れた形態で、内面には粗雑な放射状ヘラミガキと螺旋状ヘラミガキが施される。 21 は小形で、扁平な体部から口縁部が直立する。

住居址出土の平安時代の土器群は9世紀第3四半期(H-11号住居址)、9世紀第4四半期(H-6号住居址)、10世紀後半(H-8号住居址)に区分される。器種は土師器甕、小形ロクロ甕、須恵器坏、須恵器碗、羽釜が確認される。以下、各住居址の概要を記す。

H-11号住居址 甕、須恵器坏、須恵器碗が出土した。1・2の甕は口縁部が「コ」の字状を呈する。 須恵器坏・碗はともに還元焔焼成である。底部の切り離しは回転糸切りである。

H-6号住居址 甕、小形ロクロ甕が出土した。 $1\cdot 2$ の甕はコの字状口縁を呈すが、 H-11号住より口縁部の器厚が厚く、器高もやや縮む。 6と7の甕は色調が在地の甕に比べて白く、胎土も類似している。口縁部は緩やかに外反するのみでコの字を呈さないが、肩部が張り出す形状や器面調整の手法はコの字甕と同様である。小形ロクロ甕の底部切り離しは回転糸切りである。

H-8号住居址 羽釜、小形ロクロ甕、須恵器坏が出土した。羽釜(1)は口縁部が内湾し、鍔は断面 三角形を呈する。ロクロ整形の後、外面胴下部にヘラケズリが施される。焼成は酸化焔である。小形ロ クロ甕(2)の底部にはナデ調整が施される。須恵器坏(3~5)は小振りで、酸化焔焼成のものである。

住居址以外では、D-130号土坑から土師器甕、SP-166号ピットから土師器坩、遺構外から土師器のS字状口縁台付甕、須恵器の高坏形器台・甕・碗が出土した。遺構外13の高坏形器台は脚部の破片で、長方形と円形の透かし孔があり、外面調整はカキメの後に波状文が施される。

- 2) 土製品: 古墳時代のH-13 号住居址から土玉が出土した。
- 3) 石製品:古墳時代ではH-3号住居址から滑石製の未成品が出土した。その形状から鏡の模造品の可能性が考えられる。H-12号住居址からは小形の磨石が出土した。平安時代ではH-6号住居址およびH-11号住居址から小形の磨石が出土した。
- 4) 鉄製品:平安時代のH-8号住居址から刀子が出土した。

3 中世の遺物

1) かわらけ: 43 点のかわらけを図示した。法量の差から中型品と小型品に大別される。なお、M 8 - 4 については破片資料であるため不明である。

中型品: D 18- 1 ~ 3、D 23- 1、D 53- 1、D 75- 1・ 2、D 81- 1、D 83- 1、D 107- 1 ~ 4、 M 6 - 1 ~ 7 · 10、SP186- 1 · 2、SP237- 1

小型品: D 11- 1、D 53- 2、D 81- 2、D 83- 2~4、D 107- 5~8、M 6- 8・9、M 8- 1~3、 SP232- 1、SP236- 1、外 -17

中型品はさらにその形態差から3種類に分類される。

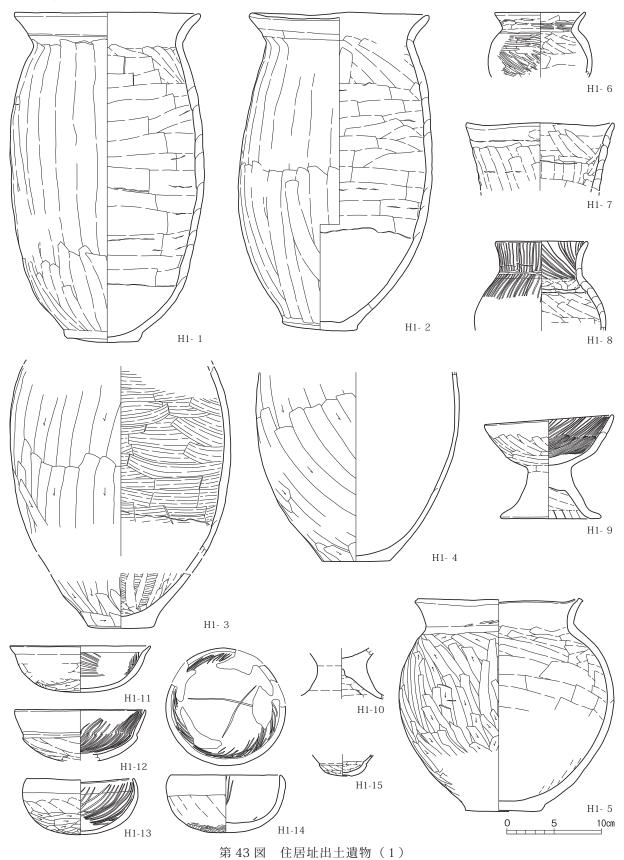
- a) 体部が内湾気味に立ち上がるもの
- b) 体部から口縁部にかけて直線的に外傾するもの
- c) 体部は直線的に外傾し、口縁部が丸みを帯びるもの
- a)に該当するのはM 6 7、SP186- 2である。b)に該当するのは D23- 1、D53- 1、D107- 2 \sim 4、M 6 1 \sim 7、SP186- 1、SP237- 1である。c)に該当するのは D 18- 1 \sim 3、D 75- 1・2、D 81- 1、

D 107-1 である。形態的特徴から他遺跡の事例と比較すると帰属時期は 15 世紀後半から 16 世紀前半と考えられる。なお、a)についてはb)・c)と比較すると形態的にやや古い様相を呈する。

その他、D11- 1、D 83- 2、D 107- 1、D 107- 5、M 6 - 9・10、SP232- 1、SP236- 1 は油煙の付着、見込み中央に穿孔が認められるもの(D107- 5、M 6-10、SP232- 1)及び口縁部に敲打による調整や抉りが認められること(D83- 2、D107- 5、SP236- 1)などから灯明皿として使用されたものと考えられる。M 8 - 4、SP232- 1 には墨書が認められた。また、外 17- 1 では見込みに漆が付着していた。また、D -18 号土坑は土壙墓であることから出土したかわらけは副葬品と捉えられる。

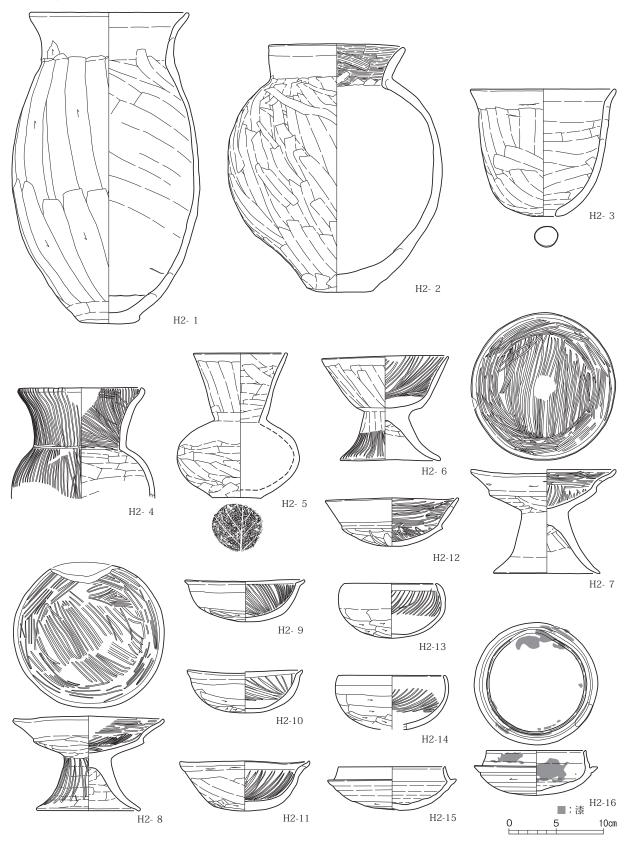
- 2) 内耳鍋・擂鉢: 内耳鍋は4点を図示した。全体の形状を把握できるものは把手部を欠いてはいるが D 75-3 である。平底で口縁部は外傾し口縁部端部が外側にやや突出する。他の3点(D3-1、M6-11、M8-5)は口縁部破片資料である。擂鉢は3点(D 53-1、D 106-3、S6-1)図示した。D 53-1 は片口で内面には交差する掻き目が施されている。
- 3) 陶器・磁器:D-3 号土坑において青華と考えられる磁器片(D 3- 2)が 1 点出土している。D-47 号土坑・M-6 号溝では青磁碗(D 47- 1、M 6-12)が出土している。その他、D-53 号土坑では天目碗(D 53- 3)が、D-60・117 号土坑、S-4 号配石遺構において碗・皿といった陶器が出土した。また、D-1 号土坑・M-1 号溝では甕がそれぞれ出土している。
- 4) 土製品:円盤状土製品が D 53・113 号土坑、SP 142 において出土した。いずれも土器類の転用品である。SP142-1 は車輪状の文様部分を意図的に転用したものと思われる。
- 5) 石製品:茶臼 3点(D 3- 3、8 1- 2、8 2- 2)、穀物臼 6点(D 3- 4、D83- 5、M 6-15、8 1- 3、8 2- 3 · 4)、砥石 2点(D 81- 3、8 20- 2)、板碑 2点(D 3- 6、8 20- 3)、石塔 1点(M 6-14)、五輪塔 1点(D 3- 5)を図示した。D 3- 3の茶臼は漆が塗られたもので 8 8 8 一 8
- 6) 鉄製品: D-53 号土坑から小刀が、D-60・81 号土坑、遺構外において釘が出土している。
- 7) 銭貨: D 18 号土坑から六道銭と考えられる銭貨が 6 点出土しているほか、 D 53・108 号土 坑からそれぞれ 1 点ずつ出土している。
- 8) 鍛冶関連遺物: 遺構の検出には至っていないが、鞴羽口(D53-5、M6-16、S3-1)及び椀 形鍛冶滓(D3-7、M1-4)が出土した。D53-5は大型の鞴羽口である。S3-1の鞴羽口は装着 痕が明瞭であった。

H-1号住居址



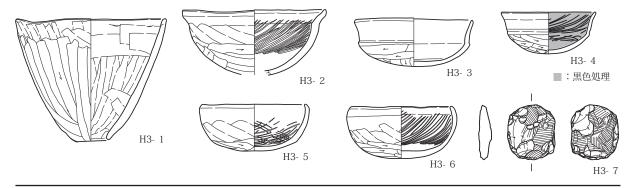
- 60 -

H-2号住居址

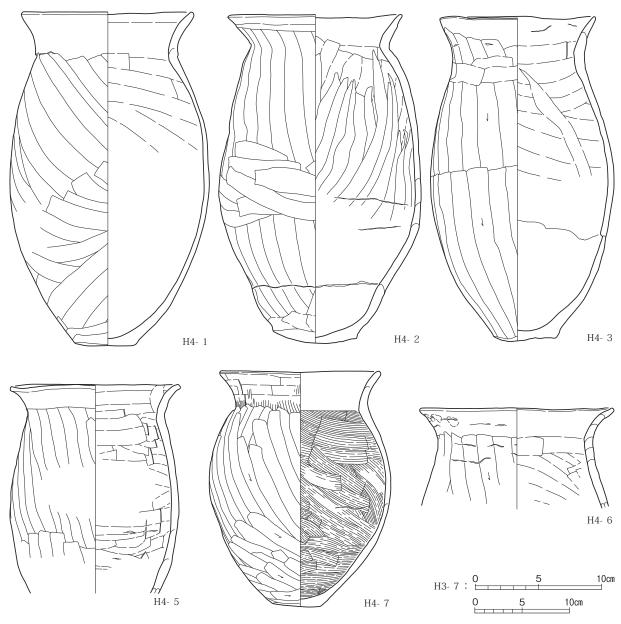


第44図 住居址出土遺物(2)

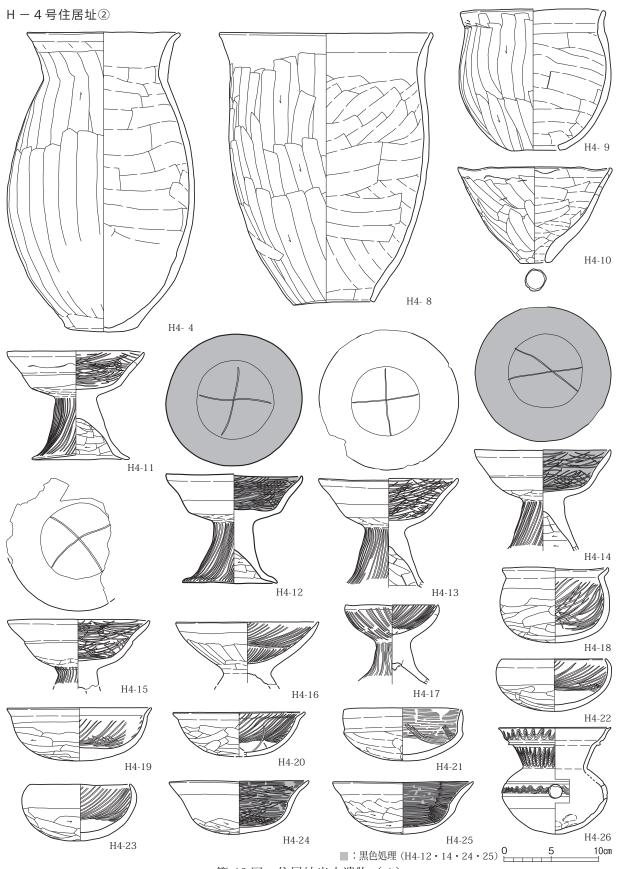
H-3号住居址



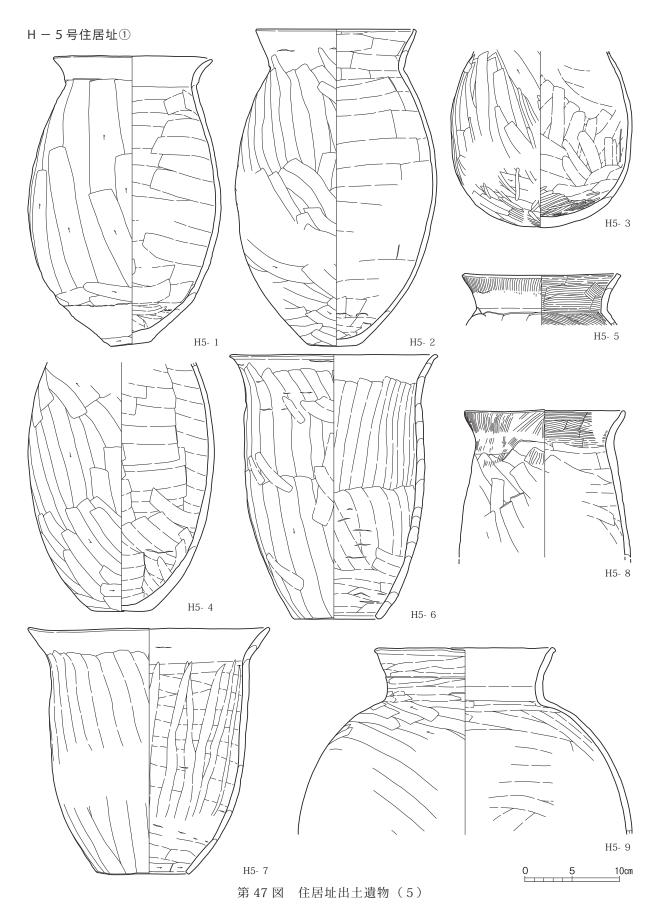
H-4号住居址①



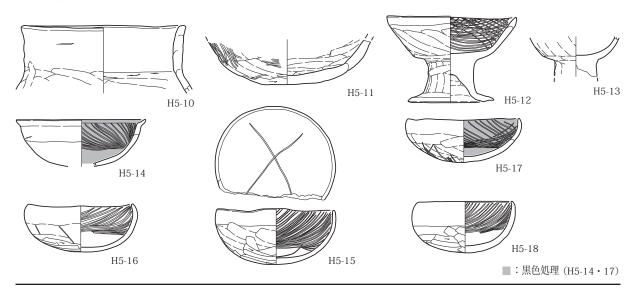
第 45 図 住居址出土遺物 (3)



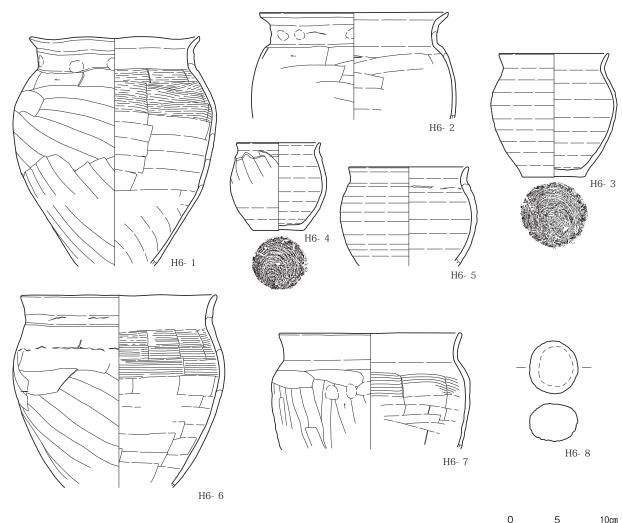
第46図 住居址出土遺物(4)



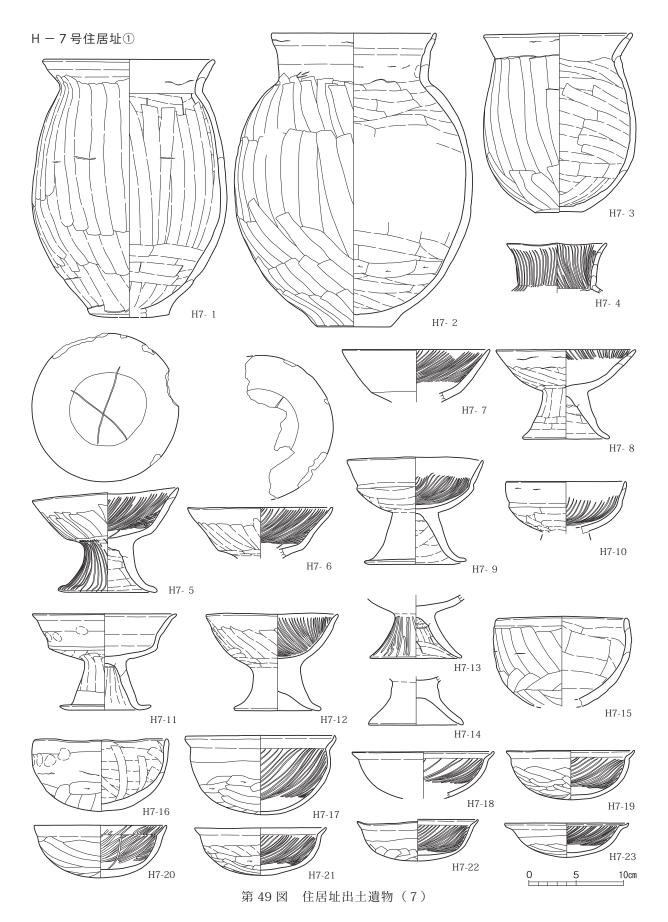
H-5号住居址②



H-6号住居址

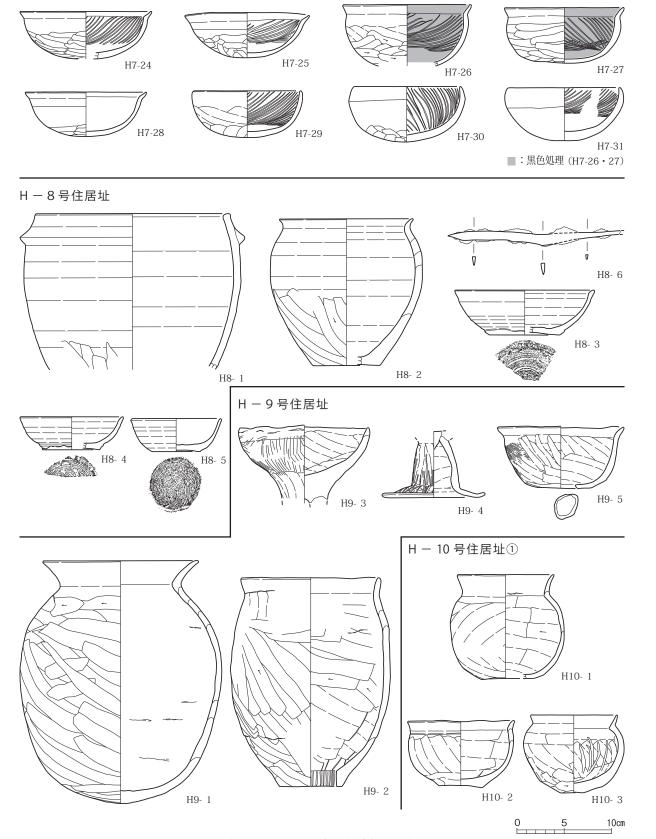


第 48 図 住居址出土遺物 (6)



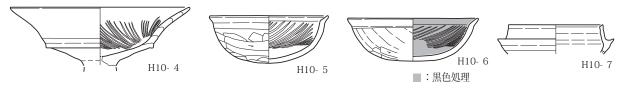
- 66 -

H-7号住居址②

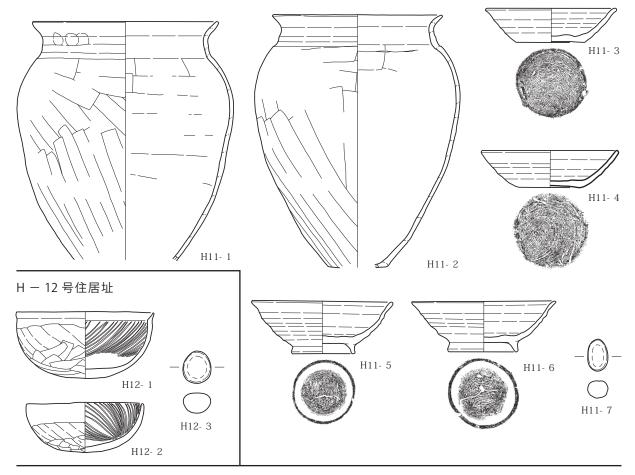


第50図 住居址出土遺物(8)

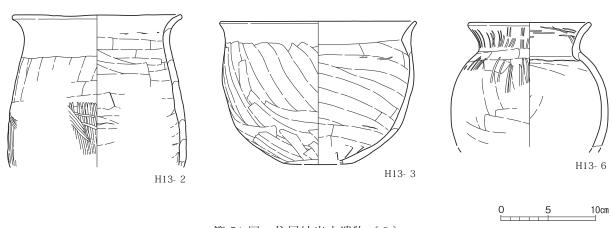
H - 10 号住居址②



H - 11 号住居址

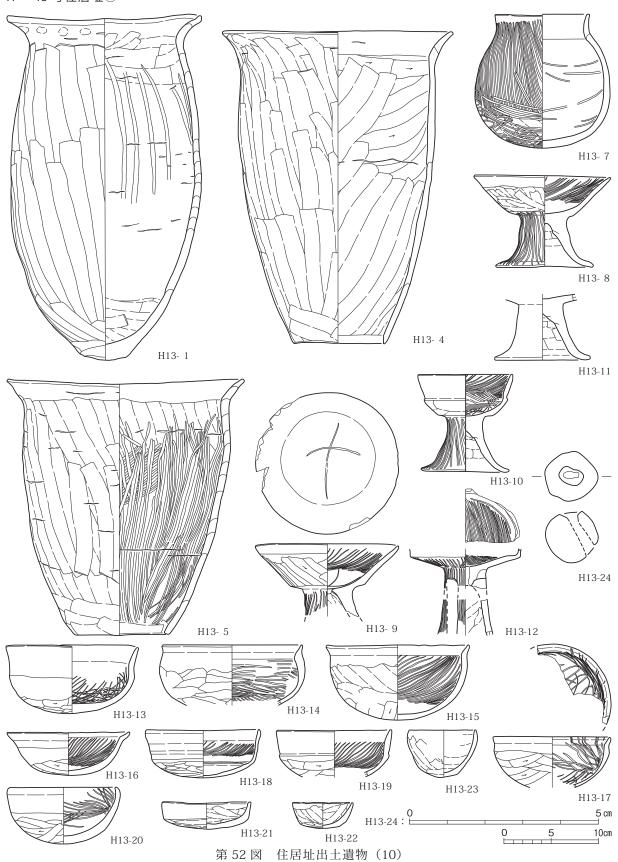


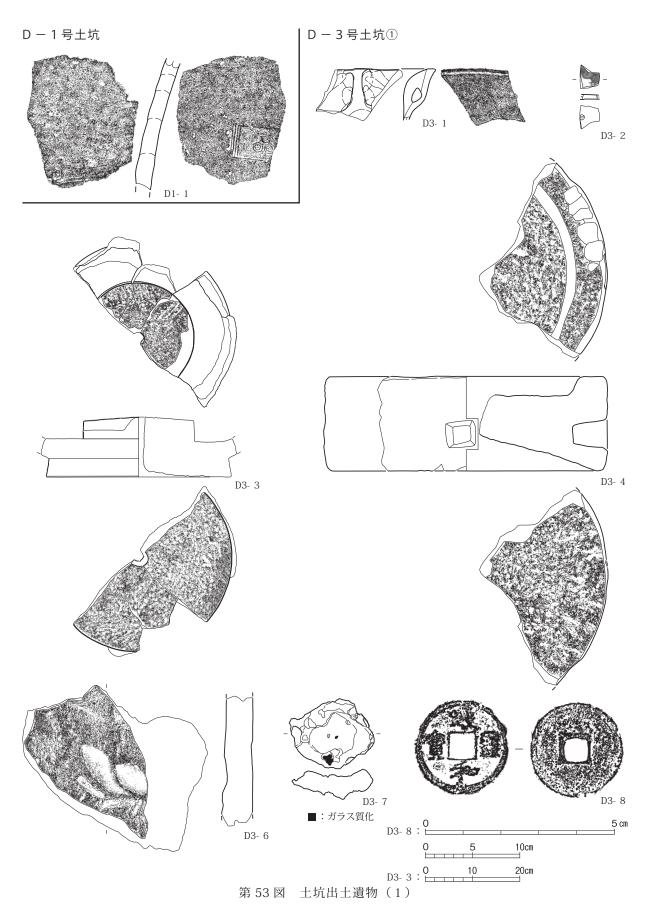
H - 13 号住居址①



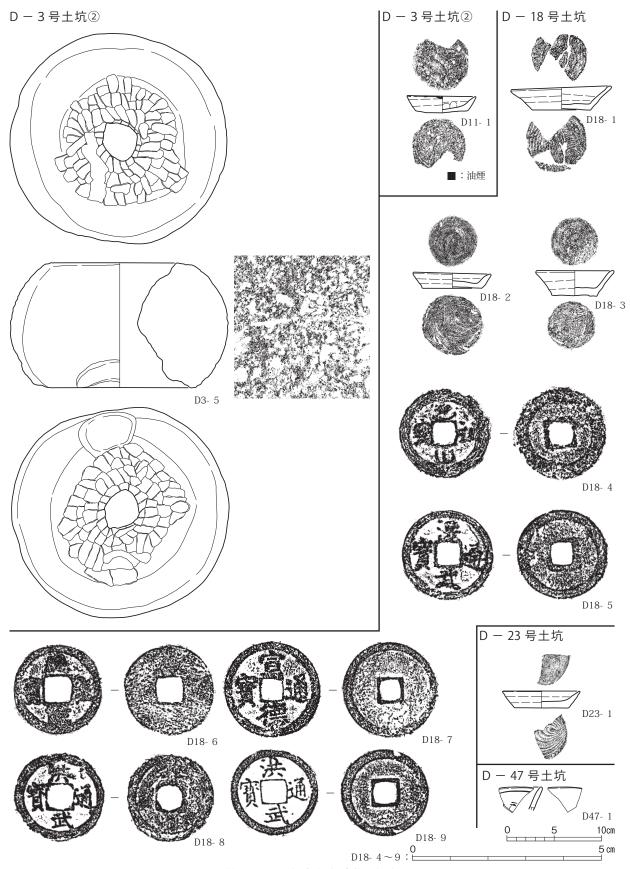
第51図 住居址出土遺物(9)

H-13号住居址②

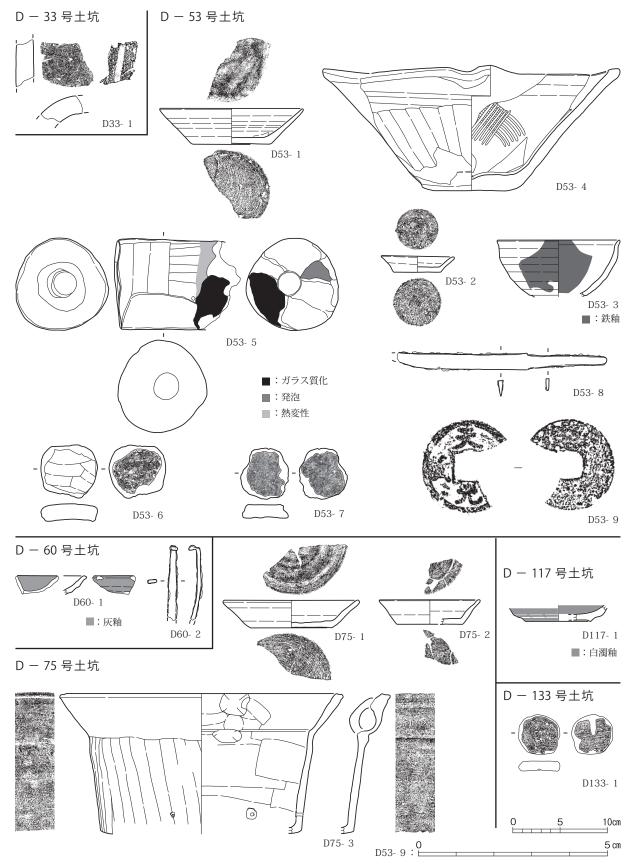




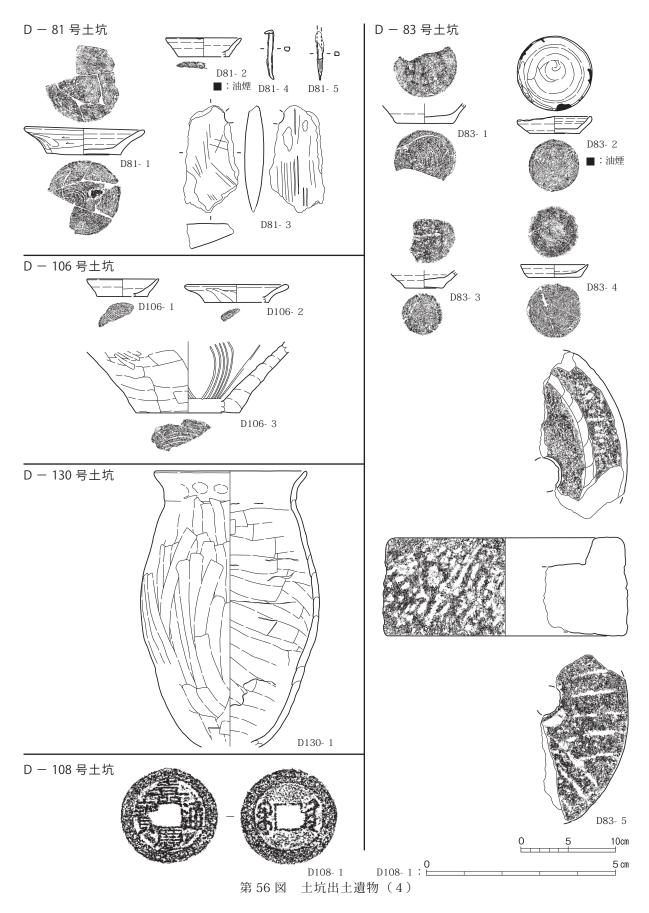
− 70 −

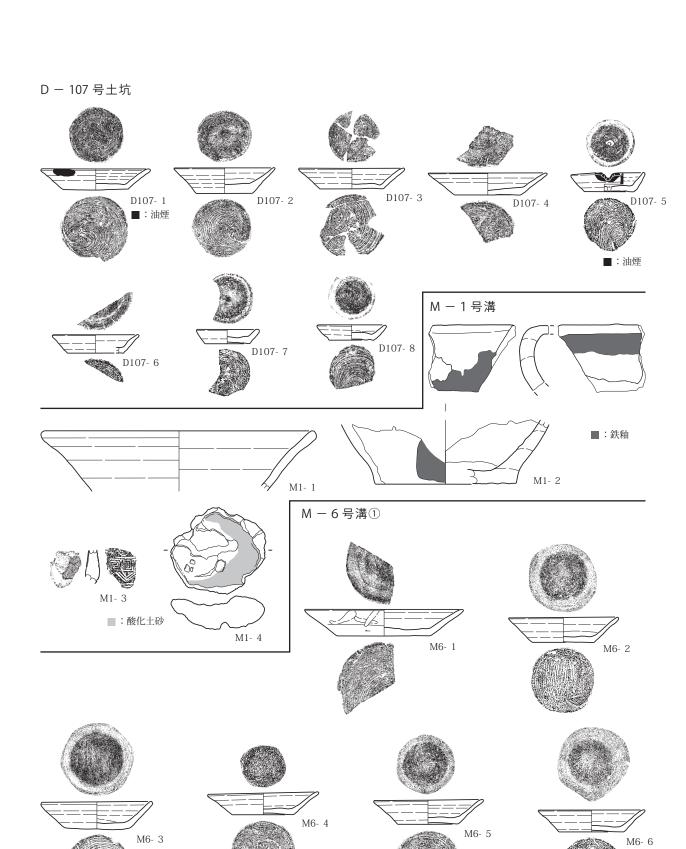


第54図 土坑出土遺物(2)

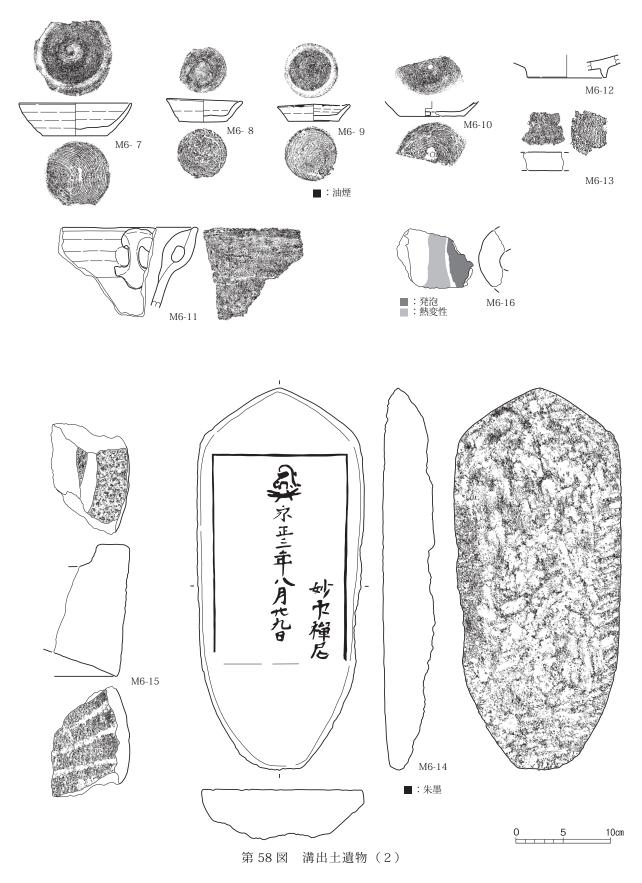


第55図 土坑出土遺物(3)

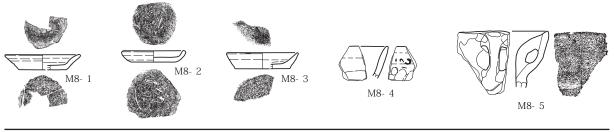




第57図 土坑出土遺物(5)・溝出土遺物(1)



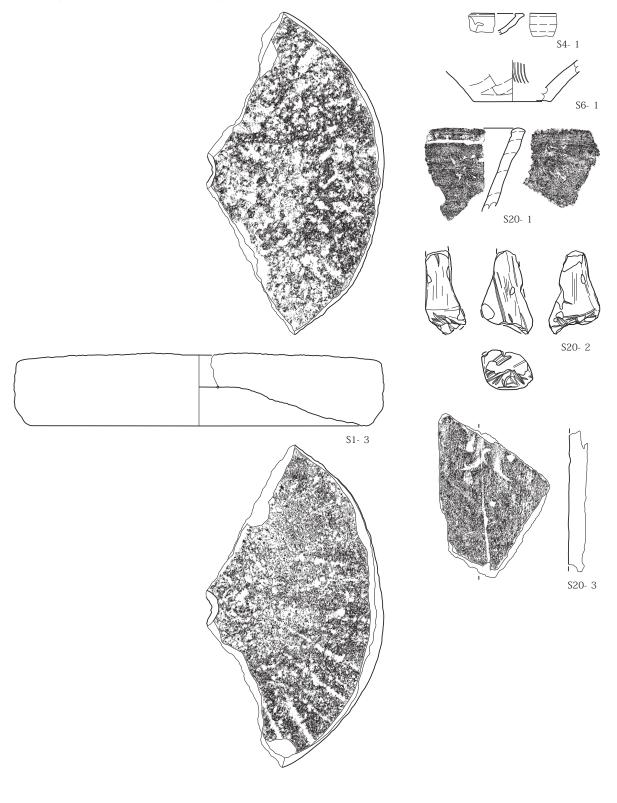
M - 8 号溝



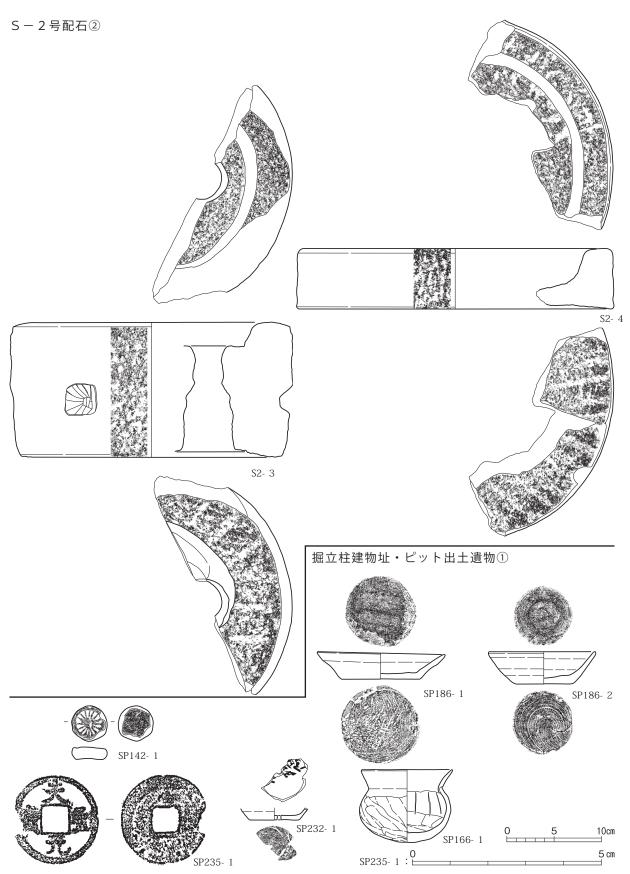
S-1号配石①・S-2号配石①・S-3号配石 S2- 1 S2- 2 S1- 2 S3- 1 ■:ガラス質化 ■:発泡 ■:熱変性

第59図 溝出土遺物(3)、配石遺構出土遺物(1)

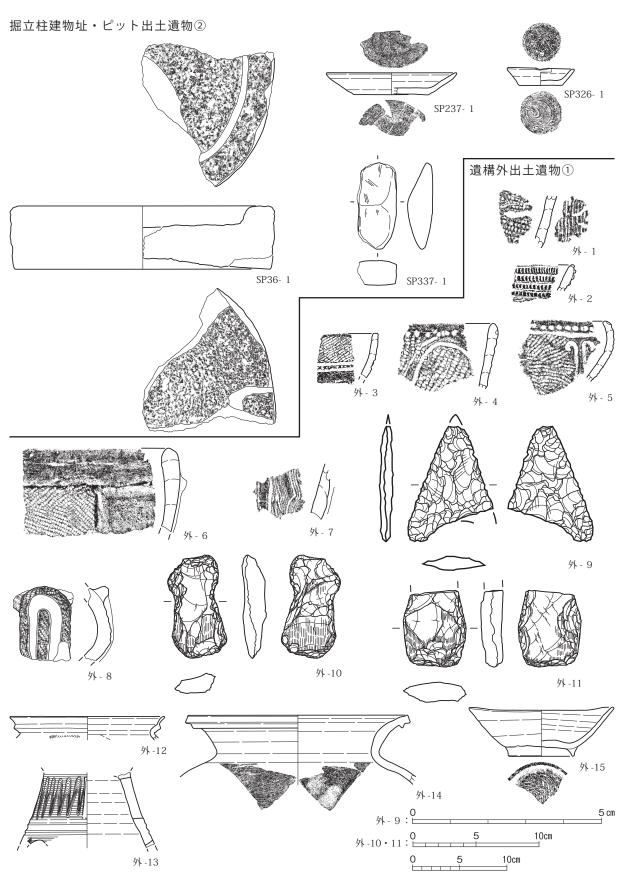
S-1号配石②・S-4・6・20号配石



第60図 配石遺構出土遺物(2)

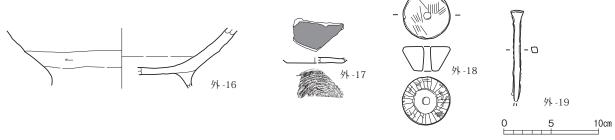


第61図 配石遺構出土遺物(3)、掘立柱建物址・ピット出土遺物(1)



第62図 掘立柱建物址・ピット出土遺物 (2)・遺構外出土遺物 (1)

遺構外出土遺物②



第63図 遺構外出土遺物(2)

H − 1 号住居址遺物観察表(単位:cm, 〈 〉: 残存値、(): 復元値)

遺構名	邓口	ne wa	DD 205		法量					成・整	形技法の特徴		/#: -#x
退愽名	番号	種類	器種	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	備考
	1	土師器	甕	19.8	7.6	35.0	良好	い赤褐、 内:明赤 褐	J	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。底部ナ デ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。胴下位 〜底部は丁寧なヘラ ナデ。	
	2	土師器	甕	19.0	8.0	33.8	良好	外:赤褐、 内:明赤 褐	•ѕЈ	口縁部 5/6、胴 部 4/5、 底部完形	口縁部ヨコナデ。胴 部へラナデ。底部ナ デ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。胴下位 〜底部は丁寧なヘラ ナデ。	
	3	土師器	甕	_	7.0	⟨27.7⟩	良好		B•D•H• I•J	胴部 2/3、底 部ほぼ完 形	胴部〜底部へラケズ リ。	胴部木口状工具によるナデ後へラナデ。 底部ヘラナデ。	
	4	土師器	甕	_	7.2	⟨20.0⟩	良好	外:明黄 褐、内: にぶい黄 橙	A·D·F· G·J	胴部中 ~下位 3/4、底 部完形	胴部〜底部へラケズ リ。	胴部〜底部ヘラナデ。	内面摩耗。
	5	土師器	甕	17.8	8.1	22.5	良好	外:明赤 褐、 内:橙	В•І•Ј	口縁部完 形、胴部 2/3、底 部 3/4	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部へラナデ。	精選され た胎土。
	6	土師器	小形甕	(9.6)	_	⟨6.9⟩	良好	外:にぶ い黄、 内:黄褐		口縁部~ 胴部中位 1/3	口縁部ヨコナデ後へ ラミガキ。胴部へラ ナデ後ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ後へ ラミガキ。胴部へラ ナデ。	精選され た胎土。
	7	土師器	小形甑	15.7	_	⟨7.2⟩	良好	内外:明 赤褐	A·F·J	口縁部~ 胴部上半 1/2	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。	口縁部〜胴部ヘラナデ。	
H-1	8	土師器	直口壺	9.8	_	⟨9.5⟩	良好	外:明赤 褐、 内:橙	F • G	口縁部完 形、胴部 上半 1/3	口縁部ヨコナデ後へ ラミガキ。胴部へラ ナデ後ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ後へ ラミガキ。胴部へラ ナデ。	
	9	土師器	高坏	13.8	10.7	15.8	良好	外:赤褐、 内:明赤 褐	В•Б•Ј	坏部 3/4、脚 部完形	口縁部ヨコナデ。坏 部へラナデ。脚部摩 耗のため調整不明。	□縁部ヨコナデ後、 放射状へラミガキ。 坏底部ヘラナデ。脚 部ヘラナデ。裾部ヨ コナデ。	カマド支脚。
	10	土師器	髙坏	_	_	⟨5.4⟩	良好	外:明赤 褐、 内:赤褐	B • C • I •	脚柱部 3/4	脚柱部ヨコナデ。	脚柱部ヘラナデ。	
	11	土師器	坏	(14.9)	_	4.9	良好	内外:明 赤褐	A • F • G	1/3	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中位~ 底部へラナデ後へラ ケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状ヘラミガキ。底部 ヘラナデ。	
	12	土師器	坏	(13.8)	_	⟨5.4⟩	良好	内外:明 赤褐	A·G(多量)	口縁部~ 体部 1/3	口縁部ヨコナデ。体 部ヘラナデ。	口縁部〜体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。	
	13	土師器	坏	11.5	_	5.9	良好	内外:明赤褐	A·F·J· N	ほぼ完形	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中位ナ デ、下位~底部へラ ケズリ。	口縁部〜体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。底部ヘラナデ。	
	14	土師器	坏	11.6	_	6.1	良好	外:にぶ い褐、 内:褐	F•G•J	2/3	口縁部ヨコナデ。体 部へラナデ。底部へ ラミガキ。底部中央 にヘラケズリ残る。	口縁部〜体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。底部へラナデ、 「×」の暗文。	内面摩耗。
	15	土師器	小形坏	_	_	⟨2.3⟩	良好	外:にぶ い褐、 内:灰褐	F	1/2、口 縁端部欠 損	口縁部ヨコナデ。体 部〜底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。体 部〜底部ヘラナデ。	精選され た胎土。

第9表 遺物観察表(1)

H-2号住居址遺物観察表

遺構名	來旦	括 粘	99. 46		法量						形技法の特徴		借 孝
退佣石	番号	種類	器種	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	備考
	1	土師器	甕	16.9	6.3	33.0	普通	外:褐、 内:にぶ い褐	A・B・E (大粒)・ J	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラケズリ、下端 ナデ。底部ヘラケズ リ。	口縁部ヨコナデ。胴 部へラナデ。底部へ ラナデ。	カマド右 掛け。 内面摩耗。
	2	土師器	甕	14.2	7.1	26.2	良好	内外:明 赤褐	A • B • F •	口縁部 3/4、胴 部~底部 完形	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。底部へ ラケズリ。	口縁部ハケメ。胴部 〜底部ヘラナデ。	カマド左 掛け。
	3	土師器	小形甑	15.4	2.5	13.5	良好	外:赤、 内:明赤 褐	A•F•G• J	口縁部 2/3、胴 部~底部 完形	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部ヘラナデ。	口縁部〜胴部上位ヨ コナデ。胴部中位〜 底部へラナデ。端部 ナデ。	
	4	土師器	直口壺	13.4	_	⟨11.7⟩	良好	内外:明 赤褐	B·E (幅 2~10 mm)·G· A	口縁部~ 胴部上位 3/4	口縁部ヨコナデ後へ ラミガキ。胴部ナデ 後へラミガキ。	口縁部ヨコナデ後へ ラミガキ。胴部ヘラ ナデ。	破片をカ マド構築 材として 使用。
	5	土師器	直口壺	9.9	5.1	15.4	良好	内外:明 赤褐	F (幅 2 ~ 3mm)	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ後へ ラナデ。胴部上半ナ デ、下半へラナデ。 底部木葉痕。	口縁部ヘラナデ。胴 部〜底部ヘラナデ。	精選され た胎土。
	6	土師器	高坏	13.4	10.6	11.2	良好	内外:明 赤褐	A·F·G	坏部ほぼ 完形、脚 部 1/2	口縁部ヨコナデ。坏 部へラナデ。脚部へ ラナデ後、縦方向へ ラミガキ。	口縁部ヨコナデ後、 放射状へラミガキ。 坏底部ヘラナデ。脚 部上半ヘラナデ、下 半ヨコナデ。	カマド支脚。
	7	土師器	高坏	15.3	11.2	11.0	良好		A(大量)・ F・J・N	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。坏 部〜脚部ヘラナデ。 裾部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ後、 横方向ヘラミガキ。 坏底部ナデ後、一方 向ヘラミガキ。脚部 ヘラナデ。裾部ヨコ ナデ。	内面坏底 部の中央 は器面剥 離。
H-2	8	土師器	高坏	16.0	11.0	10.0	良好	外:橙、 内:にぶ い黄橙	A • B • C •	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。坏 部へラナデ。脚部へ ラナデ後、縦方向へ ラミガキ。裾部ヨコ ナデ。	口縁部ヨコナデ後、 横方向ヘラミガキ。 坏底部ナデ後、一方 向ヘラミガキ。脚部 ヘラナデ。裾部ヨコ ナデ。	カマド上 面出土。 口縁部を 人為的に 打ち欠く。
	9	土師器	坏	12.7	_	4.5	良好	外:明赤 褐、 内:赤褐	A • F	完形	口縁部ヨコナデ。体 部ナデ。底部ヘラケ ズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状ヘラミガキ。底部 ヘラナデ。	カマド上 面出土。 精選され た胎土。
	10	土師器	坏	12.2	_	4.6	良好	外:暗褐、 内:褐	A • B • F	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。体 部上半ナデ。体部下 半〜底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状ヘラミガキ。底部 ヘラナデ。	1 の口縁 に重なっ て出土。
	11	土師器	坏	13.8	_	5.3	良好	褐	A・F(少量)・G		口縁部ヨコナデ。体 部ヘラナデ。底部へ ラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部〜底部ヨコナデ後、 放射状ヘラミガキ。	カマド上面出土。
	12	土師器	坏	14.2	_	5.1	良好	外:にぶい赤褐、内:赤褐	A • B • F	口縁部完 形、体部 3/4	口縁部ヨコナデ。体部〜底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ後、 横方向へラミガキ。 体部〜底部へラナデ 後、一方向へラミガ キ。	2の口縁 に重なっ て出土。
	13	土師器	坏	9.6	_	5.8	普通	内外: に ぶい橙	A • B • F	完形	口縁部ヨコナデ。体 部へラナデ後、下半 〜底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状ヘラミガキ。底部 ヘラナデ。	内面摩耗。
	14	土師器	坏	(11.4)	_	⟨5.7⟩	良好	内外:に ぶい赤褐	A • C • G • J	1/3	口縁部ヨコナデ。体 部ヘラケズリ。	口縁部~体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。	内面摩耗。
	15	須恵器	坏	10.6	_	4.7	還元焔	内外:灰 オリーブ	Н	口縁部一 部欠損	ロクロ整形。体部〜 底部回転へラケズリ。	ロクロ整形。	内面・外 面口縁部 に漆付着。
	16	須恵器	坏	11.3	_	4.6	還元焔	内外:灰	Е•Н	完形	ロクロ整形。底部回 転へラケズリ。	ロクロ整形。	

第10表 遺物観察表(2)

H-3号住居址遺物観察表

遺構名	乗旦	種 類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退件石	田力	性規	66 作里	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	加与
	1	土師器	小形甑	15.9	3.6	13.0	良好	内外:明 赤褐	C・F(多量)・J	完形	口縁部ヨコナデ後へ ラナデ。胴部ヘラケ ズリ。底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。端部ナ デ。	
	2	土師器	坏	15.4	_	⟨6.9⟩	良好	内外:明 赤褐	F•J	口縁部~ 体部完形	口縁部ヨコナデ。体 部上半ヘラナデ、下 半ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状ヘラミガキ。	精選され た胎土。
	3	土師器	坏	12.6	_	5.1	普通	内外:橙	C • F • G	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。体 部~底部ヘラケズリ。	口縁部〜体部ヨコナ デ。底部ヘラナデ。	
H-3	4	土師器	坏	(10.0)	_	4.4	良好	外:明赤 褐、 内:黒褐	A • F	1/2	口縁部ヨコナデ。体 部〜底部へラケズリ。	口縁部〜体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。底部へラナデ。	内面黒色 処理。
	5	土師器	坏	10.7		5.5	良好	内外:明 赤褐	A·D·F· J	2/3	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中位へ ラナデ。体部下位~ 底部へラケズリ。	口縁部~体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。底部ヘラナデ。	内面体部 下位は器 面剥離。
	6	土師器	坏	(11.0)	_	4.9	普通	外:赤褐、 内:明赤 褐	B(大粒)・ F(大粒)・ J	1/2	口縁部ヨコナデ。体 部ヘラナデ。底部へ ラケズリ。	口縁部〜体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。底部へラナデ。	内面摩耗。
	番号	種類	器種	材質	長さ	法幅	量厚さ	重量			備考		
	7	石製品	未成品	滑石	4.4	3.8	1.04	21.13	亀甲状の	粗割素材に	(ノミ状工具) 削状痕か	部分的に認められる。	

H-4号住居址遺物観察表①

中世力	ポロ	for you	00.66		法 量	-				成・整	形技法の特徴		ttt: +z
遺構名	番号	種類	器種	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	備考
	1	土師器	甕	18.2	6.3	353	普通	内外:に ぶい黄橙	B • D • E •	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部ヘラナデ。	内面胴下 半部は器 面剥離。
	2	土師器	甕	18.4	8.8	34.8	普通	内外:に ぶい黄橙	D•F•J	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。頸 部~胴部ヘラケズリ、 下端ヘラナデ。底部 ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ後ヘラケ ズリ。底部ヘラナデ。	内面胴下 半部摩耗。
	3	土師器	甕	16.4	6.5	34.4	普通	外:明赤褐、内: 明黄褐	A · D · F	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。頸 部~胴部ヘラケズリ 後、頸部ヘラナデ。 底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部ヘラナデ。	内面胴下 半部摩耗。
	4	土師器	甕	16.2	7.7	31.8	普通	い黄、 内:にぶ い褐	A • D • F		口縁部ヨコナデ。頸 部〜胴部ヘラケズリ、 下端ヘラナデ。底部 ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部ヘラナデ。	内面胴下 半部摩耗。
	5	土師器	甕	(18.0)	_	⟨22.2⟩	普通	外:にぶ い黄橙、 内:橙	B•F•J	口縁部~ 胴部 1/2	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。	
	6	土師器	甕	(20.6)	_	⟨10.8⟩	普通	内外:橙	F•J	口縁部~ 胴部上位 1/2	口縁部ヨコナデ後、 指頭圧痕。胴部ヘラ ケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。	
H-4	7	土師器	甕	17.0	5.0	25.0	普通	い黄橙、 内:にぶ い黄	B·D·E· J	ほぼ完形	口縁部へラナデ後ハ ケメ。胴部〜底部へ ラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ハケメ。底部ヘラ ナデ。	カマド燃焼部出土。
	8	土師器	大形甑	22.6	8.5	28.9	普通	内外:に ぶい黄橙	1	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラケズリ、一部 ヘラナデ。底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。端部へ ラナデ。	器形は楕 円状に歪 む。
	9	土師器	小形甑	15.4	(5.1)	15.4	良好	内外:明 赤褐	A · F · G	口縁部~ 胴部完 形、底部 1/4	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラケズリ。底部 ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴 部へラナデ。端部ナ デ。	
	10	土師器	小形甑	16.3	3.3	10.2	良好	内外:明 赤褐	A • B • F • G	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラケズリ。底部 ナデ。	口縁部〜胴部へラナ デ。端部ナデ。	
	11	土師器	高坏	14.6	10.3	11.5	良好	赤褐		裾部 1/2 欠損	口縁部ヨコナデ。坏 部へラナデ。脚部〜 裾部ヨコナデ後、縦 方向へラミガキ。	口縁部〜坏部ヨコナ デ後、斜方向へラミ ガキ。坏底部へラナ デ。脚部へラケズリ。 裾部ヨコナデ。	カマド支脚。坏底 部は器面 剥離。
	12	土師器	高坏	14.5	10.0	11.6	良好	外:明赤 褐、 内:黒	A·F·G· J	裾部 1/3	口縁部ヨコナデ。坏 部へラナデ。脚部〜 裾部ヨコナデ後、縦 方向ヘラミガキ。	口縁部〜坏部ヨコナ デ後、斜方向へラミ ガキ。坏底部へラナ デ、「×」の暗文。 脚部ヘラケズリ。裾 部ヨコナデ。	内面黒色処理。

第11表 遺物観察表(3)

H-4号住居址遺物観察表②

出掛け	坂に 口	\$16 Acc	nu se		法量					成・整	形技法の特徴		/##for
遺構名	番号	種類	器種	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	備考
	13	土師器	高坏	14.8	_	⟨11.5⟩	良好		A • B • F	坏部~脚		口縁部〜坏部ヨコナ デ後、斜方向へラミ ガキ。坏底部へラナ デ、「×」の暗文。 脚部へラケズリ。	
	14	土師器	高坏	14.4	_	⟨10.7⟩	良好	内外:に ぶい赤褐	F·G·J	坏部〜脚 柱部ほぼ 完形	口縁部ヨコナデ。坏 部へラナデ。脚部ヨ コナデ後、縦方向へ ラミガキ。	□縁部〜坏部ヨコナ デ後、斜方向へラミ ガキ。坏底部へラナ デ、「×」の暗文。 脚部へラケズリ。	内面黒色 処理。
	15	土師器	高坏	(15.1)	_	⟨7.4⟩	良好	内外:明 赤褐	A·F·G· J	坏部 2/3	口縁部ヨコナデ。坏 部へラナデ。脚部ヨ コナデ後、縦方向へ ラミガキ。	口縁部〜坏部ヨコナ デ後、斜方向へラミ ガキ。坏底部へラナ デ、「×」の暗文。	
	16	土師器	高坏	(15.2)	_	⟨6.6⟩	良好	内外:明赤褐	A • G	坏部 1/2	口縁部ヨコナデ。坏 部ヘラケズリ、下端 ヘラナデ。脚部ヨコ ナデ。	口縁部〜坏部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。坏底部―方向 ヘラミガキ。脚部ナ デ。	
	17	土師器	高坏	10.0	_	⟨8.4⟩	良好	内外:褐	A·F	坏部~脚 柱部	口縁部ヨコナデ。坏 部へラナデ後、放射 状へラミガキ。脚部 ヘラナデ後、縦方向 ヘラミガキ。	口縁部〜坏部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。坏底部へラナ デ。脚部へラナデ。	
	18	土師器	坏	11.2	_	8.0	良好	内外:赤褐	D•F	ほぼ完形	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中位ナ デ。体部下位~底部 ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状ヘラミガキ。底部 ヘラナデ。	
	19	土師器	坏	(15.3)	_	5.7	良好	ぶい赤褐		1/3、体 部~底部 4/5	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中位ナ デ。体部下位~底部 ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状へラミガキ。底部 ヘラナデ。	
H-4	20	土師器	坏	(14.0)	_	⟨4.7⟩	普通		A·D·F· J		口縁部〜体部上位ヨ コナデ。体部中位〜 底部へラケズリ。	口縁部〜体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。底部ヘラナデ、 暗文「×」ヵ。	
	21	土師器	坏	12.6	_	5.6	良好	外:灰黄 褐、 内:にぶ い赤褐	A · D	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。体部〜底部へラナデ。	口縁部ヨコナデ後、 横方向のヘラミガキ。 体部上半斜方向ヘラ ミガキ。体部下半~ 底部ヘラナデ。	
	22	土師器	坏	11.1	_	5.5	良好	内外:に ぶい赤褐		ほぼ完形	口縁部〜体部上半ヨ コナデ。体部下半〜 底部へラケズリ。	口縁部〜体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。底部ヘラナデ。	
	23	土師器	坏	10.6	_	6.0	普通	外:褐色、 内:明褐	A•F•G	ほぼ完形	口縁部〜体部上位ヨ コナデ。体部中位〜 底部ヘラケズリ。	口縁部〜体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。底部ヘラナデ。	
	24	土師器	坏	14.8	_	5.7	良好	外:明赤 褐、 内:黒	A • B • F	完形	口縁部ヨコナデ。体 部ナデ。底部ヘラケ ズリ。	口縁部〜底部ヨコナ デ後、横・斜方向へ ラミガキ。	内面黒色 処理。
	25	土師器	坏	14.8	_	5.6	良好	外:褐、 内:黒	A·C·F	4/5	口縁部〜体部上位ヨ コナデ。体部中位ナ デ。体部下位〜底部 ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ後、 横方向ヘラミガキ。 体部〜底部ナデ後、 横・斜方向ヘラミガ キ。	内面黒色処理。
	26	須恵器	暭	11.9	_	11.3	還元焔	内外:灰	I • L	口縁部 1/3、胴 部~底部 完形	ロクロ整形。口縁部 4条1単位の波状文。 頸部11条1単位の 波状文。体部制能 2 条の横位沈線間に 7 条1単位の波状文。 体部下半~底部回転 ヘラケズリ後指ナデ。	ロクロ整形。底部指 ナデ、指頭圧痕。	外面頸部 〜肩田口縁 部〜頸部・ 底部に自 然釉。孔 径 1.45 × 1.45 cm。

第12表 遺物観察表(4)

H-5号住居址遺物観察表

					法 量	-				成・整	形技法の特徴		
遺構名	番号	種類	器種	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	備考
	1	土師器	甕	16.8	4.4	30.8	普通	内外:橙	B • E • F	口縁部完 形、胴部 4/5、底 部完形	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラケズリ。底部 ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部へラナデ。	
	2	土師器	甕	16.9	(5.0)	33.6	普通	内外: に ぶい褐	B • E • F	口縁部完 形、胴部 4/5、底 部 1/2	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部へラケズリ。	口縁部〜底部へラナデ。	
	3	土師器	甕	_	_	⟨19.0⟩	普通	内外:橙	B (多量)・ F	胴部~底 部 4/5	胴部〜底部ヘラケズ リ後ヘラミガキ。	胴部ヘラナデ後、下 位〜底部にヘラミガ キ。	
	4	土師器	甕	_	(6.4)	⟨26.4⟩	普通	外:にぶ い橙、 内:にぶ い褐	B • D • E • F • J	胴部 1/3、底 部 2/3	胴部〜底部へラケズ リ。	胴部〜底部へラナデ。	
	5	土師器	甕	16.8	_	⟨5.5⟩	普通	内外:橙	B(多量)・ E・F	口縁部~ 胴部上位 3/4	口縁部ヨコナデ後ハ ケメ。胴部上位ヘラ ケズリ。	口縁部〜胴部上位ハ ケメ。	外面口縁 部摩耗。
	6	土師器	大形甑	22.0	9.3	28.2	普通	ぶい黄橙		口縁部 2/3、胴 部〜底部 ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴 部〜頸部ヘラケズリ、 一部にヘラナデ。底 部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。端部ナ デ。	
	7	土師器	大形甑	25.6	9.8	26.2	普通		F • G	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴 部上半ヘラナデ、胴 部下半ヘラケズリ。 底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。端部へ ラケズリ。	
	8	土師器	甕	17.0	_	⟨15.6⟩	普通	外:橙、 内:にぶ い黄橙	D•E	口縁部~ 胴部上半 1/3	口縁部ヨコナデ後ハ ケメ。胴部ヘラケズ リ。	口縁部ハケメ。胴部 ヘラナデ。	
	9	土師器	壺	19.0	_	⟨19.8⟩	普通	外:にぶ い黄橙、 内:にぶ い黄	B • D • E •	口縁部 1/2、胴 部上半 1/3	口縁部ヘラナデ、中 位に弱い段をもつ。 胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。	
H-5	10	土師器	甕	17.4	_	⟨7.2⟩	良好	外:明赤 褐、 内:橙	B•F•J	口縁部完形	口縁部ヨコナデ。胴 部上位ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴 部上位ヘラナデ。	
	11	土師器	甕	_	_	⟨4.8⟩	良好	外:明赤 褐、 内;赤褐	G•F•J	胴部下位 ~底部 2/3	胴部下位へラナデ後、 ヘラミガキ。底部へ ラケズリ。	胴部下位〜底部へラ ナデ。	
	12	土師器	高坏	13.8	9.1	9.3	良好	内外:に ぶい赤褐	A·F·J	坏部~脚 柱部完 形、裾部 3/4	口縁部ヨコナデ。坏 部〜脚部ヘラナデ。 裾部ヨコナデ。	口縁部~坏部ヨコナ デ後、斜方向へラミ ガキ。坏底部ナデ。 脚部へラナデ。裾部 ヨコナデ。	カマド支 脚。坏内 底部摩耗。
	13	土師器	高坏	_	_	⟨4.3⟩	良好	外:にぶ い褐、 内:橙	F • G	坏底部 2/3、脚 柱部 1/4	坏部〜脚柱部へラナ デ。	坏底部ヘラナデ。	
	14	土師器	坏	(13.7)	_	⟨5.0⟩	良好	外:明赤 褐、 内:黒	D•J	2/3	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中位ナ デ。体部下位ヘラケ ズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部上~中位ヨコナデ 後、放射状へラミガ キ。体部下位へラナ デ。	内面黒色処理。
	15	土師器	坏	12.6	_	5.9	普通	外:にぶ い黄橙、 内:にぶ い褐	A • F	2/3	口縁部ヨコナデ。体 部へラナデ。底部へ ラケズリ。	口縁部〜体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。底部ヘラナデ、 「×」の暗文。	
	16	土師器	坏	11.0	_	5.1	普通	赤褐	A • B • F		口縁部ヨコナデ。体 部へラナデ。底部へ ラケズリ。	口縁部〜体部中位ヨ コナデ後、放射状へ ラミガキ。体部下位 〜底部へラナデ。	
	17	土師器	坏	11.8	_	4.7	良好	内:黒	D•F•G		口縁部ヨコナデ。体 部〜底部へラナデ後、 底部にヘラミガキ。	口縁部〜体部中位ヨ コナデ後、放射状へ ラミガキ。体部下位 〜底部へラナデ。	内面黒色 処理。
	18	土師器	坏	10.0	_	5.5	普通	外:明赤 褐、 内:にぶ い褐	B • F	口縁部 1/2、体 部~底部 完形	口縁部〜体部上半ヨ コナデ。体部下半〜 底部ヘラケズリ。	口縁部〜体部中位ヨ コナデ後、放射状へ ラミガキ。体部下位 〜底部へラナデ。	

第13表 遺物観察表(5)

H-6号住居址遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	留写	性規	- 67 性	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1 用 与
	1	土師器	甕	18.0	_	⟨24.3⟩	普通	内外:明 赤褐	A•F•J	口縁部ほ ぼ完形、 胴部 3/4	口縁部ヨコナデ後、 指頭圧痕。胴部ヘラ ケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部上位木口状工具に よるナデ、中~下位 ヘラナデ。	
	2	土師器	甕	20.0	_	⟨11.3⟩	普通	内外:明 赤褐	A·E·J	口縁部~ 胴部上位 2/3	口縁部ヨコナデ後、 指頭圧痕。胴部ヘラ ケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。	
	3	土師器	小形ロクロ甕	(11.6)	6.8	13.1	酸化焰	外:にぶ い褐、 内:にぶ い黄褐		口縁部 ~胴部 2/3、底 部完形	ロクロ整形。底部右 回転糸切り無調整。	ロクロ整形。	精選され た胎土。
H-6	4	土師器	小形ロクロ甕	(8.9)	5.4	9.3	酸化焰	外:明褐、 内:明赤 褐	A • B • F	口縁部 1/5、胴 部 4/5、 底部完形	ロクロ整形。胴部上 半ヘラケズリ。底部 左回転糸切り無調整。	ロクロ整形。	外面胴部 下半は器 面剥離。
	5	土師器	小形 ロクロ甕	(12.7)	_	⟨10.6⟩	酸化焔	内外:に ぶい黄橙		口縁部~ 胴部 1/3	ロクロ整形。	ロクロ整形。	精選され た胎土。
	6	土師器	類	(20.8)	_	⟨20.4⟩	普通	内外:浅 黄橙	В•Ј•К	口縁部~ 胴部 1/4	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部上位木口状工具に よるナデ、胴部中位 ~下位へラナデ。	外面胴部 上位摩耗。 7 に胎土 が類似。
	7	土師器	甕	(19.4)	_	⟨12.3⟩	普通	内外:浅 黄橙	A • B • J • K	口縁部~ 胴部上半 1/2	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラケズリ後、指 頭圧痕。	口縁部ヨコナデ。胴 部上位木口状工具に よるナデ、胴部中位 ヘラナデ。	6に胎土が類似。
	番号	種類	器種	材質	長さ	法 幅	量厚さ	重量			備考		•
	8	石製品	磨石	角閃石 安山岩	5.6	5.1	月 4.0	74.1	完形。上	面に平滑な	範囲あり。		

H-7号住居址遺物観察表①

arts (46, 4a		er vira			法量				-	成・整	形技法の特徴		***
遺構名	番号	種類	器種	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	- 備考
	1	土師器	甕	18.2	(8.4)	27.3	普通		A • B • D •	口縁部完 形、胴部 2/3、底 部 1/3	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。底部へ ラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部ヘラナデ。	
	2	土師器	甕	(17.4)	(7.6)	31.1	普通	内外:赤褐	D•F•G	3/4	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ後、 指頭圧痕。胴部ヘラ ナデ後、下位に部分 的なヘラケズリ。底 部ヘラナデ。	内面胴部 中位摩耗。
	3	土師器	甕	15.6	5.0	20.0	普通	ぶい黄橙		ほぼ完形	部~底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部ヘラナデ。	外面摩耗。
	4	土師器	直口壺	10.6	_	⟨5.3⟩	良好	内外:明 赤褐	F•G•J	口縁部 3/4	口縁部ヨコナデ後へ ラミガキ。肩部へラ ナデ後ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ後へ ラミガキ。肩部へラ ナデ。	
H-7	5	土師器	高坏	15.5	10.4	11.1	良好	赤褐	A·G·J	部欠損	口縁部ヨコナデ。坏 部ヘラケズリ。脚部 〜裾部ヨコナデ後、 縦方向ヘラミガキ。	口縁部~坏部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。坏底部へラナ デ、「×」の暗文。 脚部へラナデ。裾部 ヨコナデ。	カマド支脚。
	6	土師器	高坏	(15.4)	_	⟨5.4⟩	良好	赤褐	J. J.		口縁部ヨコナデ。坏 部ヘラナデ。	口縁部〜坏部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。坏底部ヘラナ デ、暗文「×」ヵ。	
	7	土師器	高坏	(15.6)	_	⟨5.6⟩	良好	外:にぶ い赤褐、 内:明赤 褐	В•Б•Ј	坏部 1/3	口縁部ヨコナデ。坏 部ナデ。	口縁部〜坏部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。	外面摩耗。 坏底部は 器面剥離。
	8	土師器	高坏	14.8	(9.2)	9.4	良好	赤褐	A • B • F • G • J	脚柱部ほ ぼ完形、 裾部 1/4	口縁部ヨコナデ。坏 部〜脚部ヘラナデ。 裾部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ後、 放射状へラミガキ。 脚部へラナデ。裾部 ヨコナデ。	内面坏部 は器面剥 離。
	9	土師器	高坏	14.4	10.8	11.4	良好	褐、 内:赤褐	A•F•G	1/3、脚 部ほぼ完 形	口縁部ヨコナデ。坏 部ヘラナデ。脚部〜 裾部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。坏 部ヨコナデ後、放射 状へラミガキ。脚部 〜裾部へラナデ。	
	10	土師器	高坏	12.7	_	⟨5.6⟩	普通	内外:明赤褐	A·F·G· J	坏部 4/5	口縁部ヨコナデ。坏 部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。坏 部ヨコナデ後、放射 状ヘラミガキ。	内面摩耗。

第14表 遺物観察表(6)

H-7号住居址遺物観察表②

遺構名	番号	種類	器種		法量		11: 0	1			形技法の特徴		備考
	7	1 ///	, , , , I.E.	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	
	11	土師器	高坏	(15.2)	(9.6)	10.2	良好	内外:に ぶい赤褐	D•J	坏部 1/4、脚 部 1/2	口縁部ヨコナデ後指 頭圧痕。坏部〜脚部 中位へラナデ。脚部 下位〜裾部ヨコナデ。	口縁部〜坏部ヨコナ デ。坏底部〜脚部へ ラナデ。裾部ヨコナ デ。	精選され た胎土。
	12	土師器	高坏	(14.0)	9.2	10.3	良好	内外:に ぶい赤褐	C•F•J	坏部 4/5、脚 部 3/4	口縁部ヨコナデ。坏 部ヘラナデ。脚部〜 裾部ヨコナデ。	口縁部〜坏部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。坏底部へラナ デ。脚部ヨコナデ。	
	13	土師器	高坏	_	(9.7)	⟨6.7⟩	普通		A(多量)・ G・F	脚部 2/3	坏部ヘラナデ。脚部~裾部ヨコナデ後、縦方向ヘラミガキ。	坏底部器面剥離のた め調整不明。脚部〜 裾部ヘラナデ。	
	14	土師器	高坏	_	(10.0)	⟨5.1⟩	良好	内外: に ぶい赤褐	F•G•J	脚部 3/4	脚部〜裾部ヨコナデ。	脚部〜裾部ヨコナデ。	
	15	土師器	埦	14.1	_	⟨9.5⟩	普通	内外:橙	A • B • C	口縁部~ 体部 3/4	口縁部ヨコナデ。体 部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヘラナデ。	
	16	土師器	埦	14.0	_	7.7	普通	内外:に ぶい黄褐	B•F•G	口縁部 2/3、体 部~底部 完形	口縁部ヨコナデ。体 部上半ナデ後、指頭 圧痕。体部下半〜底 部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部〜底部ヘラナデ。	
	17	土師器	坏	16.0	_	8.4	良好	褐	A • F • G	3/4	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中位ナ デ。体部下位~底部 ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状へラミガキ。底部 ヘラナデ。	
	18	土師器	坏	15.1	_	⟨5.0⟩	普通	内外:明 赤褐	A·F·G· J	口縁部~ 体部 1/2	口縁部ヨコナデ。体 部摩耗のため調整不 明。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状へラミガキ。	
	19	土師器	坏	13.6	_	5.2	普通	内外:明 赤褐	A·C·F· G	4/5	口縁部〜体部上位ヨ コナデ。体部中位〜 底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状ヘラミガキ。底部 ヘラナデ。	
	20	土師器	坏	14.0	_	5.6	普通	内外:明赤褐	A · C · G	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。体 部〜底部へラケズリ。	□縁部~体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。底部へラナデ。 体部~底部に「一」 の暗文。	
H-7	21	土師器	坏	14.0	_	5.0	良好	内外:赤褐	A • F • J	口縁部 3/4、体 部~底部 5/6	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中位へ ラナデ。体部下位~ 底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後放射状 ヘラミガキ。底部へ ラナデ。「一」の暗文。	
	22	土師器	坏	12.8	_	4.4	普通	内外:明 赤褐	A · C · G	ほぼ完形	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中位ナ デ。体部下位~底部 ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状ヘラミガキ。底部 ヘラナデ。	
	23	土師器	坏	13.2	_	3.6	良好	内外:明 赤褐	A · C · G	ほぼ完形	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中位ナ デ。体部下位~底部 ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状へラミガキ。底部 ヘラナデ。	
	24	土師器	坏	(14.0)	_	⟨5.0⟩	普通	内外:明 赤褐	F • G	1/2	口縁部〜体部上位ヨ コナデ。体部中位〜 底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状ヘラミガキ。底部 ヘラナデ。	
	25	土師器	坏	(13.2)	_	4.8	普通	内外:明赤褐	A·B·G· J	2/3	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中位ナ デ。体部下位~底部 ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状ヘラミガキ。底部 ヘラナデ。	
	26	土師器	坏	(13.6)	_	⟨6.5⟩	普通	外:にぶ い赤褐、 内:黒	A·B·G· J	口縁部~ 体部 1/3	口縁部〜体部上位ヨ コナデ。体部中位へ ラナデ。体部下位へ ラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部上半ヨコナデ後、 放射状へラミガキ。 体部下半~底部へラ ナデ。	内面黑色 処理。
	27	土師器	坏	(12.6)	_	5.9	普通	外: にぶ い赤褐、 内: 黒	A • D • G • J	口縁部 1/8、体 部 1/4、 底部ほぼ 完形	口縁部〜体部上位ヨ コナデ。体部中位〜 底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状へラミガキ。底部 ヘラナデ。	内面黒t 処理。
	28	土師器	坏	(12.8)	_	4.7	普通	外:橙、 内:にぶ い橙	A • I • J	口縁部 1/8、体 部 1/4、 底部ほぼ 完形	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中~下 位ナデ。底部へラケ ズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部摩耗のため調整不 明。底部ヘラナデ。	
	29	土師器	坏	(11.6)	_	4.9	普通	外:にぶ い赤褐、 内:灰黄 褐	A • F • G	1/3	口縁部ヨコナデ。体 部ヘラナデ。底部へ ラケズリ。	口縁部〜体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。底部ヘラナデ。	

第15表 遺物観察表(7)

H-7号住居址遺物観察表③

遺構名	乗旦	種 類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退帶石	田勺	性 炽	66 作里	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	湘石
	30	土師器	坏	11.4	_	5.9	普通	内外:明 赤褐	A • F • G	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。体 部ナデ。底部ヘラケ ズリ。	口縁部〜体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。底部へラナデ。	
H-7	31	土師器	坏	(12.0)	_	5.6	普通	内外:明 赤褐	A·F·G	1/3	口縁部ヨコナデ。体 部〜底部摩耗のため 調整不明。	口縁部~体部中位ヨ コナデ後、放射状へ ラミガキ。体部下位 ~底部へラナデ。	

H-8号住居址遺物観察表

・鬼様々	3E 🗆	to an	00 to		法量					成・整	形技法の特徴		/#: ±z
遺構名	番写	種類	器種	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	備考
	1	須恵器	羽釜	(20.7)	_	⟨16.5⟩	酸化焰	外:褐灰、 内:灰黄 褐	A • B • C •	口縁部~ 胴部 1/4	ロクロ整形。胴部下 位へラケズリ。鍔貼 付。	ロクロ整形。	
	2	土師器	小形ロクロ甕	(14.2)	(7.0)	15.5	酸化焰		B • C • D •	口縁部 1/10、胴 部 1/3、 底部 1/8	ロクロ整形。胴部下 半ヘラケズリ。底部 ナデ。	ロクロ整形。	
	3	須恵器	坏	(14.8)	(7.5)	4.8	酸化焔	内外:に ぶい黄橙	A • B • F	1/4	ロクロ整形。底部回 転ヘラケズリカ。	ロクロ整形。	
H-8	4	須恵器	坏	(11.0)	(6.0)	3.5	酸化焰	内外:に ぶい黄橙	В•К	1/3	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。	
	5	須恵器	坏	(9.6)	5.2	3.5	酸化焔	外:褐、 内:黄褐	A · C · F	口縁部 ~体部 1/4、底 部完形	ロクロ整形。底部右 回転糸切り無調整。	ロクロ整形。	
	番号	種類	器種	材質	長さ	法 幅	量厚さ	重量			備考		
	6	鉄製品	刀子	鉄	⟨18.3⟩	1.2	0.4	20.11	端部欠損。	>			

H-9号住居址遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退愽石	番写	性 知	帝 悝	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	1	土師器	甕	16.5	_	25.7	普通			口縁部 2/3、胴 部〜底部 ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部ヘラナデ。	内底部は 器面剥離。
	2	土師器	甑	14.8	(6.6)	22.1	普通	外:橙、 内:明赤 褐		口縁部 〜胴部 1/2、底 部 1/4	口縁部ヨコナデ。胴 部上位ヘラナデ、中 〜下位ヘラケズリ。 底部ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ。胴 部上半ヘラケズリ、 下半ヘラナデ。端部 ヘラケズリ後ヘラミ ガキ。	
H-9	3	土師器	高坏	13.7	_	⟨8.3⟩	普通	外:橙、 内:にぶ い黄褐	C・F(多 量)・G	坏部ほぼ 完形	口縁部ヨコナデ。坏 部へラナデ後粗いハ ケメ。脚部へラナデ。	口縁部〜坏部へラナデ。	
	4	土師器	高坏	_	(11.0)	⟨7.0⟩	良好		A • C • F • M	脚柱部完 形、裾部 1/4	脚部ヘラナデ後、縦 方向ヘラミガキ。裾 部ヘラナデ後、放射 状ヘラミガキ。	坏底部ヘラナデ後へ ラミガキ。脚部ヘラ ナデ。裾部ヨコナデ。	
	5	土師器	鉢	13.3	5.4	6.6	普通	内外:明 赤褐	A • F • G	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。体 部ヘラナデ。底部へ ラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部〜底部へラナデ。	焼成後に 底部穿孔、 孔径 2.5 × 2.4cm。

H-10号住居址遺物観察表①

\B.4# /7	ポロ	for size	00 to		法量					成・整	形技法の特徴		/#: +r
遺構名	番号	種類	器種	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	備考
	1	土師器	小形甕	10.2	6.5	11.0	普通	内外:明		口縁部 ~胴部 4/5、底 部 1/2	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。底部へ ラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部ヘラナデ。	外面胴部 中位摩耗。
H-10	2	土師器	小形甕	11.3	4.6	7.1	普通	外:赤褐、 内:橙		口縁部 ~胴部 3/4、底 部完形	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部ヘラナデ。	
	3	土師器	小形甕	9.2	2.4	8.2	普通	内外:明 赤褐	A•F•J	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ、下端へ ラケズリ。底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ後ヘラミ ガキ。底部ヘラナデ。	

第16表 遺物観察表(8)

H-10号住居址遺物観察表②

遺構名	番号	種 類	器種		法 量					成・整	形技法の特徴		備考
退押石	田勺	性炽	66 作里	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	加与
	4	土師器	高坏	(19.0)	_	⟨6.2⟩	良好	外:赤褐、 内:にぶ い褐	A • C • F	坏部 1/4	口縁部ヨコナデ。坏 部ヘラナデ。	口縁部〜坏部ヨコナ デ後放射状へラミガ キ。坏底部へラナデ。	
H-10	5	土師器	坏	12.6	_	5.0	普通	外:にぶ い赤褐、 内:灰褐	A•F•G	1/2	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中位ナ デ。体部下位~底部 ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状へラミガキ。底部 ヘラナデ。	
	6	土師器	坏	(13.8)	_	4.6	普通	外:にぶ い赤褐、 内:黒褐	A • B • D	1/2	口縁部ヨコナデ。体 部ヘラナデ。底部へ ラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状へラミガキ。底部 ヘラナデ。	内面黒色 処理。
	7	須恵器	坏	(10.2)	_	⟨3.1⟩	還元焔	内外:灰 白	В	口縁部 1/8	ロクロ整形。体部回 転ヘラケズリ。	ロクロ整形。	

H-11号住居址遺物観察表

遺構名	番号	種 類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退愽石	番写	性 知	帝 悝	口径	底 径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1佣 专
	1	土師器	甕	(19.7)	_	⟨25.2⟩	普通	外:にぶ い黄褐、 内:にぶ い橙	A·D·F· J	口縁部~ 胴部 1/4	口縁部ヨコナデ後、 指頭圧痕。胴部ヘラ ケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。	
	2	土師器	甕	(18.0)	(6.4)	⟨27.2⟩	普通	内外:に ぶい橙	B·D·F· J	1/3	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部ヘラナデ。	
	3	須恵器	坏	(13.8)	7.3	3.6	還元焔 気味	外:にぶ い黄、 内:灰黄	B(大粒)・ F	口縁部 ~体部 2/3、底 部完形	ロクロ整形。底部右 回転糸切り無調整。	ロクロ整形。	
H-11	4	須恵器	坏	(14.4)	7.6	3.9	還元焔 気味	内外:灰 自	A • I	口縁部 ~体部 1/2、底 部完形	ロクロ整形。底部右 回転糸切り無調整。	ロクロ整形。	
	5	須恵器	碗	14.9	6.6	5.7	還元焔	内外:灰	В	完形	ロクロ整形。底部回 転糸切り。高台貼付 時に周縁ナデ。	ロクロ整形。	
	6	須恵器	碗	15.3	7.3	5.4	還元焔 気味	外:灰、 内:灰黄	F	口縁部~ 体部一部 欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り。高台貼付 時に周縁ナデ。	ロクロ整形。	
	番号	種類	器種	材質	長さ	法 幅	量厚さ	重量			備考		
	7	石製品	磨石	安山岩	3.4	2.1	1.9	17.96	完形。上i	面に平滑な	範囲あり。		

H-12号住居址遺物観察表

遺構名	來旦	種 類	器種		法 量					成・整	形技法の特徴		備考
退件石	甘っ	性規	66 作里	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	1	土師器	坏	14.6	_	7.1	良好	内外:明 赤褐	A·F·G· J	完形	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中位へ ラナデ。体部下位~ 底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状へラミガキ。底部 ヘラナデ。	
H-12	2	土師器	坏	12.4	_	5.3	普通	内外:明 赤褐	C • F • G	ほぼ完形	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中位へ ラナデ。体部下位~ 底部へラケズリ。	口縁部〜体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。底部ヘラナデ。	内面黒色 処理の可 能性あり。
	番号	種類	器種	材質		法	量				備考		
	钳力	性規	66 作里	171 貝	長さ	幅	厚さ	重量			1用 与		
	3	石製品	磨石	安山岩	3.4	3.0	2.2	24.3	完形。上	面に平滑な	範囲あり。		

H-13号住居址遺物観察表①

遺構名	來旦	種 類	器種		法 量					成・整	形技法の特徴		備考
退併石	田ケ	性規	66 作里	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	加与
	1	土師器	甕	20.6	4.6	36.6	良好		C(多量)・ F・N	口縁部完 形、胴部 3/4、底 部完形	口縁部ヨコナデ後、 指頭圧痕。胴部ヘラ ケズリ。底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ後ヘラミ ガキ。底部ヘラナデ。	
H-13	2	土師器	甕	(18.0)	_	⟨16.1⟩	良好	内外:赤褐	C•F•J	口縁部 1/6. 胴部 上半 1/2		口縁部ヨコナデ。胴 部上半ヘラナデ。	
	3	土師器	大形鉢	(20.8)	(7.5)	⟨15.1⟩	普通	内外:明 赤褐	A·C·F· J	1/2	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部ヘラナデ。	

第17表 遺物観察表(9)

H-13号住居址遺物観察表②

当性力	亚亚	4毛 米石	QU 46		法量					成・整	形技法の特徴		/# # x
遺構名	番号	種類	器種	口径	底径	器高	焼 成	色調	胎土	残存	外面	内面	備考
	4	土師器	大形甑	24.4	9.6	33.1	普通	内外:明 赤褐	A • B • C • F • J • O	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴 部へラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラケズリ後ヘラ ナデ。端部ナデ。	
	5	土師器	大形甑	25.1	10.0	27.3	良好	内外:明 赤褐	A•F•J	口縁部 ~胴部 2/3、底 部完形	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴 部ヘラナデ後ヘラミ ガキ。端部ヘラナデ。	
	6	土師器	小形甕	13.0	_	⟨13.2⟩	良好	外:明赤 褐、内: にぶい褐	C•F•G	口縁部完 形、胴部 上半 1/2	口縁部ヨコナデ後へ ラミガキ。胴部へラ ナデ後ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ後へ ラミガキ。胴部へラ ナデ。	
	7	土師器	小形壺	10.0	_	14.2	良好	外:橙、 内:にぶ い橙	A • F • G	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部へラナデ後 ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ。胴 部〜底部へラナデ後 まばらなヘラミガキ。	
	8	土師器	高坏	14.6	10.4	9.8	良好	内外:明赤褐	B • C • F •	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。坏 部へラナデ。脚部ヨ コナデ後、縦方向へ ラミガキ。	口縁部~坏部ヨコナ デ後、放射状のヘラ ミガキ。坏底部ヘラ ナデ。脚部上半ヘラ ナデ、下半ヨコナデ。	カマド支脚。
	9	土師器	高坏	15.2	_	⟨7.7⟩	良好	外:明赤 褐、 内:にぶ い黄橙	А•В•Ј	坏部〜脚 部上位ほ ぼ完形	口縁部ヨコナデ。坏 部ヘラケズリ。脚部 ヨコナデ後、縦方向 ヘラミガキ。	口縁部~坏部上反ヨ コナデ後放射状へラ ミガキ。坏部下半~ 底部ヘラナデ。「×」 の暗文。脚部ナデ。	
	10	土師器	高坏	10.0	9.3	10.4	良好	内外:に ぶい赤褐	A·F·G	2/3	口縁部ヨコナデ。坏 部へラナデ。脚部~ 裾部ヨコナデ後、縦 方向へラミガキ。	口縁部ヨコナデ後放 射状へラミガキ。坏 底部ヘラナデ後へラ ミガキ。脚部ヘラナ デ。裾部ヨコナデ。	
	11	土師器	髙坏	_	10.1	⟨7.0⟩	普通	内外:橙	A • G • I • J	脚柱部ほ ぼ完形、 裾部 1/2	坏部ヘラナデ。脚部 〜裾部ヨコナデ。	坏底部ヘラナデ。脚 部ヘラナデ。裾部ヨ コナデ。	
	12	土師器	高坏	_	_	(9.2)	良好	内外:明 赤褐	A • B • J	坏底部~ 脚柱部 1/3	坏部ヘラナデ後、放 射状ヘラミガキ。脚 部縦方向ヘラミガキ。	坏底部ヘラナデ後、 一方向ヘラミガキ。 脚部ヘラナデ。	三方向の 透かし孔。
H-13	13	土師器	坏	14.0	_	7.3	普通	内外:明 赤褐	A・B (大 粒)・F・ O	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。体 部上半ナデ。体部下 半〜底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部〜底部ヨコナデ後、 斜方向ヘラミガキ。	内面体部 ~底部摩 耗。
	14	土師器	坏	(15.0)	_	⟨6.4⟩	良好	ぶい赤褐	В•F•Ј	体部 1/4	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中~下 位ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、横・ 斜方向ヘラミガキ。	内面体部 摩耗。
	15	土師器	坏	15.2	_	7.0	普通	内外:明 赤褐	A·F·G· J	3/4	口縁部〜体部上位ヨ コナデ。体部中位へ ラナデ。体部下位〜 底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状へラミガキ。底部 ヘラナデ。	
	16	土師器	坏	13.0	_	4.5	良好	内外:明 赤褐	A • J	2/3	口縁部~体部上位ヨ コナデ。体部中位ナ デ。体部下位~底部 ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体 部ヨコナデ後、放射 状ヘラミガキ。底部 ヘラナデ。	
	17	土師器	坏	(12.5)	_	⟨5.5⟩	良好	内外:明 赤褐	B•F•J	口縁部~ 体部 1/3	口縁部〜体部上位ヨ コナデ。体部中〜下 位へラケズリ。	口縁部~体部中位ヨ コナデ後、放射状へ ラミガキ。体部下位 ヨコナデ後、螺旋状 ヘラミガキ。	
	18	土師器	坏	12.3	_	5.2	良好	内外:明 赤褐	A • G	2/3	口縁部ヨコナデ。体 部〜底部へラケズリ。	口縁部~体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。体部下位に横 方向へラミガキ。底 部へラナデ。	
	19	土師器	坏	(12.3)	_	⟨5.0⟩	普通		A•F•G	体部 1/2	口縁部ヨコナデ。体 部ヘラケズリ。	口縁部~体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。	内面摩耗。
	20	土師器	坏	11.2	_	6.0	普通	い黄橙、 内:にぶ い赤褐	A·C·F		口縁部ヨコナデ。体 部上半ナデ。体部下 半〜底部ヘラケズリ。	口縁部〜体部ヨコナ デ後、放射状へラミ ガキ。底部ヘラナデ。	
	21	土師器	坏	9.4	_	2.9	普通	赤褐	A • B • F • J		口縁部ヨコナデ。体 部〜底部ヘラナデ。	口縁部〜底部へラナ デ。	
	22	土師器	手捏ね	6.4	_	2.8	普通	内外:明 赤褐	A • J	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。体 部ヘラナデ。底部へ ラケズリ。	口縁部〜底部へラナデ。	

第18表 遺物観察表(10)

H-13号住居址遺物観察表②

遺構名	番号	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退押石	借写	性規	66 性	口径	底 径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1佣 专
	23	土師器	手捏ね	(7.1)	_	5.1	普通	内外:明 赤褐		口縁部 1/5、体 部 1/3、 底部完形	口縁部ヨコナデ。体 部〜底部ヘラナデ。	口縁部〜底部へラナデ。	
H-13	番号	種類	器種	胎土	長さ	法 幅	量厚さ	重量			備考		
					IX C	押笛	序で	里里					
	24	土製品	土玉	C • I	1.4	1.3	1.3	2.11	焼成:普遍 × 0.4cm。		ぶい黄橙。残存:完形。	成・整形技法の特徴:ナテ	·。孔径 0.7

D-1号土坑遺物観察表

遺構名	番号	206 405	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	番号	種類	帝 悝	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1佣 专
								外:暗赤、	チャー	胴部片	ヘラナデ。	当て具痕。	
D-1	1	陶器	甕	_	_	_	良好	内: にぶ	ト・石英・				
								い赤褐	白色粒				

D-3号土坑遺物観察表

)# I# A	- T	es ver	nn 44		法量					成・整	形技法の特徴		ttt de
遺構名	番号	種類	器種	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	備考
	1	軟質陶器	内耳鍋	-	_	⟨5.5⟩	普通		白色粒・ 褐色粒・ 金雲母	口縁部片	ヘラナデ。	ヘラナデ。内耳周縁 部ナデ。	
	2	磁器	ш	-	_	_	堅緻	内外:灰 白、呉須: 明青灰	_	体部片	ロクロ整形。	ロクロ整形。	鳥文。
D-3	番号	種類	器種	材質	長さ	法 幅	量厚さ	さ 重量 備考					
	3	石製品	茶臼	安山岩	⟨35.9⟩	⟨34.4⟩	12.7	8,963	下臼。臼	面以外の箇	所に漆を塗布。		
	4	石製品	穀物臼	安山岩	⟨20.6⟩	⟨13.6⟩	10.0	2,069	上臼。縁	の一部に打	ち欠き痕が認められる。		
	5	石製品	五輪塔	安山岩	22.2	23.0	13.2	4,300	水輪。内	面を打ち欠	き穿孔させる。判読不能	だが梵字と思われる線刻	lあり。
	6	石製品	板碑	緑泥片岩	⟨17.7⟩	⟨19.5⟩	3.2	1,298	蓮座が認	められる。			
	7	鍛冶関連 遺物	椀形 鍛冶滓	鉄	7.4	9.0	3.2	201	一部ガラ	ス質化が認	められる。発砲が著しい	0	
	8	銭貨	政和通寶	銅	2.6	2.5	0.1	3.3	北宋銭。	1111 年初	祷。		

D-11号土坑遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	留写	悝 积	希性	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
D 11	1		かわこけ	7.2	5.5	1.0	华,吳	内外:に	褐色粒・	3/4 残	ロクロ整形。底部回	ロクロ整形。見込み	口縁部油
D-11	1		かわらけ	7.3	5.5	1.8	普通	ぶい黄橙	黒色鉱物		転糸切り後ナデ。	単方向のナデ。	煙付着。

D-18号土坑遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種		法 量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	留写	性规		口径	底 径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	加 ′ / / / / / / / / / / / / / / / / / /
	1		かわらけ	10.7	6.2	2.6	普通	内外:橙	褐色粒 • 黒色粒	4/5 残	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ後周縁 部ナデ。	
	2		かわらけ	8.3	6.3	1.7	普通	内外:橙	褐色粒・ 黒色粒	完形	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ。	
	3		かわらけ	8.3	4.8	2.7	普通	内外:に ぶい黄橙	褐色粒 · 黒色鉱物	一部欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り後浅い板目 状の圧痕。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ。	油煙付着。 二次被熱 顕著。
D-18	番号	種類	器種	材質	長さ	法 幅	量厚さ	重量			備考		
	4	銭貨	天祐通寶	銅	2.5	2.5	0.1	3.0	北宋銭。	1086 年初	祷。		
	5	銭貨	洪武通寶	銅	2.5	2.5	0.1	3.4	北宋銭。	1368 年初	祷。		
	6	銭貨	判読不能	銅	2.4	2.4	0.9	2.2	判読不能	>			
	7	銭貨	宣徳通寶	銅	2.6	2.6	0.2	2.9	1433 年初	刃鋳。			
	8	銭貨	洪武通寶	銅	2.4	2.4	0.2	3.6	北宋銭。	1368 年初	祷。		
	9	銭貨	洪武通寶	銅	2.4	2.4	0.1	2.1	北宋銭。	1368 年初	祷。		

D-23 号土坑遺物観察表

遺構名	- 1	種類	器種		法 量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	番写	性 知	希性	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1佣 方
D-23	1		かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.8	普通	外:にぶ い黄橙、 内:にぶ い黄橙	白色粒	1/4 残	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。	

第19表 遺物観察表(11)

D-33号土坑遺物観察表

٠,	遺構名	番号	種類	器種	材質		法	量		備考
ĮĮ.	13件台	田 万	性 积	帝 悝		長さ	幅	厚さ	重量	畑 芍
	D-33	1	瓦	丸瓦	_	⟨5.0⟩	⟨4.0⟩	1.9	_	凸面:布目痕。ヘラナデ。 凹面:ヘラナデ

D-47号土坑遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退帶石	甘っ	性炽	66 作里	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1 用 与
								内外:灰		口縁部片			
D-47	1	青磁	碗	_	_	_	堅緻	オリーブ					

D-53号土坑遺物観察表

\#\## /z	ポロ	for you	00 to		法量					成・整	形技法の特徴		/#: +x
遺構名	番号	種類	器種	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	備考
	1		かわらけ	15.2	8.6	3.8	普通	内外:橙	褐色粒・ 自色粒	1/3 残	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ。	
	2		かわらけ	7.8	5.0	1.8	普通	内外:橙	褐色粒 · 黒色鉱物	体部 1/3 欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り後一部ナデ。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ後周縁 部ナデ。	
	3	陶器	埦	13.0	_	⟨6.0⟩	堅緻	内外: に ぶい褐、 釉:黒			ロクロ整形。	ロクロ整形。	鉄釉を施 釉
D-53	4	陶器	擂り鉢	31.4	10.4	13.2	還元焔	内外:灰	白色粒・ 黒色粒	口縁部~ 体部 1/3 欠損	ロクロ整形。体部へ ラナデ。	ロクロ整形。体部中 位〜見込みにかけて 使用痕顕著。	
	番号	種類	器種	材質		法	量				備考		
	田勺		66 作里	70 貝	長さ	幅	厚さ	重量			1		
	5	鍛冶 関連遺物	鞴羽口	土製	⟨13.3⟩	9.8	9.7	1,229			x成形。外:ヘラケズリ7 性が顕著に認められる。	後ヘラナデ。下部に装着	痕。先端部
	6	土製品	円盤状 土製品	土製	5.7	6.0	1.5	70.0					
	7	土製品	円盤状 土製品	土製	5.4	5.1	1.5	50.1					
	8	鉄製品	刀子	鉄	⟨22.2⟩	1.7	0.5	37.8					
	9	銭貨	天元通寶	銅	2.5	⟨2.4⟩	0.9	1.4					

D-60号土坑遺物観察表

遺構名	采旦	種類	器種		法 量					成・整	形技法の特徴		備考
退併石	甘っ	性炽	66 作里	口径	底径	器高	焼 成	色調	胎土	残存	外面	内面	1/用 行
	1	陶器	Ш	_	_	_	堅緻	内外:灰 白		口縁部片	ロクロ整形。	ロクロ整形。	内外灰釉 を施釉。
D-60	番号	種 類	器種	材質		法	量				備考		
	甘っ	性規	66 作里	竹貝	長さ	幅	厚さ	重量			1用 写		
	2	鉄製品	不明	鉄	⟨7.9⟩	1.0	0.7	7.7	棒状品。	頂部が屈曲	する。先端部欠損。		

D - 75 号土坑遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	借写	性規	帝 悝	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	1		かわらけ	(14.4)	(8.6)	2.9	普通	い黄橙、	黒色粒・ 雲母・褐 色粒	1/3	ロクロ整形。底部回 転糸切り後浅い板目 状の圧痕。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ後周縁 部ナデ。	
D-75	2		かわらけ	(10.7)	(7.0)	2.6	普通	内外:に ぶい褐	白色粒・ 褐色粒	1/4	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。	
	3	軟質陶器	内耳鍋	30.0	21.2	⟨14.8⟩	普通	外:にぶ い黄、 内:明褐	白色粒・ 黒色粒	口縁部~ 体部下位 2/3	ヘラケズリ後ヘラナ デ。口縁部ヨコナデ。	ヘラナデ。	補修孔あ り。把手 部欠損。

D-81号土坑遺物観察表①

遺構名	采旦	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退件石	田力	性炽	66 作里	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1/用 45
D-81	1		かわらけ	12.8	7.8	3.0	普通	内外:橙			ロクロ整形。体部回 転ペラケズリ後ナデ。 底部回転糸切り無調 整。	ロクロ整形。	
	2		かわらけ	8.0	5.4	2.0		内外: 黄 灰		口縁部~ 体部 1/4 残	ロクロ整形。	ロクロ整形。	口縁部油 煙付着。

第 20 表 遺物観察表 (12)

D-81号土坑遺物観察表②

遺構名	亚口	種類	器種	材質		法	量		備考
退佣石	借写	悝 积	66 性	州貝	長さ	幅	厚さ	重量	1
D-81	3	石製品	砥石	角閃石 安山岩	11.3	5.9	2.7	67.8	二面使用。上部に穿孔一箇所。
D-81	4	鉄製品	釘	鉄	5.2	1.0	0.6	4.4	
	5	鉄製品	釘	鉄	5.2	0.9	4.5	2.8	先端部木質付着。頂部欠損。

D-83号土坑遺物観察表

遺構名		種 類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退愽石	番写	性 粗	布性	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1佣 专
	1		かわらけ	_	6.1	⟨2.1⟩	普通	内外: に ぶい黄橙	褐色粒・ 黒色粒	底部残	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。	
	2		灯明皿	7.9	5.3	1.8	普通	内外:に ぶい橙	褐色粒・ 黒色粒	完形	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。口 縁部に敲打による調 整痕。	ロクロ整形。	油煙付着。
D-83	3		かわらけ	7.1	5.6	1.4	普通	内外:橙	白色粒・ 黒色粒・ 褐色粒	口縁部一 部欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ。	
者	4		かわらけ	_	4.1	⟨2.9⟩	普通	内外:灰 黄	黒色粒・ 褐色粒	底部残	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。	二次被熱。
	番号	種類	器種	材質		法	量				備考		
	田勺	性炽	66 作里	彻貝	長さ	幅	厚さ	重量			1用 与		
	5	石製品	穀物臼	安山岩	17.6	9.3	10.4	1,701					

D-106号土坑遺物観察表

遺構名	番号	種 類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	留写	悝 积	6 性	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	1		かわらけ	(7.6)	(5.4)	1.85	普通		黒色粒・ 白色粒	1/4 残	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込み 周縁部ナデ。	
D-106	2		かわらけ	(11.0)	(6.8)	1.9	普通	内外:に ぶい黄橙		口縁部~ 体部下位 1/4 残	ロクロ整形。体部ナ デ。底部回転糸切り 無調整、板目状の圧 痕。	ロクロ整形。体部中 位~下位へラナデ。	
	3	陶器	擂り鉢	_	(11.0)	7.5	普通	外:黒褐、 内:にぶ い黄橙		体部片	粘土紐輪積み後ロクロナデ。底部回転糸切り無調整、板目状の圧痕。	5本1単位の掻き目。	二次被熱。

D-107号土坑遺物観察表

遺構名	番号	種 類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	借写	性 积		口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	1		かわらけ	11.6	6.9	2.2	普通	内外:に ぶい黄橙	黒色鉱 物・褐色 粒	口縁部~ 体部 1/5 欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整	ロクロ整形。スス付 着。	油煙付着。
	2		かわらけ	(10.7)	6.0	2.7	普通	内外: に ぶい橙	白色粒・ 黒色粒・ 褐色粒	口縁部~ 体部 3/4 欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ。	
	3		かわらけ	(11.4)	6.8	2.2	普通	内外:に ぶい黄橙	褐色粒• 黒色粒	口縁部~ 体部 3/4 欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ。	
	4		かわらけ	(6.3)	(7.0)	2.3	普通	内外: に ぶい橙	白色粒・ 褐色粒・ 黒色鉱物	口縁部~ 底部 1/4 残	ロクロ整形。底部回 転糸切り後ナデ。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ。	
D-107	5		かわらけ	7.9	5.3	2.1	普通	内外:橙	褐色粒· 黒色粒	完形	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。見 込み中央部から底部 中央にかけて焼成前 穿孔。口縁部焼成後 の抉り。	ロクロ整形。	油煙付着。
	6		かわらけ	9.2	6.0	2.0	普通	内外:橙	褐色粒	口縁部~ 底部 1/3 残	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ。	
	7		かわらけ	_	4.8	1.5	普通	外:灰黄 褐、 内:褐灰	黒色鉱 物・褐色 粒	口縁部~ 底部 2/3 残	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。口縁部 打ち欠きか。	
	8		かわらけ	7.4	4.8	2.1	普通	内外:に ぶい黄橙	褐色粒・ 黒色粒	口縁部~ 体部 1/4 欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り後一部ナデ。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ、周縁 部ナデ。	

第21表 遺物観察表(13)

D-108号土坑遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種	材質		法	量		備考
退帶石	田勺	性炽	66 作里	材頁	長さ	幅	厚さ	重量	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
D-108	1	銭貨	嘉慶通寶	銅	2.6	2.6	0.1	3.4	清銭。1796 年初鋳。

D-117号土坑遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	留写	性規	岙 悝	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1佣 专
D-117	1	陶器	ш	_	7.0	⟨1.7⟩	普通	内外:灰 黄、		体部~底 部片	ロクロ整形。削り出 し高台。	ロクロ整形。	白濁釉を 内外施釉。
								釉:灰白					

D - 130 号土坑遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退押石	借写	性規	- 67 性	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1佣 专
								外:褐、	チャー	口縁部	口縁部ヨコナデ後指	口縁部ヨコナデ、胴	
D-130	1	土師器	甕	(16.2)	_	⟨29.2⟩	普通	内:褐			頭圧痕、胴部ヘラケ	部ヘラケズリ。	
D-130	1		K	(10.2)		\23.2/	日旭		雲母・赤	部 1/2	ズリ。		
									色粉				

D-133号土坑遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種	材質		法	量		備 老
退佣石	借写	性規	帝 悝	171 貝	長さ	幅	厚さ	重量	偏 考
D-133	1		円盤状土 製品	土製	4.2	4.4	1.1	21.9	側面研磨。

M-1号溝遺物観察表

遺構名	3E 🗆	種類	00 to		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退押石	番号	性規	器種	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1佣 专
	1	陶器	鉢	(28.6)	_	⟨6.4⟩	普通	外:暗灰 黄、 内:黄灰	石英・ 黒色粒	口縁部片	ロクロ整形。	ロクロ整形。平滑。	
	2	陶器	甕	_	(15.0)	_	還元焔 気味	内外:褐灰	白色粒・ 黒色鉱 物・石英	頸部片・ 底部片	ロクロ整形。	ロクロ整形。	鉄釉施釉、 自然釉付 着。
M-1	3	陶器	火鉢	_		_	酸化焰	内外:明 赤褐	白色粒・ 黒色粒	体部片	粘土紐輪積み後成形。 ヘラナデ、型押し。		
	番号	種類	器種	材質	長さ	法 幅	量厚さ	重量			備考		
		鍛冶関連 遺物	椀形鍛冶 滓	鉄	10.1	9.2	3.5	314	酸化土砂の付着が顕著。				

M-6号溝遺物観察表①

遺構名	番号	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退押石	留写	悝規	益 悝	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1佣 与
	1		かわらけ	(16.8)	(10.0)	2.8	良好	内外:橙	褐色粒・ チャー ト・黒 色鉱物	1/4 残	ロクロ整形。底部回 転糸切り後一部ナデ。	ロクロ整形。	
	2		かわらけ	11.7	6.5	2.7	普通	内外:に ぶい橙	褐粒・鉱ヤト 色粒	口縁部~ 体部 1/6 欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り後板目状の 圧痕。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ後周縁 部ナデ。	
	3		かわらけ	11.8	6.8	3.0	普通	内外:橙	褐色粒・ 白色粒	ほぼ完形	ロクロ整形。底部回 転糸切り後板目状の 圧痕。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ後周縁 部ナデ。	
M-6	4		かわらけ	11.8	6.5	2.4	普通	内外: に ぶい橙		口縁部一 部欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。	
	5		かわらけ	11.6	6.4	2.6	普通	外:褐、 内:にぶ い褐	黒色鉱 物・褐 色粒	口縁部~ 体部 1/6 欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り後ナデ。	ロクロ整形。	
	6		かわらけ	11.3	6.9	2.3	普通	内外:橙	黒色鉱 物・褐 色粒	口縁部~ 体部 1/2 欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。	
	7		かわらけ	11.9	6.8	3.5	普通	内外:橙	白色粒・ 黒色鉱 物	口縁部~ 体部 2/3 欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。	

M-6号溝遺物観察表②

遺構名	番号	種 類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	借写	性規	66 性	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	8		かわらけ	8.2	5.0	2.5	普通	内外:橙	褐色粒・ 黒色鉱 物	口縁部~ 体部一部 欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り後浅い板目 状の圧痕。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ。	
	9		かわらけ	7.7	5.4	1.8	普通	内外:橙	褐色粒・ 黒色鉱 物	ほぼ完形	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。	口縁部油煙付着。
	10		かわらけ	_	(6.8)	⟨1.6⟩	普通	内外:橙	褐色粒・ 黒色粒	底部 2/3 残	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整、焼 成後穿孔。	ロクロ整形。	
M-6	11	軟質陶器	内耳鍋	_	_	_	普通	い褐、	黒色鉱	口縁部片	ロクロ整形。型造り、 ヘラナデ。	ロクロ整形。ナデ。	
	12	青磁	碗	_	(8.4)	⟨2.4⟩		内外:明 緑灰		底部片			
	番号	種類	器種	材質		法					備考		
				177 54	長さ	幅	厚さ	重量					
	13	瓦	平瓦		⟨5.0⟩	⟨4.3⟩	⟨2.0⟩	_			トデ。凸面:ヘラナデ。』	显元気味。	
	14	石製品	石塔		40.5	17.3	5.3	3280	朱書きあ				
	15	石製品	穀物臼	安山岩	⟨11.8⟩	⟨8.4⟩	14.0	1226	上臼。碌	片。			
	16	鍛冶 関連遺物	鞴羽口		⟨8.0⟩	⟨6.3⟩	⟨2.7⟩	85.8					

M-8号溝遺物観察表

遺構名	番号	種 類	器種		法 量					成・整	形技法の特徴		備考
退鬥石	份写	性知		口径	底 径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	佣 专
	1		かわらけ	(8.0)	5.0	1.6	普通	内外:に ぶい橙	褐色粒・ 黒色粒・ チャー ト	口縁部~ 底部 1/3 残	ロクロ整形。底部回 転糸切り後一部ナデ。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ後周縁 部ナデ。	
	2		かわらけ	(6.8)	(4.6)	1.2	普通	内外: に ぶい橙	褐色粒・ 黒色粒・ 雲母	口縁部~ 体部 2/3 欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り後ナデ。	ロクロ整形。	
M-8	3		かわらけ	(7.6)	(5.8)	1.7	普通	内外:橙	白色粒・ 黒色粒・ 褐色粒	口縁部~ 底部 1/4 残	ロクロ整形。被熱のた めか器面荒れる。底 部回転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ後周縁 部ナデ。	
	4		かわらけ	_	_	_	普通	内外: に ぶい橙	褐色粒・ 黒色粒	口縁部片	ロクロ整形。粘土ク ズ付着、判読不明の 墨書。	ロクロ整形。見込み 周縁部ナデ。	
	5	軟質陶器	内耳鍋	_	_	_	普通	外:灰黄 褐、 内:黄灰	褐色粒・ 石英・黒 色鉱物	口縁部片	ヘラナデ。	ヘラナデ。内耳把手 部周辺ナデ。	

S-1号配石遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	借写	性規	66 性	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1佣 专
	1	陶器	ш	_	(7.2)	⟨1.1⟩		内外:灰 自	褐色粒	底部片	ロクロ整形。削り出 し高台。	ロクロ整形。	白濁釉を 内外施釉。
C 1	番号	種 類	器種	材質		法	量				備考		
S -1	借写	性規	66 性	州貝	長さ	幅	厚さ	重量			1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
	2	石製品	茶臼	安山岩	⟨26.6⟩	⟨15.1⟩	⟨9.7⟩	2,400	下臼。1.	/6 残。			
	3	石製品	穀物臼	安山岩	⟨34.1⟩	⟨18.7⟩	7.7	4,250	下臼。				

S-2号配石遺物観察表

_			- 113 -07										
遺構名	亚口	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	借写	性規	66 性	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	加方
	1	陶器	擂り鉢	_	(11.4)	⟨4.0⟩	普通	内外:黄褐	白色粒・ 褐色粒・ 黒色鉱 物	底部片	粘土紐輪積み成形後 ロクロナデ。底部回 転糸切り後ナデ。	掻き目。	
S-2	番号	種類	器種	材質		法	量]		備考		
	田勺	1生 枳	位置 任里		長さ	幅	厚さ	重量			川 つ		
	2	石製品	茶臼	安山岩	⟨12.5⟩	⟨11.8⟩	⟨9.1⟩	821.0	下臼。破	片。			
	3	石製品	穀物臼	安山岩	⟨23.2⟩	⟨14.7⟩	14.3	3,750	上臼。1	/3 残。臼面	fiにおいてモノクバリが顕	願著に認められる。	
	4	石製品	穀物臼	安山岩	⟨15.3⟩	⟨22.2⟩	⟨6.4⟩	1,545	上臼。1	/4 残。径:	(33.4) cm _o		

S-3号配石遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種	材質		法	量		備考
退押石	借写	性規	宿 悝	材頁	長さ	幅	厚さ	重量)
S-3	1	鍛冶関連 遺物	鞴羽口	土製	⟨6.3⟩	⟨6.9⟩	⟨5.2⟩	167.0	

第 23 表 遺物観察表 (15)

S-4号配石遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	借写	性規	岙 悝	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1佣 与
C 1	1	陶器	m		_	_	堅緻	内外:オ		口縁部片	ロクロ整形。	ロクロ整形。	内外灰釉
5-4	1	四石	IIII				空椒	リーブ黄					施釉。

S-6号配石遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種		法 量					成・整	形技法の特徴		備考
退帶石	田勺	性規	66 作里	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1 1 万
S-6	1	陶器	擂り鉢	_	(8.0)	⟨4.4⟩	普通	内外:黄 褐	黒色粒・ 黒色鉱物	底部片	ヘラナデ。	ナデ後掻き目。平滑。	

S-20号配石遺物観察表

遺構名	- 14	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	借写	性規	 宿 悝	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1佣 专
	1	陶器	鉢	_	_	_	普通		褐色粒• 黒色粒	口縁部片	粘土紐輪積成形。へ ラナデ。	ヘラナデ。	
	番号	種類	器種	材質		法	量				備考		
S-20	田勺	性块	66 作里	竹貝	長さ	幅	厚さ	重量			1用 写		
	2	石製品	砥石	砂岩	8.9	5.45	4.2	132.48			>両側面は顕著な使用に、 泉刻が認められる。	より摩耗しやや湾曲して	いる。砥面
	3	石製品	板碑	緑泥片岩	⟨17.3⟩	⟨11.8⟩	2.5	590.0					

SP - 36 号ピット遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種	++ 55		法	量		備考
退件石	借写	性 积	谷 悝	州貝	長さ	幅	厚さ	重量	川 芍
SP-36	1	石製品	穀物臼	安山岩	(28.0)		6.5	1345.5	上臼。破片。

SP - 142 号ピット遺物観察表

遺構名 番号 種類	器種	材質		法	量		備考		
退押石	借写	性規	- 67 性	171 貝	長さ	幅	厚さ	重量	1
SP-142	1		円盤状土 製品	土製	3.7	3.7	1.3	19.5	側面研磨。

SP - 166 号ピット遺物観察表

遺構名	采旦	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	份写	性規	岙 悝	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1
SP-166	1	土師器	坩	9.6	_	7.7	普通		灰岩粒・ 角閃石・	1/2、胴	口縁部〜胴部上位ヨ コナデ、胴部中位〜 底部へラナデ。	口縁部ヨコナデ、胴 部〜底部へラナデ。	

SP - 186 号ピット遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退押石	借写	性規	- 67 性	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1佣 专
SP-186	1		かわらけ	13.6	8.3	2.9	普通	内外:に ぶい黄橙		口縁部一 部欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り後板目状の 圧痕、一部ナデ。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ	二次被熱 のため器 面が剥離 し荒れる。
	2		かわらけ	11.4	6.0	3.4		外:橙、 内:にぶ い黄褐		口縁部~ 体部 2/3 欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込み 単方向のナデ後周縁 部ナデ。	

SP - 232 号ピット遺物観察表

遺構名	-	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退伸在	自留写	俚积	帝 悝	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1佣 专
SP-23	2 1		かわらけ		(5.2)	⟨1.3⟩	普通			底部 1/4 残	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込み に墨書。底部焼成後 穿孔。	

SP - 235 号ピット遺物観察表

遺構名	亚口	\$16 米 5	器種	++ 55	法量	農 耂				
退佣石	番号	性規	- 67 性	州 貝	長さ	幅	厚さ	重量	一	
SP-235	1	銭貨	天元通寶	銅	2.4	⟨2.3⟩	0.09	2.2		

SP - 237 号ピット遺物観察表

遺構名	亚口	種類	器種		法 量					成・整	形技法の特徴		備考
退押石	份写	悝 积		口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1佣 专
SP-237	1		かわらけ	(13.8)	(8.0)	2.3		内外:に ぶい黄橙	褐色粒			ロクロ整形。見込み ナデ。	口縁部内 外に白色 粘質土付 着。

SP - 326 号ピット遺物観察表

当世夕	遺構名 番号 種 類	4底 米石	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退佣石	留写	性規		口径	底 径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	1 用 专
SP-326	1		かわらけ	7.1	4.6	1.9	普通		黒色粒・ 褐色粒	ほぼ完形	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。口縁部 油煙付着。	下皿、内外 スス付着

SP - 337 号ピット遺物観察表

海掛夕	番号	括 粨	器種	++ 65		法量 農老	農 夹		
直稱名	甘っ	悝 积	66 作里	171 貝	長さ	幅	厚さ	重量	湘 行
SP-337	1	石製品	砥石	泥岩	9.0	4.1	2.6	117.8	三面使用。

遺構外遺物観察表①

遺構名	邓口	種類	器種		法量					成・整	形技法の特徴		備考
退件石	借写	性 規	岙 悝	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	
	1	縄文土器	深鉢	_	_	_	普通	外:明赤 褐、 内:褐	繊維・白 色粒	胴部片	単節RL。	条痕文。	早期末~前期初頭。
	2	縄文土器	深鉢	_	_	_	良好	内外:に ぶい黄褐		口縁部片	横位隆帯貼付け後、 隆帯状に半裁竹菅状 工具による連続刺突。	ナデ。	前期末。
	3	縄文土器	深鉢		_	_	普通	外:橙、 内:にぶ い黄橙	黒色粒・ 黒色鉱 物・褐色 粒	口縁部片	無節1施文後横位の 沈線を2条施し区画。 沈線間には刺突。胴 部はスリ消し。	ナデ。	前期末。
	4	縄文土器	深鉢	_	_	_	普通	外: にぶ 内: にぶ い 黄橙、 い 黄褐 い 黄褐	物·石英·	口縁部片	単節 R L 施文後、弧 状の沈線を施す。口 縁部には横位の円形 刺突。	ナデ。	加曽利E Ⅲ式。
	5	縄文土器	深鉢	_	_	_	普通	外: にぶ 内: 格 に る い 黄 電 る い 黄 る る る る る る る る る る る る る る る る る	物·石英·	口縁部片	単節RL施文後、弧 状の沈線を施す。口 縁部には横位の円形 刺突。	ナデ。	加曽利 E Ⅲ式。
遺構外	6	縄文土器	深鉢	_	_	_	普通	外:橙、 内:明黄 褐	褐色粒・ チャー ト・黒色 鉱物	口縁部片	横位隆帯により口縁 部を区画。口縁部無 文。胴部は縦位隆帯 により区画。区画内 は単節RL縄文・ス リ消しをそれぞれに 施す。	ナデ。	加曽利E Ⅲ式。
	7	縄文土器	深鉢	_	_	_	普通	外:にぶ い黄褐、 内:にぶ い褐	自色粒・ 黒色鉱物	胴部片	縦位の隆帯を貼付。 条線を縦位に施文後、 隆帯脇に縦位の沈線 を施す。	ミガキ。	加曽利E Ⅲ式。
	8	縄文土器	鉢	_	_	_	普通	外:明黄 褐、 内:にぶ い黄褐	褐色粒•	把手部	楕円形に隆帯を貼付 後、LR 縄文を施文。 隆帯の内側に幅広の 沈線。	ナデ。	加曽利E Ⅲ式。
	番号	種類	器種	材質	長さ	福 福	量厚さ	重量	-		備考		
	9	石器	石鏃	黒曜石	⟨3.03⟩	⟨2.23⟩	0.35	1.55	凹基無茎	。先端部・	右脚欠損。		
	10	石器	打製石斧	頁岩	8.2	4.7	1.95	67.14	小型分銅 刃部周辺	形。周縁に	「直撃打撃による両面加」 「認められ、刃縁部には何	Lを施し敲打による抉入き 使用による刃こぼれあるい	
	11	石器	打製石斧	安山岩	⟨6.1⟩	5.0	1.75	79.51	両側縁を 央〜基部		よる両面加工を施す。刃	日部周辺に摩耗痕が認め	うれる。中
	番号	種類	器種	F15∀	法量	nn ÷	44: 44	<i>1</i> 2.∃⊞		成・整	形技法の特徴	力工	備考
				口径	底径	器高	焼成	色調 内外:に	胎土 チャー	残存 口縁部	外面 口縁部ヨコナデ、頸	内面 口縁部ヨコナデ、頸	
	12	土師器	S 字状口 縁台付甕	(16.4)	_	⟨2.5⟩	良好	ぶい黄橙	ト・赤 色粒	1/8	部ハケメ。	部へラナデ。	

第 25 表 遺物観察表 (17)

遺構外遺物観察表②

					法量			-	-	-			
遺構名	番号	種類	器種	口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	備考
	13	須恵器	高坏形 器台	_	_	⟨8.0⟩	還元焔	内外:灰	石英・ 凝灰岩 粒・黒 色粒	脚部破片	ロクロ整形。脚部横 方向のカキメ後9条 1本の櫛歯状工具によ る波状文→2条の横 位沈線→横方向のカ キメ後櫛歯状工具に よる波状文。	ロクロ整形。	長方形お よび円形 の透かし 孔あり。
	14	須恵器	類	(23.2)	_	⟨7.2⟩	還元焔	内外:灰	石英・ 凝灰岩 粒・黒 色粒	口縁部 1/3	回転ヨコナデ、胴部 タタキ後ヘラナデ。	胴部無文の当て具痕。	
遺構外	15	須恵器	碗	(15.3)	(7.0)	5.2	還元焔	内外:黄灰	石英・ 凝灰岩 粒・頁 岩	1/4	ロクロ整形。底部回 転糸切り。高台貼付 時に周縁ナデ。	ロクロ整形。	内底部は 平滑。転 用か。
	16	陶器	鉢	_	_	⟨6.4⟩	還元焔	外:暗灰 黄、 内:黄灰	石英・ 白色粒	体部下 位~底 部 1/4 残	ロクロ整形。体部下 位回転へラケズリ、 高台貼付後ナデ。	ロクロ整形。	
	17		かわらけ	_	(6.0)	⟨06⟩	良好	外:暗灰 黄、 内:黒	黒色粒・ 褐色粒	底部片	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。全面に 漆付着。	
	番号	種類	器種	材質		法		_			備考		
					長さ	幅	厚さ	重量					
	18	石製品	紡錘車	蛇紋岩	3.8	3.8	1.9	37.0					
	19 鉄製品 釘 鉄 〈9.6〉 1.4 0.6					0.6	18.2	頂部及び先端部欠損。					

第 26 表 遺物観察表 (18)

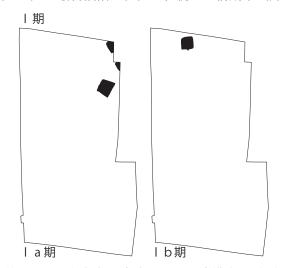
VII 成果と問題点

1 海竜寺Ⅱ遺跡における遺構変遷

今回の調査で得られた遺構に伴う出土遺物の帰属時期・遺構埋没土に含まれる火山灰・遺構の切り合いによる新旧関係、各遺構における主軸方位の異動などを検討したところ $I \sim V$ 期の遺構変遷を辿ることができた。 $I \sim IV$ 期においてはその帰属期間内でさらに 2 時期に細分された。以下に各時期ごとの概説を示す。なお、ここで扱う遺構については帰属時期の明確となったもののみを扱っており帰属時期が不明確なもの、帰属時期に伴う遺物の出土が認められなかった遺構については除外してある。また、出土した遺物としては縄文時代早期末に帰属する土器(外 - 1)が最古段階に位置し、続いて前期末(外

- 2 · 3)、中期後半 (外 - 4 ~ 7) と変遷するが、当 該期に帰属する遺構の検出に至らなかったため今回は 省いている。

Ⅰ期 (Ia・Ib期): H-7・9・10・12号住居址が該当する。H-10号住居址は炉が伴う住居址である。H-9・12号住居址は調査区外に大半が及ぶため炉の検出には至っていないが、長軸方位が近似する点、出土遺物から得られる帰属年代が一致する点を考慮し当該期に帰属するものと考えた。H-7号住居址はHr-FAの一次堆積層が認められる住居址である。今回の調査においてはカマドが付設される住居址としては

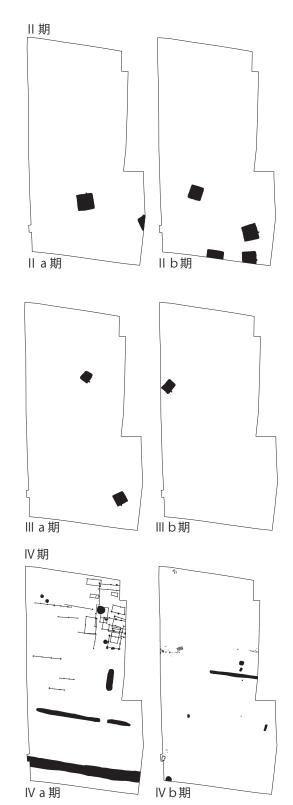


最古段階に帰属する。出土遺物から H-9・10・12 第64図 海竜寺Ⅱ遺跡における遺構変遷(1)

号住居址は5世紀第3四半期、H-7号住居址が5世紀第4四半期に帰属すると考えられる。

Ⅱ期(Ⅱ $a \cdot \Pi$ b 期): $H - 1 \sim 5 \cdot 13$ 号住居址が該当する。出土遺物からいずれも 6 世紀代 1 四半期に帰属すると考えられるが、 $H - 2 \cdot 5$ 号住居址は他の住居址よりやや古手の様相を示すことが指摘されている。カマドの付設位置や、住居址の主軸方位がそれぞれの段階で一致することはそのことを傍証するものと捉えられる。

Ⅲ期(**Ⅲ** a・**Ⅲ** b 期): H - 6・8・11 号住居址が該 当する。出土遺物から H-11 号住居址が 9世紀第 3四半期、H-6号住居跡が9世紀第4四半期、H-8号住居跡が10世紀後半に帰属すると考えられる。 Ⅳ期 (\mathbb{N} a · \mathbb{N} b 期): \mathbb{H} T $-1 \sim 12$ 号掘立柱建物址 · 1~11 号ピット列、D-3·18·44·76·81·83· 107 号土坑、 $M-1\cdot 4\cdot 6\cdot 8\cdot 9$ 号溝、 $S-1\sim 6\cdot$ 15・20・23 号配石遺構が該当する。 埋没土に As-B を 含み As-A を含まない遺構を当該期とした。遺構の切 り合い関係から、IV a 期(HT 1 ~ 12 号掘立柱建物址、 $1 \sim 11$ 号ピット列、D $-76 \cdot 81 \cdot 83 \cdot 107$ 号土坑、 $M-1 \cdot 4 \cdot 6 \cdot 8$ 号溝)、Nb 期($D-3 \cdot 18 \cdot 44$ 号土坑、M-9号溝、S-1~6・15・20・23号配 石遺構)の2時期に細分される。掘立柱建物址・ピッ ト列については重複関係から数回の建て替えが想定さ れるとともにIVb期に帰属するものもあることが考え られるが、今回の調査ではそこまで細分するには至ら なかった。IVb期に帰属するD-18号土坑、S-1号配石遺構はそれぞれIV a 期に帰属する溝と重複し切 り合い関係から D-18 号土坑・S-1 号配石遺構が 新しいことからIVb期に帰属するものと判断した。D - 3 号土坑では漆の塗られた茶臼(D3-3)が出土 しているが、S-20号配石出土のものと接合したこ とから両遺構はほぼ同時期に帰属するものと判断され る。Ⅳ期の帰属時期については出土した遺物から15 世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第65図 海竜寺Ⅱ遺跡における遺構変遷(2)

V期: D $- 4 \cdot 6 \cdot 7 \cdot 9 \cdot 13 \cdot 21 \cdot 22 \cdot 25 \cdot 27 \cdot$

28・30・32 ~ 34・36・39 ~ 41・43・46 ~ 48・51・55 ~ 62・65 ~ 70・72・76・91・92・95 ~ 98・100・101・104・105・109 ~ 126・138・148・149 号土坑が該当する。埋没土に As-A を大量に

含むものである。他の遺跡の調査事例を鑑みると As-A の復旧溝と考えられる。

以上、今回の調査で得られた結果をもとに遺構変遷を概観した。 I 期における住居址は調査区の北側に、II 期における住居址は南側に分布する傾向がみられる。調査区の東・西・南側は急斜面となっており台地の縁辺部に時期を経て集落の形成が推移していった様子が看取される。III 期では遺構数の減少が認められ当該期に帰属する遺構は住居址を除いて今回の調査では確認されなかった。IV 期は遺跡名に冠されている海竜寺に関わる時期となる。今回の調査で検出された遺構はその規模や内容から海竜寺そのものではなく、海竜寺に関連した何らかの施設であった可能性が考慮される。ただし、M-6号溝出土の石塔(M6-14)や漆の塗布された茶臼(D3-3)に代表される寺や館の存在を想起させる遺物の出土は看過することはできず、本遺跡地近隣に海竜寺が存在していたことを示唆するものといえよう。 V 期では As-A の復旧溝が多数検出されている。これらの土坑の長軸は前代のIV 期における溝の走行方向に平行するか直行するものである。これはIV 期における地割が V 期まで踏襲されていたことを示すものと考えられる。

2 カマドについて

ここでは、本稿のV-2において記述したカマドについての事実記載に補足を加えカマドの構築法および構築手順に関する試案と各カマド($H-1\cdot 2\cdot 4\cdot 5\cdot 7\cdot 13$ 号住居址)の規模について、その計測値及び計測箇所を示すこととする。

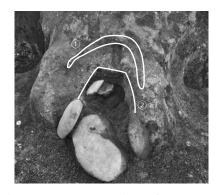
・カマドの構築法について(試案)

 $H-1\cdot 2\cdot 4$ 号住居跡の調査結果からカマドの構築手順を想定することが可能と考えられる成果が得られた。H-4 号住居跡では、カマド袖石から煙道に向かって台形状に検出された燃焼室の被熱痕とは別に、袖石(燃焼室)の外側に広がる被熱痕が認められた。この被熱痕は検出状態からカマド燃焼室構築以前に何ら

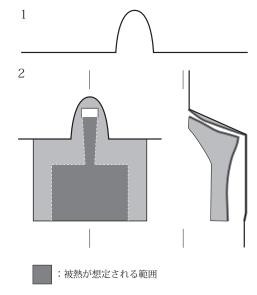
かの理由で生じたものと考えることができる。そこで、この被熱痕をカマド構築時にカマド構築材やカマド構築 箇所の水分を除去するために空焚きを行った痕跡と想定 してカマドの構築手順について検討を試みたい。

1:カマド煙道の位置を決める。カマド煙道についてはその位置や形状を含めて住居の上屋構造との関係を検討する必要があるが、今回の調査では上屋構造を検討するまでには至らなかった。

2:構築材を用いて煙道及びカマドの外形を造作する。 この際に煙道及び燃焼室となる箇所の空間をどのように 保持していたかは今回の調査では明らかにすることがで きなかった。この段階で一度火をおこし空焚きを行った ものと想定される。また、この際に生じた被熱痕が第 66 図①であると考えられる。

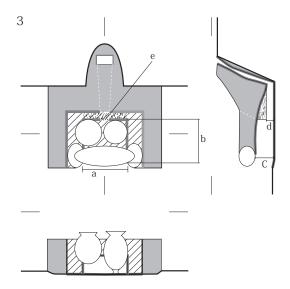


第 66 図 H - 4 号住居址カマドに おける空焚きの痕跡



第67図 カマドの構築手順(試案)(1)

3:カマド芯材や燃焼室を構築するための粘質土を加え る。この際には2の段階で燃焼室天井部としていた箇所 を破壊した後、芯材などを加え再度燃焼室を構築してい る様子が堆積土の状態から看取された。ここで構築され た燃焼室を使用した際に生じた被熱痕が第66図②であ る。焚口天井部及び袖部の芯材には河原石が用いられて いた。H-2号住居跡では右側の甕をカマド右袖にはめ 込んでいる状態が確認された。燃焼室幅は非常に狭く、 甕2個体を設置すると燃焼室内の空間が埋まってしまう ような状況であった。この点については燃焼室天井部の 強度の保持と密接な関連があることが想定される。甕の 法量を燃焼室幅に合わせ、煮炊きに用いる甕も部材の一 部として使用することにより構築材(粘質土)のみで保 持する天井部の空間を最小限としカマド燃焼室の強度を 図った結果と捉えられる。燃焼室と煙道の接続部には土 を充填し(充填土)、煙道の入り口を造作したものと考 えられる。H-1・2・4号住居址では明らかに煙道部



: 燃焼室を形成する構築材

: 充填土

第68図 カマドの構築手順(試案)(2)

から流入した堆積土とは異なる土が堆積していた。H-2号住居跡では甕の出土状態から燃焼室と煙道接続部の天井が遺存していたことを鑑みるとこれらの土(充填土)はカマド使用時にカマド構造の一部として存在していたものと考えられる。この充填土による煙道部分の空間保持をどのようにしていたかについては今回の調査で明らかにすることはできなかった。

カマド計測値について

えられる。

以上のカマド構築手順を勘案し、カマド計測値について第69図で示した箇所を計測した(第27表)。 既往の調査における計測値には少なからず空焚きの被熱痕を燃焼室として捉え計測したものがあることが考

遺構名	焚口幅(a)	焚口高さ(c)	燃焼室奥行(b)	煙道口高さ(d)	煙道口幅(e)
H-1号住居址	37.0	27.0	56.0	11.0	17.0
H-2号住居址	_	<20.0>	32.0	8.0	_
H-4号住居址	30.0	20.0	42.0	12.0	18.0
H-5号住居址	_	_	42.0	23.0	16.0
H-7合樹居址	<40.0>	<20.0>	42.0	10.0	_
H-13号住居址	33.0	_	<56.0>	_	_

第27表 カマドの計測値(単位:cm)

3 中世の板鼻-海龍寺を中心として-

本稿は、海竜寺 II 遺跡の中世遺構について、その成立における歴史的背景を整理すること目的とし、 文献資料等により考察を行うものである。第1章では、中世を通じて都市的な場として発展した板鼻 について、交通・政治・文化の観点からその特徴について述べた。第2章では、関東管領上杉顕定と、 板鼻及び海龍寺の関係について記述した。中でも第1節では、山内上杉氏の各拠点の中での板鼻の位 置づけと、顕定が板鼻を本拠としていたと考えられる時期について考察した。第2節では、海龍寺の 創建および存続年代と、史料から読み取れる当時の板鼻の空間構造について考察した。

以下の論考の前提として、現在の安中市板鼻を含む地域は、中世においては高崎市八幡町を中心とす

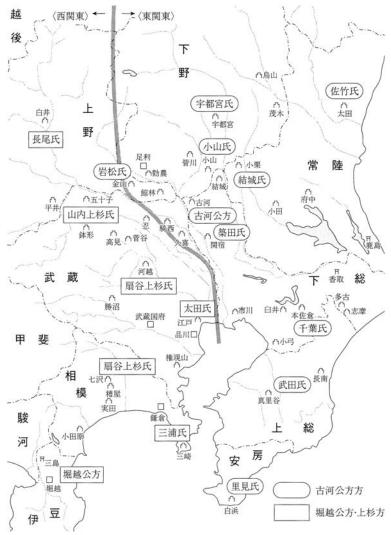
る八幡荘の一部であったこと、また、八幡町も含めた現在より広い地域を板鼻と呼称していたことを指摘しておきたい。これにより、本稿における板鼻も、八幡町を含む一定領域を指し示すものとして用いている。なお、文中で示した史料の多くは『安中市史 第四巻 原始古代中世資料編』により、【安史 4・(資料番号)】のように省略して記載した。

1. 都市的な場「板鼻」の形成と発展

板鼻は古くから交通の要衝であった。古代東山道は碓氷峠を越えて坂本、野後(安中市上・下野尻)、 板鼻西部、烏川

を経て、更に高崎市北部を貫いて、上野国府(前橋市元総社町)方面にのびており、中世においても、引き続き利用されていた(注 1)。また、『宴曲抄』には、児玉・雉ケ岡・山名・倉賀野・衣沢・末野・差出・豊岡・坂鼻(板鼻)・松井田の地名が見られ、善光寺道の道筋がうかがえる【安史 4・四六】。さらに謡曲『鉢木』にうたわれている、碓氷川から烏川を経て佐野の渡しへと至る河川交通も存在していた【新編高崎市史 資料編 4 中世 II・第三部参考資料 九】。これら主要交通網の結節点として、早い時期から宿が形成されていたとみられる。

また、板鼻は、安達氏以降継続的 に上野国守護権力の所在地となって おり、守護所が置かれていたと考え られている。鎌倉幕府の有力御家人 である安達景盛は、元久元年(1204) 頃と見られる史料により「上野国板 鼻別宮預所」であったことが知られ る【安史4・三○】。また、飽間太 郎(安中市秋間)を従えるなど【安 史4・三一】、西上野に支配を広げ ていた。南北朝期においても、上野 国司・守護を兼任した新田義貞の拠 点が置かれていたことが知られてい る【安史4・五五、五六】。上野国 守護に任じられ京都から下向した上 杉憲顕は、建武4年(1337)11月 に「八幡荘已下」の沙汰を命じられ る【安史4・五八】。以後、上野国 守護職は上杉氏が世襲してゆく。応 永3年(1396)に上杉憲定が安堵 された上野国内の所領は西上野に偏 在しており、この地域が上杉氏の権 力基盤であったことがうかがえる 【安史4・一二三】。上杉氏も板鼻に



第69図 享徳の乱関係図(森田真一『上杉顕定 古河公方との 対立と関東の大乱』戎光祥出版 2014)より転載

拠点を置いていたと考えられるが、中でも上杉顕定は、長尾景春の乱により五十子陣が崩壊して以降の 戦乱の中で、板鼻に本拠を定めたと考えられる(注 2)。

文化的側面について言えば、弘安 3 年(1280)に一遍が開山したとされる聞名寺があり、一遍が用いた笈が所蔵されている。時宗は遊行による布教を行ったことから、その教線は当時の街道に沿って伸びており、交通の要衝である板鼻には、早期に同派の寺院が設けられたのであろう(注 3)。上杉顕定は、文亀 2 年 (1502) および永正 3 年 (1506) に、生母である妙皓禅定尼の回忌法要を海龍寺で執り行った【安史 4・一四八】【信濃史料第 10 巻 212~221 頁】。この頃には、板鼻における連歌会の開催も確認されている【安史 4・一四六、一五〇】(注 4)。他にも、天文年間(1532~1555)に八幡八幡宮境内に開かれた長伝寺のように、中世からの由緒を持つ寺院の存在は、往時の隆盛をうかがわせるものである。

2. 上杉顕定と板鼻・海龍寺について

今回の発掘調査では、永正3年8月29日の紀年銘をもつ石塔が出土した。これは、8月28日に月山皓大師の七周忌を海龍寺で行った(『玉隠和尚語録』)翌日のことである。この月山の回忌法要との関連は定かでないが、文字が朱で書かれていることから、逆修供養の可能性が考えられるだろう。この石塔も含め、寺院の存在を思わせる遺物が出土していること、また、かわらけの年代観(15世紀後半~16世紀前半)と存続年代がおおよそ一致することから、史料上にみえる「海龍寺」関連遺跡であると推察される。よってここでは、当該期の板鼻および海龍寺について、上杉顕定との関係においてなされた先行研究の成果をまとめながらみていきたい。

(1) 山内上杉氏の拠点について

はじめに、上杉顕定の生涯について触れておく。顕定は、享徳3年(1454)に越後守護上杉房定の 息子として誕生した。文正元年(1466)、関東管領の上杉房顕が死去すると、越後上杉家から山内上杉 家に養子に入り関東管領職を継いだ。この頃関東は、古河に拠り東関東の諸氏に支えられた足利成氏と、 五十子を拠点として西関東の勢力や幕府の後ろ盾を得た上杉氏が争う、享徳の乱の最中であった。

文明5年(1473)に長尾景信が亡くなったことをきっかけとして、長尾景春の乱が起こった。文明9年(1477)1月、景春に五十子陣を攻め落とされた上杉諸将は、上野国内へと撤退した。確かな時期は不明だが、文明10年(1478)7月以降に、景春から奪還した鉢形に顕定が入城したという。文明14年(1482)11月、幕府と古河公方成氏との和睦が成立し(都鄙合体)、享徳の乱は終結した。

長享元年(1487)、山内上杉氏と扇谷上杉氏の抗争である長享の乱が勃発する。西関東を舞台に両上杉氏が大きく南北にわたって軍事行動を行い、特に、山内方の鉢形と扇谷方の河越との間で合戦が頻発した(注 5)。明応 6 年(1497)、扇谷上杉氏の本拠地である河越城に対峙する上戸に陣を構え、ここに古河公方足利政氏を招いた。政氏はすぐ古河へと帰還するが、上戸陣は永正 2 年(1505)まで拠点として機能していた(注 6)。その永正 2 年には、河越城を包囲し、扇谷上杉朝良と和睦が成立したことにより、長享の乱は終結した。

永正 4 年 (1507)、顕定の実弟である越後守護上杉房能が、守護代の長尾為景によって殺害された。 これにより、永正 6 年 (1509) 7 月から顕定は越後に介入する。永正 7 年 (1510) 6 月 20 日に、越後 府中から上野国に撤退していた顕定は、長森原 (新潟県南魚沼市)で敗れ自害した。

このように顕定の生涯を追ってゆくと、享徳の乱・長享の乱・永正の乱と絶えず戦乱の中にあり、各

地を転戦していたようだ。そして、古河に対しての五十子、河越に対しての鉢形・上戸のように、主に 軍事的要因により設定された拠点がよく知られている。対して、板鼻も山内上杉氏の拠点の一つと考え られているが、そういった性格は想定しにくい。顕定段階の山内上杉氏は、おおむね上野・伊豆・武蔵 を守護分国とし、その他の国にも守護領を有していた(注7)ようだが、中でも上野国が本国とされる。 板鼻は、上杉憲顕が「八幡荘已下」の沙汰を命じられて以来の相伝所領であり、本国を領知する上での 基盤であったと評価できるだろう。

森田真一氏の研究によれば、山内上杉氏の拠点として知られる五十子・鉢形・上戸・平井・板鼻について検討した結果、①海龍寺の近辺に上杉氏の館を確認し、いずれかの場所で饗応や儀式が行われたこと②上杉氏の館では連歌会が行われたことを確認し、さらに板鼻以外の同氏の拠点では、守護所として適切な場所を見出し得なかったことから、板鼻に山内上杉氏の守護所が所在していたとみてよかろう、としている(注 8)。また、享徳の乱以降少なくとも 16 世紀初頭まで板鼻が守護所として機能し続ける一方で、それと複合して五十子陣や鉢形城、上戸陣なども機能していたこと。平井は、このような変遷の最終段階で本拠地となったと指摘している(注 9)。第 1 章で触れたとおり、文明 9 年(1477)1 月に五十子陣が崩壊して以降、板鼻が山内上杉氏の本拠となるのであれば、その存続期間は、本拠が平井へと移るまでの数十年間である。すなわち、15 世紀後半~16 世紀初頭において板鼻は、山内上杉氏の拠点の中でも、特に重要な位置を占めていたと言えるだろう。

(2) 海龍寺について

海龍寺は、南北朝期に活動した上杉憲顕の息女の芳山了薫が開基とされる。したがって、海龍寺の創設時期はおおよそ 14 世紀後半頃であるという。また、開基でないにも関わらず上杉顕定が「海龍寺殿」と記されるのは、海龍寺と深い関わりがあったことが想定されるという(注 10)。山内上杉氏は、永享の乱や結城合戦などの時期を除いて、概ね享徳の乱勃発まで鎌倉を本拠地としていたと考えられる(注 11)ので、顕定が板鼻に本拠を移すにあたり再興したものではないだろうか。海龍寺はその後の文献には登場せず、現在は小字「海竜寺」として名を残すのみである。上杉氏の本拠が平井に移り、さらには上野国から撤退してゆくという歴史的過程の中で廃絶したものと思われる。

顕定は亡母青蔭庵月山妙皓禅定尼の回忌法要を海龍寺で行っている。すなわち、『談柄』にみえる文 亀2年(1502)8月28日と、『玉隠和尚語録』にみえる永正3年(1506)8月28日である。このうち 『談柄』の記述について可能な限り訳すことで、当時の板鼻の景観復元を試みたいと思う。

『談柄』第卅三談 【安史4・一四八】

関東管領上杉顕定、文亀二季壬戌八月廿八日、於上州板鼻庄海龍寺、 御老母青蔭庵月山妙皓禅定尼、十三回忌仏事之次第、

- (a) 一、陞座仏事建長玉蔭和尚、施物万疋、此外馬并小袖、
 - 一、拈香仏事円覚誠仲和尚、施物五千疋、此外馬并小袖
 - 一、安座仏事円覚子明和尚、施物三十貫并馬小袖
 - 一、十刹西堂布旋千疋、
 - 一、単寮布施七貫文、
 - 一、首座巳下蔵主、コレヲ平僧ト云、施物五貫文、

- 一、給待衆布施三貫文、
- (b) 一、仏事奉行長尾能登守、
 - 一、布施奉行先勝寺瑞首座、同尻高左京也、
- (c) 一、当日法座面ノ幕ハカ石、幕ヲタセラルヽ也、彼名字御判代故也、私云、陞座・拈香ノ時ノ氈ニ ハ、梅竹ヲ紋ニ織也、上田侍中管領へ進上ト云也、スクレタル氈也、
- (d) 一、建長・円覚長老三人、同永明和尚・叔悦和尚御宿へハ行器ヲイレラルヽ也、其外ノ僧衆ハ板鼻 道場ノ太鼓ヲ聞テ、彼道場エ衆会スル也、
- (e) 一、長老・西堂・侍者・喝食、管領御館へ一日御招待アリ、乱酒ノ上能登守取リナサル、也、
 - 一、一日顕定御館工喝食・侍者計御請侍仕立魚魚也、
- (f) 一、僧中走廻リハ円覚大雲庵忻甫歓首座也、俗ハ長尾也、同円覚桂昌庵謙首座、俗ハ大石也、 一七日勤行維那、雲頂省但首座也、
 - 一、当日維那ハ円覚長寿庵文宗演首座也、諸山西堂ニテ勤之、当日ハ疏也、
- (g) 一、仏事了テ、一日単尺アリ、題評也、題ハ官路探菊也、子明禾上出サルヽ也、顕定ノ詩モアリ、 執筆ハ建長・円覚ノ侍者・喝食已上七人也、此内喝食両人、何レモ円覚ヨリ出ル也、済薩軒昭 宇梵旵・皈源庵奇文禅才也、奇文十三歳ノ時也、執筆ノ礼トシテ、金縁盆両金扇子、何へモ被 贈也、顕定ノ詩ハ奇文書給フ也、
- (h) 一、顕定ノ御宿ハ依田徳昌軒也、
 - 一、僧中ノ刷ハ依田、
- (i) 一、懺法ノハナベラヲハ貧楽斎啓書記カヽル、也、
- (j) 一、当日座へ顕定モツカセラル、也、客位ノ対面五六人コレアツテ、盛合二小屏風ヲ立テ、座氈ヲ 置ル、也、座へヲン付アルコトハ、大衆付テノ後、ヲンツキアル也、点心茶盆、皆トリ、大衆 不立時、先管領計リヲン立チアツテ、唐戸ノワキ客位ニヲン立チアル時、大衆座ヲ立ツ、先四 首ヲ唐戸ヲ出ル時、各管領ト一礼、管ハ四カシラトー礼アツテ、其儘内座エ入リ玉フ也、其後 大衆座ヲ出ル也、

[(a)~(j)は筆者]

(a) 月山妙皓禅定尼の十三回忌(三回忌の誤記)(注 12) には、建長寺の玉蔭英璵や円覚寺の誠仲中諄らの高僧が招かれていた。その他にも大勢の僧などが参加していたため「一時ノ盛事」であったという(注 13)。(b) 仏事奉行は長尾能登守、布施奉行は先勝寺の瑞首座と尻高左京が務めた。(c) 当日、力石氏が法座面の幕を張った。名字(達筆)であったのは御判代(右筆)を務めていたからである。(d) 建長・円覚の長老など高僧の宿には行器(ほかい)を入れた。その他の僧たちは、太鼓の音を聞いて板鼻道場へ衆会した。(e) 長老以下の僧たちは、管領御館に一日招待された。乱酒となり長尾能登守が取り成した。一日顕定御館に喝食・侍者ばかりが招待された。(f) 僧中走廻りは、長尾氏と大石氏が務めた。七日勤行の維那は雲頂省但首座が務めた。当日の維那は文宗演首座が務め、諸山の西堂が勤行をした。当日の仏事は疏であった。(g) 仏事が終わり、一日題評があった。顕定の漢詩もあり、当時13歳の奇文禅才が執筆の礼として金縁盆と両金扇子を賜った。(h) 顕定の宿は依田徳昌軒の屋敷であった。僧中の「刷」は依田であった。(i) 懺法散花に用いられた花弁は、貧楽斎啓書記が描いた(注 14)。(j) 仏事当日、顕定も座についた。客位の対面5、6人のところに小屏風を立て、座氈を置いて席を設けた。



第70図 海竜寺Ⅱ遺跡位置図 (山崎一作成縄張図 出典:『古城遺跡』安中市教育委員会 1988) に加筆

以上から、仏事が行われた海龍寺を基点として、その周辺に長老らの御宿、板鼻道場、管領御館、顕 定御館、依田徳昌軒の屋敷があったことが確認できる。

次に、上記の各施設の位置関係を具体的に検討してみたい。伝承等に基づいた推論的考察ではあるが、 考古学的知見と組み合わせて歴史像を描くためには必要な作業だと考えるものである。まず、本遺跡近辺に海龍寺が存在し、付近には長老らの宿があった。その他の僧も含め、「一時ノ盛事」と表現されるほどの人数が集ったのであるから、僧坊の立ち並ぶ風景が想像される。川島一郎氏によれば、小字姥懐方面から取勝社の西南方面を囲うように流下する谷川を道場川と呼び(注 15)、また、小字古城 1583番地には徳定稲荷祠があり、徳定屋敷の伝承地であるという(注 16)。同地番を含む一帯は昭和 61 年 に発掘調査が行われ(古城遺跡)、遺物年代から $14 \sim 15$ 世紀と見られる館址が発見された。管領御館と顕定御館は表記上の違いで同一のものを指していると思われるが、『新編高崎市史』では八幡館(高崎市八幡町字舘)を上杉氏館と推定している(注 17)。いずれにせよ現段階では不明な点が多く、今後の調査成果により具体的な様相が明らかとなることを期待したい。

- (注 1) 『新編高崎市史 通史編 2 中世』(高崎市 2000) 365~366 頁
- (注 2) 『安中市史 第二巻 通史編』(安中市 2003) 227 頁
- (注3) 同 207 頁
- (注 4) 森田真一氏によれば、『園塵』第一(1482~84頃)にある1句についても板鼻での発句とされる。(同著「山内上杉氏の拠点について-上野国板鼻を中心として-」(『群馬県立歴史博物館紀要』第29号 2008)111~113頁)
- (注5) 森田真一「上杉顕定 古河公方との対立と関東の大乱」(戎光祥出版 2014) 87 頁
- (注 6) 前掲(注 4) 森田論文 116 頁
- (注7) 前掲(注5) 森田著書 141 頁
- (注8) 前掲(注4) 森田論文 118 頁
- (注9) 同 118 頁。また、顕定没後に平井が本拠地となってゆくが、その時期としては永正 9 年 (1512) 以降であると見られている (前掲 (注1) 201 頁)。その上で森田氏は「平井が確実な史料で確認できるは、大永年間 (1521 ~ 27 年) ではなかろうか」と指摘している。(前掲 (注4) 森田論文 117 ~ 118 頁)
- (注10) 同 107頁
- (注11) 同 114頁
- (注 12) 同 107~109 頁
- (注13)『談柄』第廿一談に、「一、公方ゴ他界ノ時、役者アマタイル也(中略)昔季、板鼻ニテ可淳管 領ゴ老母ノヲン仏事ノ時ハ、安座、点眼ハ、子明禾上、拈香ハ誠仲禾上、陞座ハ玉隠禾上也、 陞座ノ布施百貫、拈香五十貫、西堂単寮ハ十貫、其下平僧ハ五貫、給侍ノ侍者喝食モ五貫、一 時ノ盛事云々(下略)」とある。
- (注14) 今泉淑夫「『談柄』について」(『日本中世禅籍の研究』吉川弘文館 2004) 207 頁
- (注 15) 川島一郎『中仙道板鼻宿』(板鼻史蹟保存会 1972) 12 頁
- (注 16) 同 191 頁。および、同著『板鼻昔物語』(板鼻郷土史発刊会 1961) 65 頁
- (注 17) 『新編高崎市史 資料編 3 中世 I 』(高崎市 1996) 26~27 頁

【参考文献】

『古城遺跡』(安中市教育委員会 1988)

『安中市史 第2巻通史編』(安中市 2003)

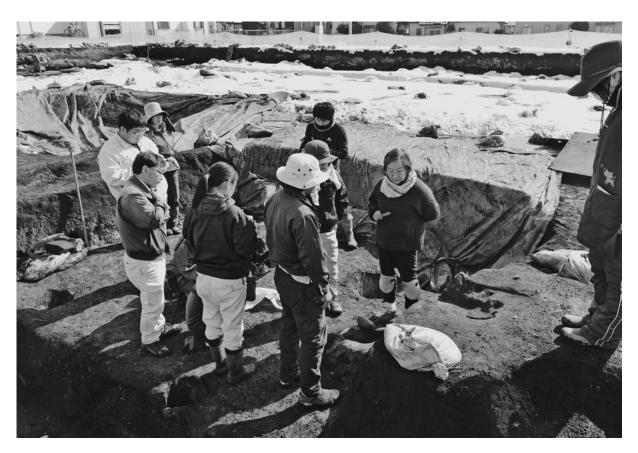
『新編高崎市史 通史編 2 中世』(高崎市 2000)

森田真一『上杉顕定 古河公方との対立と関東の大乱』(戎光祥出版 2014)

森田真一「山内上杉氏の拠点について-上野国板鼻を中心として-」(『群馬県立歴史博物館紀要』第 29 号 2008)

山本隆志「西上州における交通と守護権力」(地方史研究協議会編『内陸の生活と文化』雄山閣 1986)

写真図版



H-4号住居址調查風景



調査区全景(上が南東)



H-1号住居址 (西から)



H-1号住居址カマド燃焼室(西から)



H-1号住居址カマド煙道検出状態(南西から)



H-1号住居址貯蔵穴遺物出土状態(北西から)



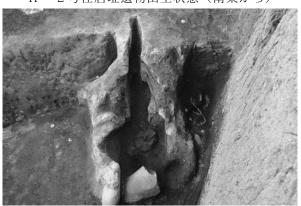
H-2号住居址(南東から)



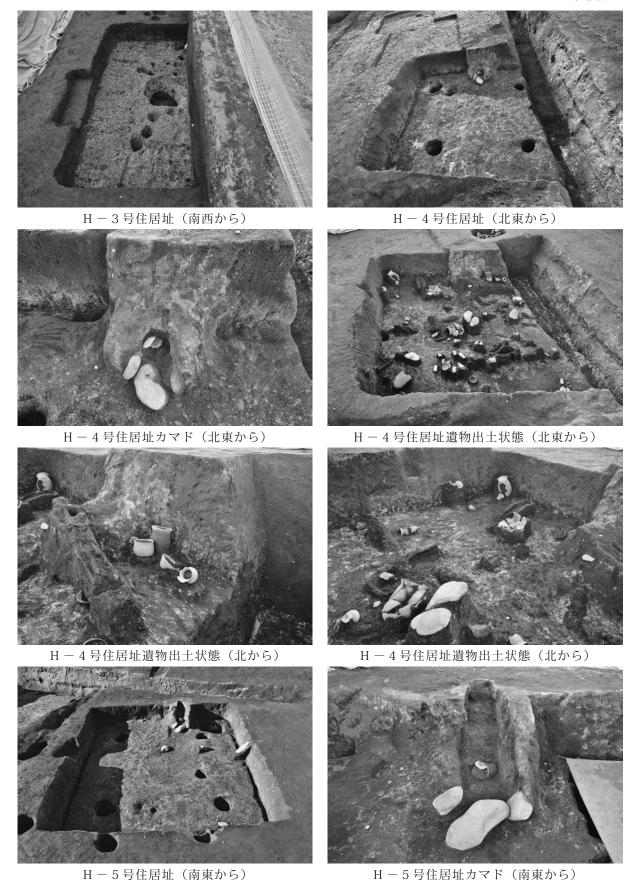
H-2号住居址遺物出土状態(南東から)

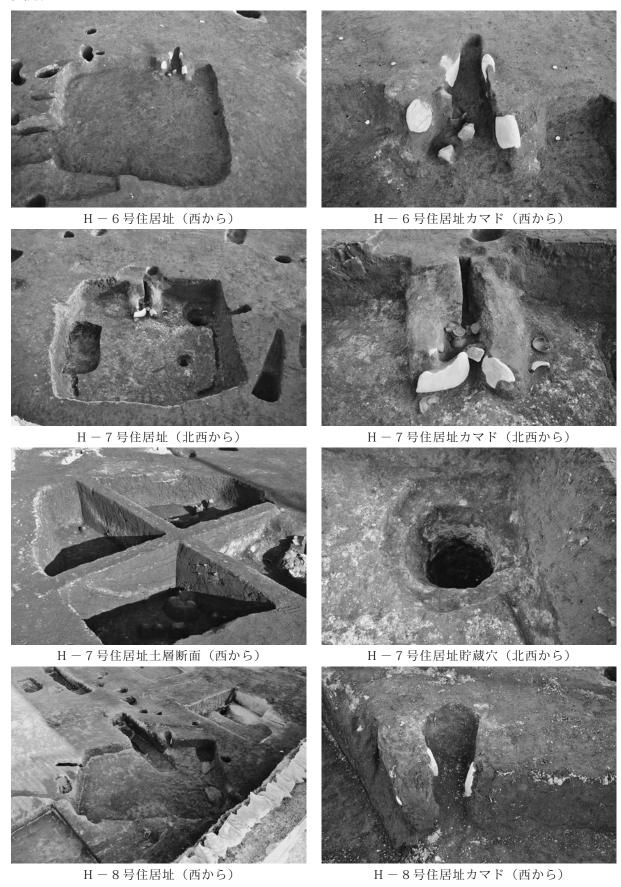


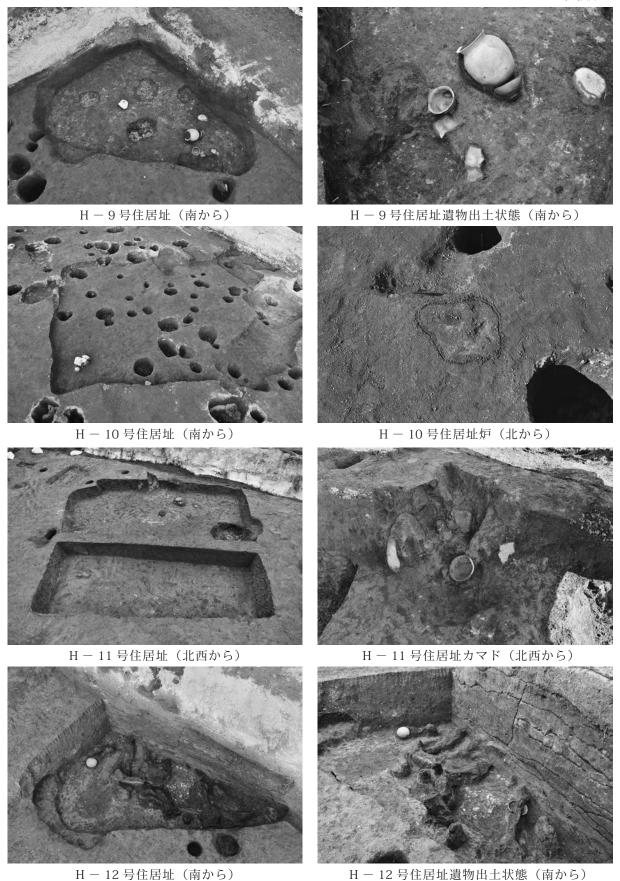
H-2号住居址カマド遺物出土状態(南東から)

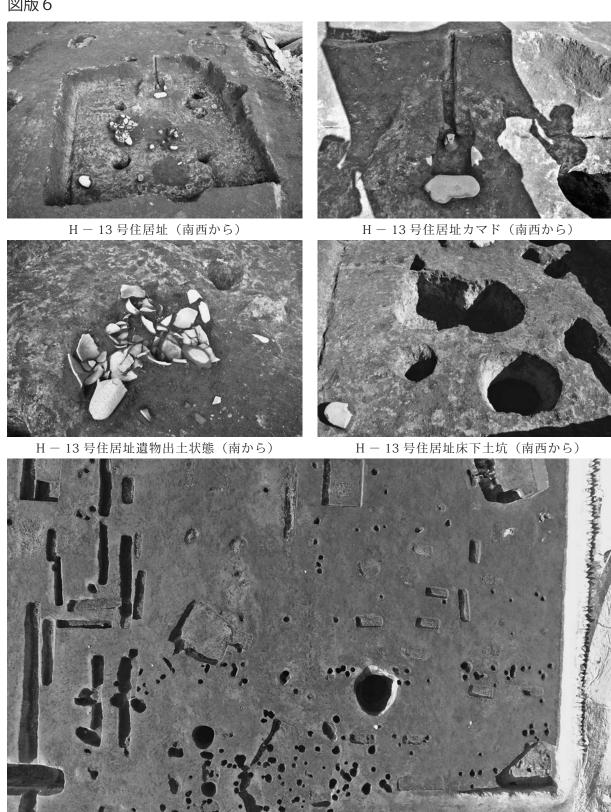


H-2号住居址カマド支脚出土状態(南東から)

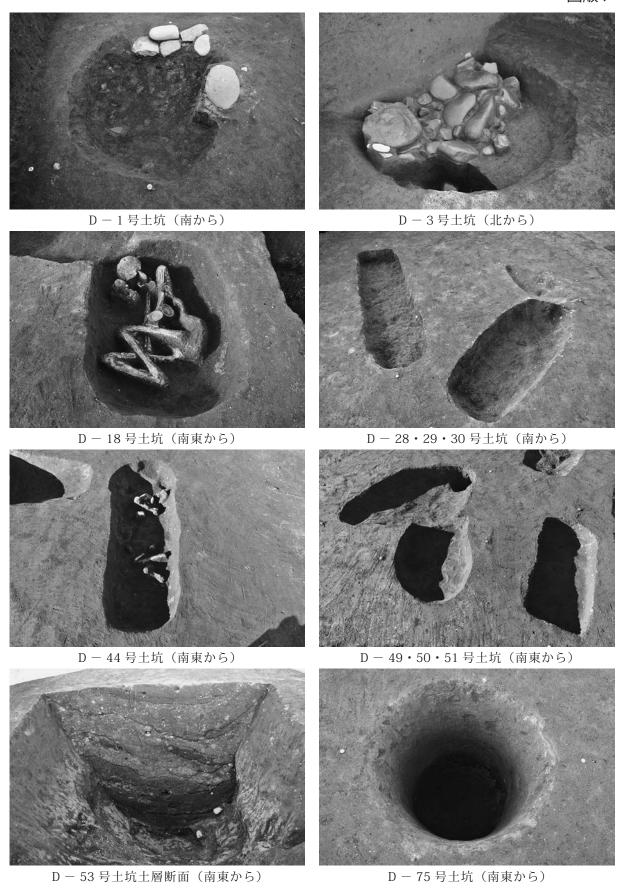






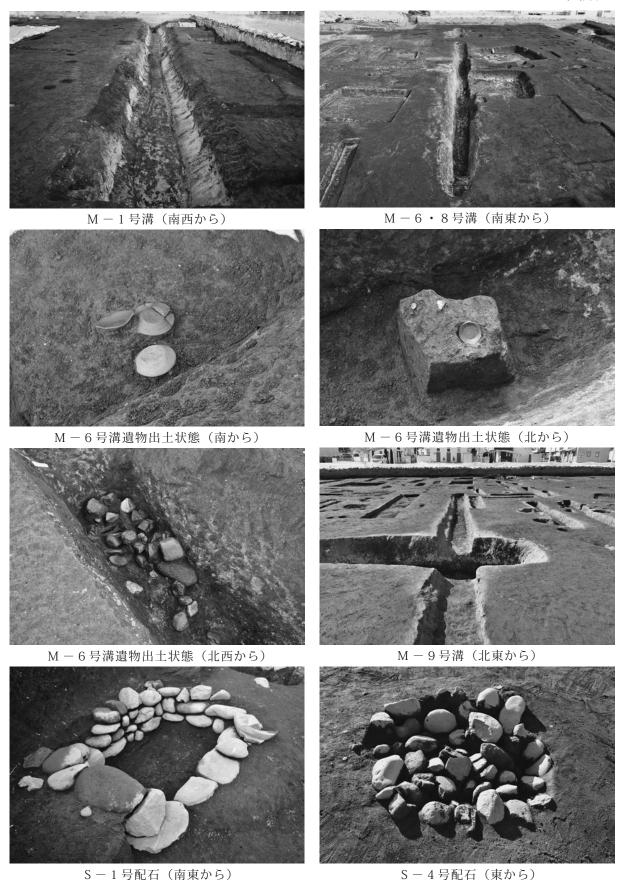


掘立柱建物址群(北東から)



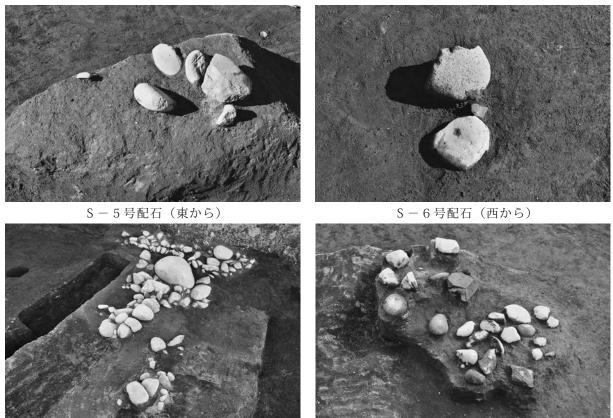


M-1・3・6・8・10号溝、D-53号土坑(上が北西)



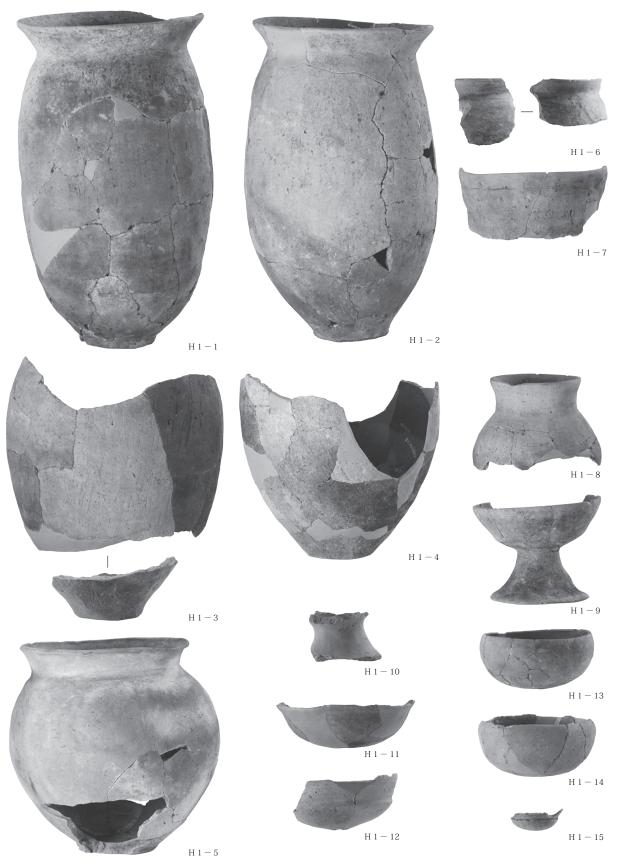


S-2号配石(上が北西)

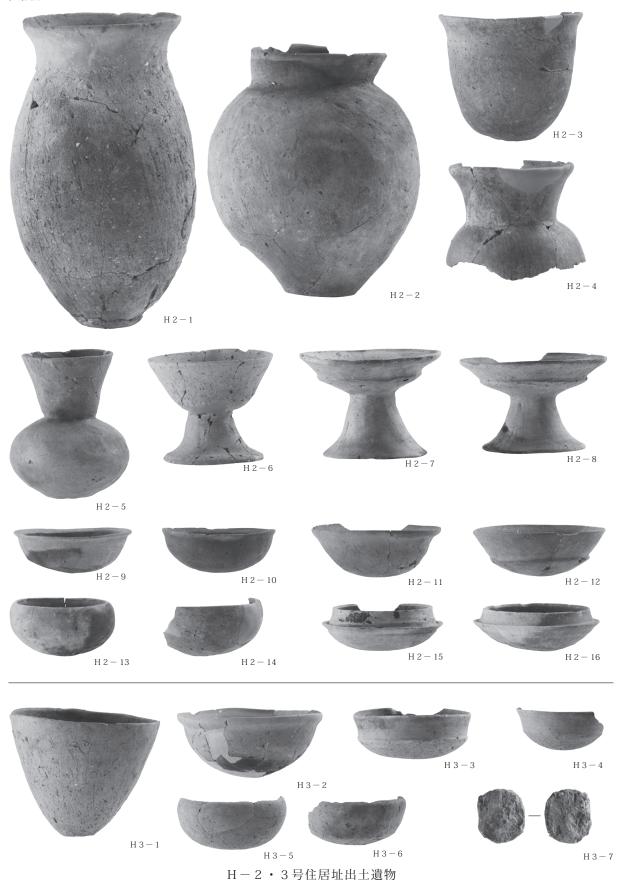


S-15号配石(東から)

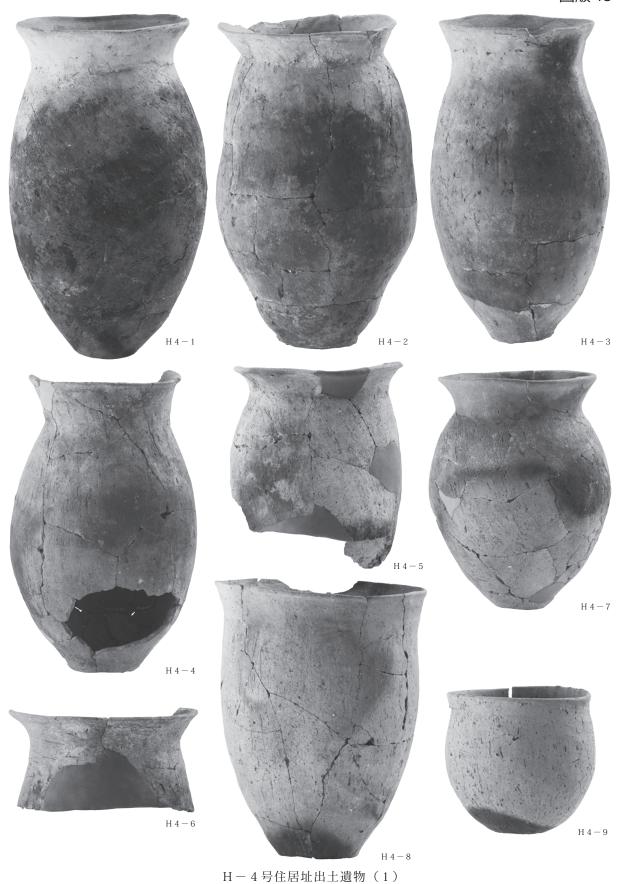
S-23 号配石(南西から)



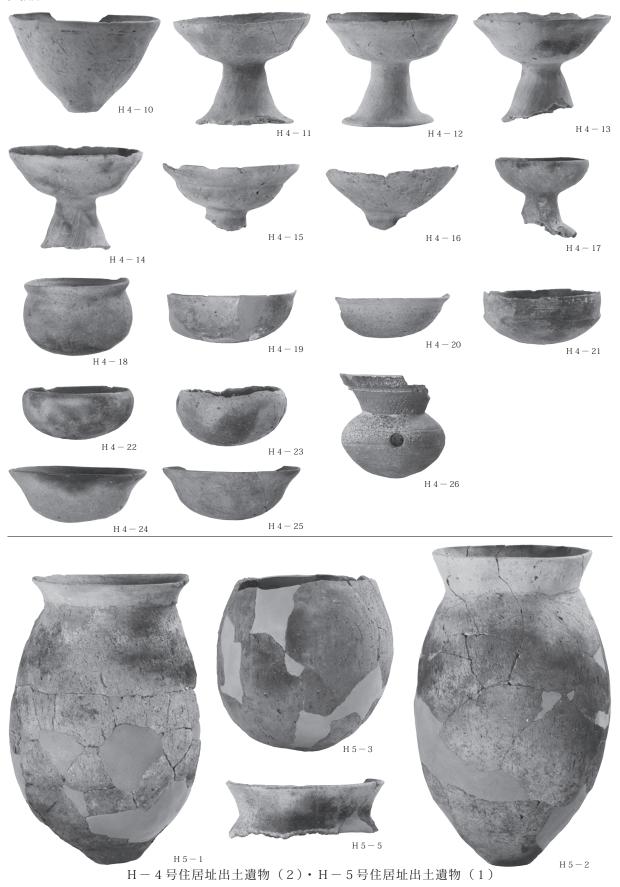
H-1号住居址出土遺物



図版 13

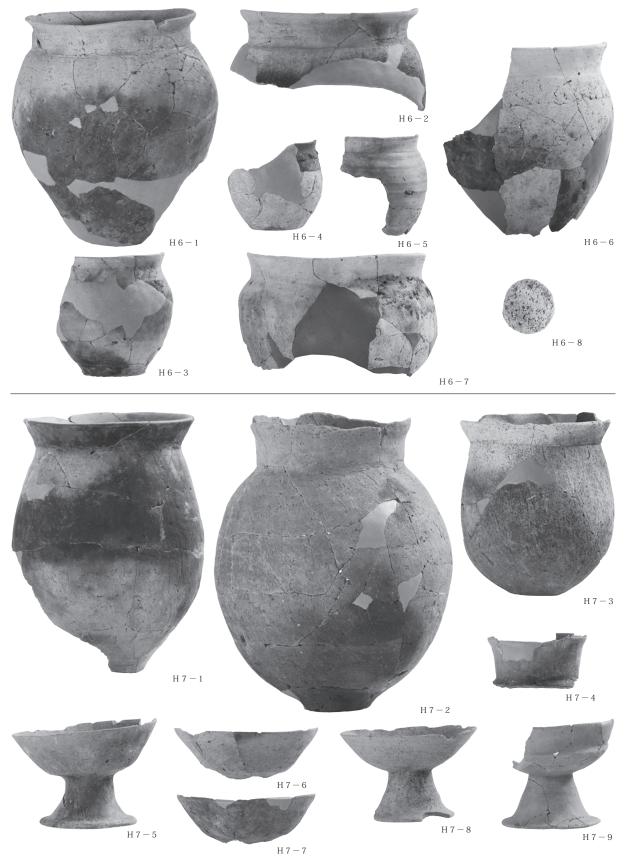


図版 14

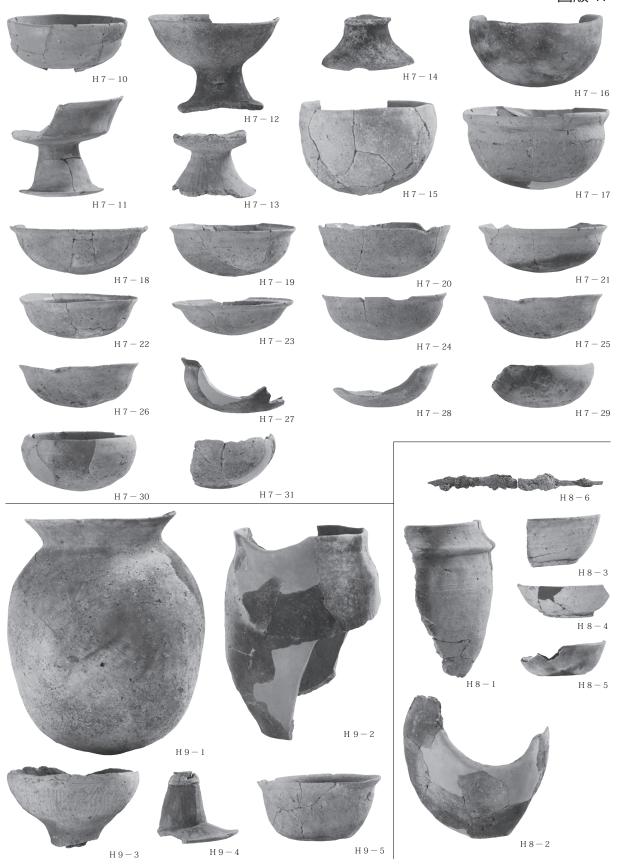




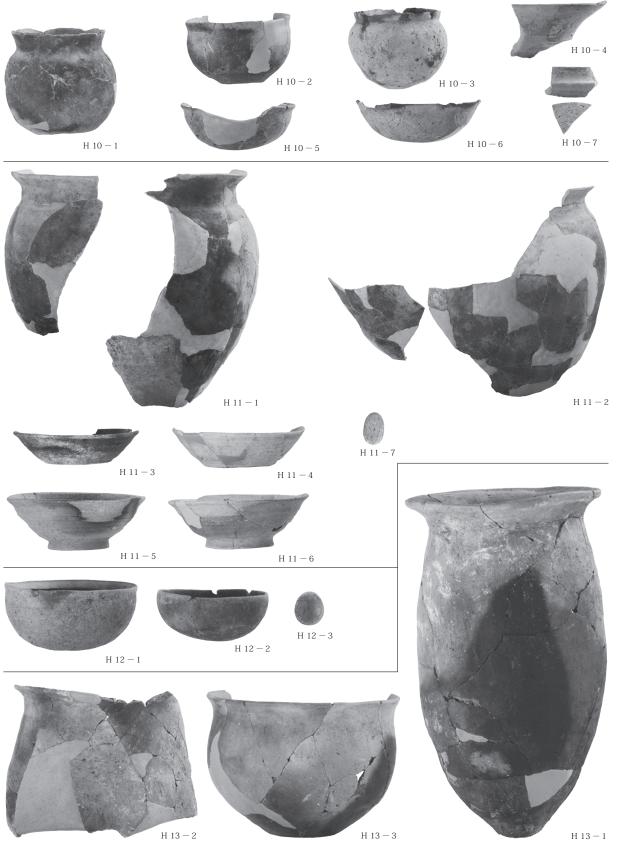
H-5号住居址出土遺物(2)



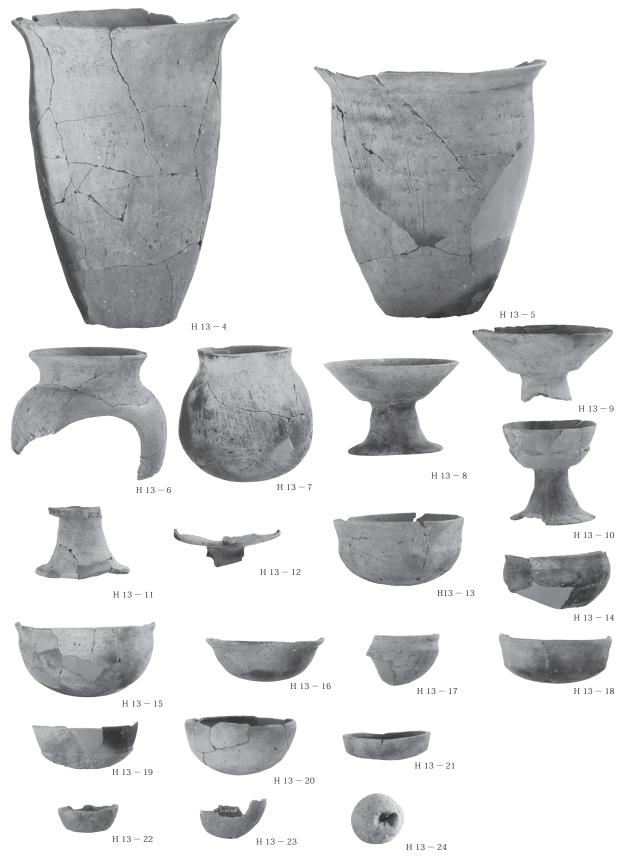
H-6号住居址出土遺物・H-7号住居址出土遺物(1)



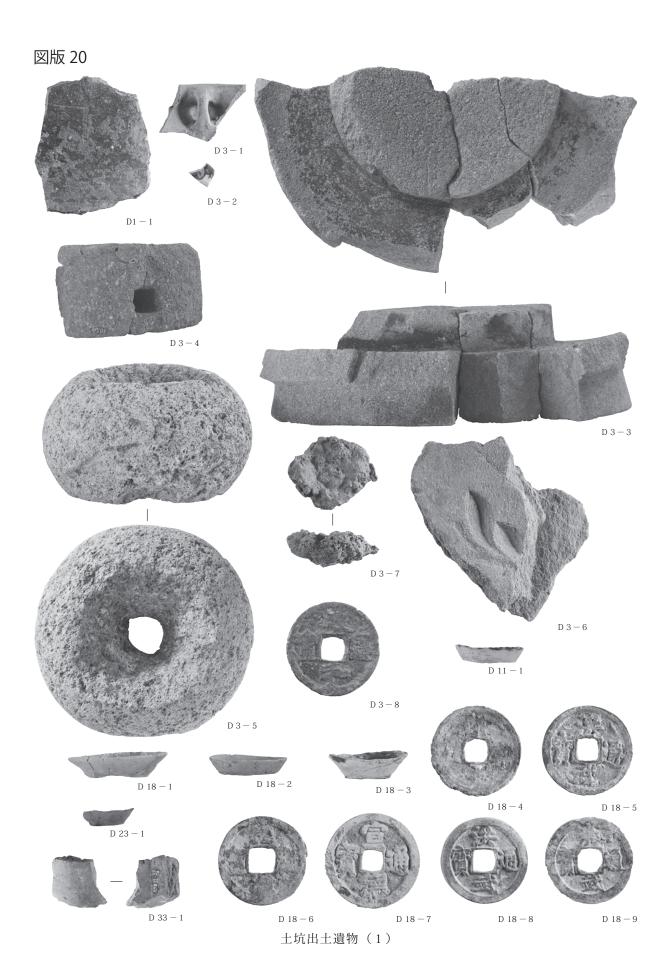
H-7号住居址出土遺物(2)・H-8・9号住居址出土遺物

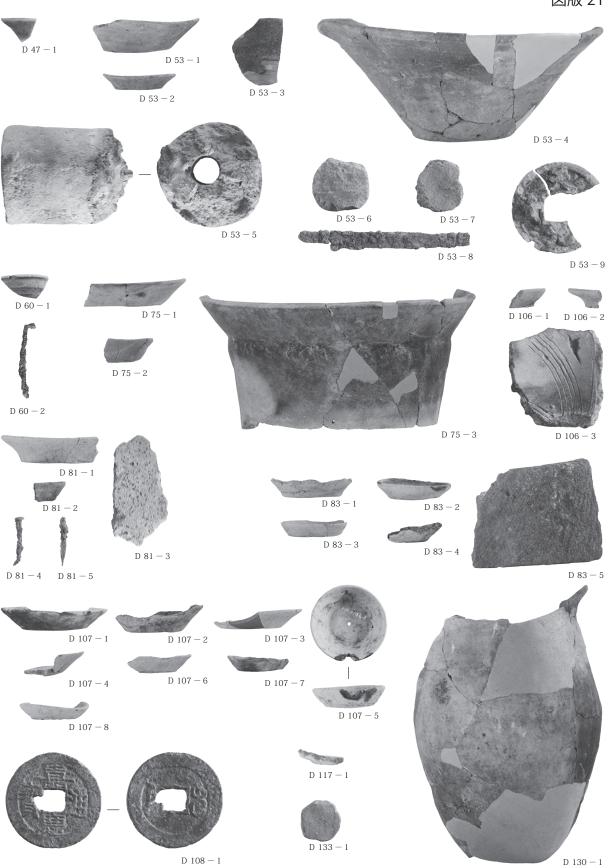


 $H-10\sim12$ 号住居址出土遺物・H-13 号住居址出土遺物(1)

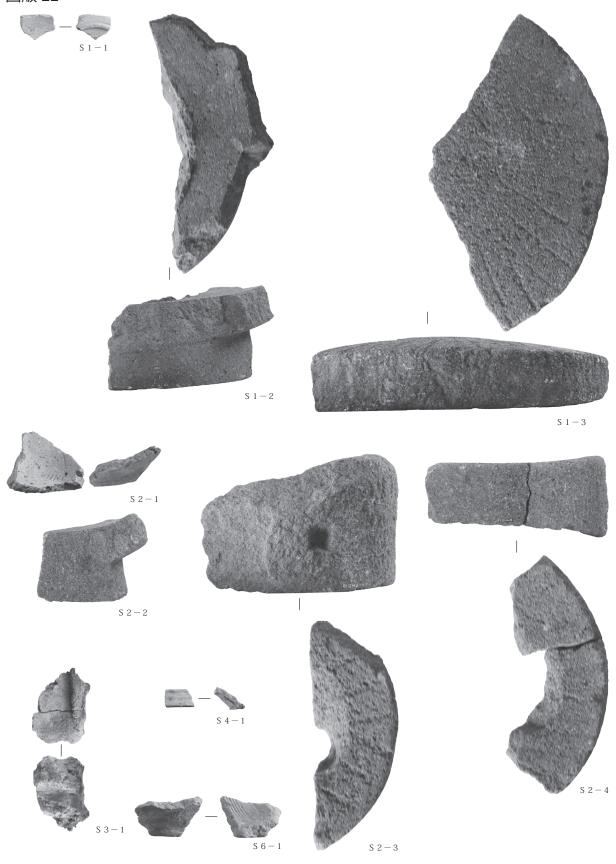


H-13号住居址出土遺物(2)

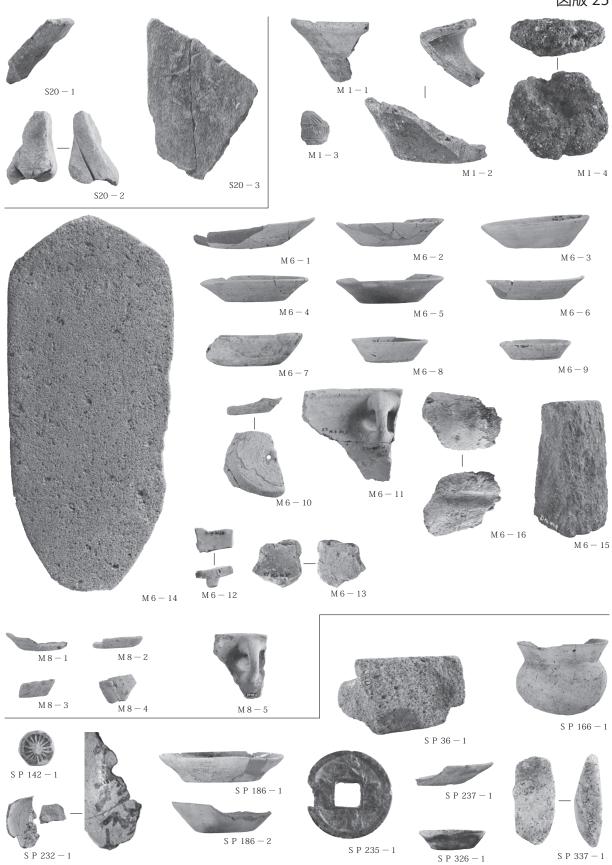




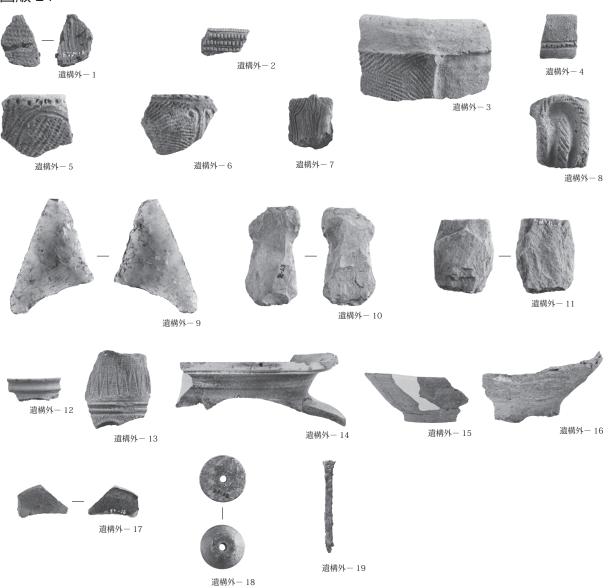
土坑出土遺物(2)



配石遺構出土遺物(1)



配石遺構出土遺物(2)・溝・ピット(掘立柱建物址)出土遺物



遺構外出土遺物

発掘調査報告書 抄録

ふりがな	かいりゅうじにいせき
書名	海竜寺Ⅱ遺跡
副書名	板鼻スポーツ広場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ番号	
編著者名	伊藤順一・南田法正・有山径世・壁崇志・井上慎也
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所
編集機関所在地	〒 379-2146 群馬県前橋市公田町 1002 番地 1 TEL.027 — 265 — 1804
発行年	西暦 2019 年 (平成 31 年) 3月 22 日

所収遺跡名	* りがな 所在地	コード		北緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	o / //	o / //	I内.巨.炒[日]	明县.田馆	
かいりゅうじにいせき 海竜寺Ⅱ遺跡	まんなかしいたばなあざかいりゅう 安中市板鼻字海 竜	102113	369	36° 34′ 41″	138° 92′ 73″	20171113	2,205m²	板鼻スポー
	。 寺1272-1、1273-1、		(E7)			~		ツ広場建設 事業
	1287-1					20180209		7

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
海竜寺Ⅱ遺跡	集落	縄文時代		縄文土器、石器(石鏃・打製石斧)。	
		古墳時代		土師器、須恵器、土製品(土玉)、	
		平安時代	掘丛灶建物址 12 棵	石製品(紡錘車・滑石未成品・磨	良好な状態のカマトを検出。
	館址	中世	ピット列 11 条	石)、鉄製品(刀子)。	海龍寺に関連した施設と考
			配石遺構 9 基	かわらけ、灯明皿、内耳鍋、陶器、	えられる掘立柱建物址、溝
			溝6条	磁器、瓦(丸・平)、土製品(土	(堀)を検出。溝からは朱墨
			土坑 131 基	製円盤)、砥石、臼(茶臼•穀物臼)、	で「永正三年八月廿九日
			ピット 479 基	板碑、五輪塔、石塔、鍛冶関連遺	妙□禅尼」と書かれた石塔
				物(椀形鍛冶滓・鞴羽口)、鉄製	が出土。
				品(刀子・釘・不明品)、銭貨。	

海竜寺Ⅱ遺跡

- 板鼻スポーツ広場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-

発 行 日 平成31年3月22日

編集·発行 有限会社毛野考古学研究所

前橋市公田町 1002 番地 1

安中市教育委員会

群馬県安中市松井田町新堀 245

印 刷 朝日印刷工業株式会社

群馬県前橋市元総社町 67 番地